

令和5年度

名古屋市美術館年報

2 0 2 3

目 次

序	1
沿革	2
展覧会事業	3
1 常設展	3
(1)名品コレクション展	5
(2)常設企画展	12
2 特別展	14
教育普及事業	37
1 教育プログラム	37
1 一般成人対象の事業	38
(1)講演会・解説会	38
(2)コレクション解析学	38
(3)ワークショップ「どこがおもしろい?! —三木富雄《耳》について」	39
(4)館外での講演活動	40
2 子ども対象の事業	40
(1)学校休業日の体験活動の推進	41
(2)芸術と科学の杜	43
3 学校対象事業	44
(1)ボランティアによる学校等団体向け 常設展ギャラリートーク	44
(2)アートカード保管校実績	46
(3)出前アート体験	46
(4)就業・職業体験及び 職場訪問受け入れ	52
(5)その他	53
2 ボランティア	54
(1)ボランティア登録者	54
(2)定例会	54
(3)ガイド活動	55
(4)サポート活動 係の活動	55
3 学生向け優待事業	56
(1)美術館学生メンバーズ	56
(2)高校生サポーター事業	56
4 協力会	57
5 図書室	57
6 出版	58
資料	59
1 収集	59
(1)購入	60
(2)受贈	60
(3)資料収集状況一覧	67
2 保存・修復	68
3 調査・研究	71
4 貸出	73
5 寄附金	76
入館者一覧	77
組織・予算	78
1 組織図	78
2 美術館協議会	78
(1)名古屋市美術館協議会委員	78
(2)名古屋市美術館協議会開催状況	78
3 職員	78
4 運営予算	78

序

PREFACE

名古屋市美術館の令和5年度の活動をまとめた年報を発行いたします。

令和4年11月末からの改修工事を終え、開館35周年を迎えた令和5年度の特別展は、4月15日よりコレクションを「20世紀」という時代を切り口にひもとく「コレクションの20世紀」展から始まりました。続いては、アートとファッションがそれぞれの境界を超えてダイナミックに展開した1920年代ごろを中心に、その様子をたどった「マリー・ローランサンとモード」、9月には、現代社会の問題や美術や伝統文化を独自の視点をもって、人々の意表を突くような手法で表している美術家・福田美蘭の東海地方初の個展を開催しました。12月からは、未完の聖堂として知られ、また建築家ガウディの代表作でもあるサグラダ・ファミリアに焦点をあてた「ガウディとサグラダ・ファミリア展」を開催。5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、徐々に来場者も増え、ガウディ展では、16万3千人を数えました。常設展は名品コレクション展I、II（前期・後期）、IIIを開催。そして特集では、令和4年度から2年計画で修復することになった、東山動物園猛獣画廊壁画を公開で修復し、修復後の3枚を一堂に展示しました。

収集活動としては、本年度は、購入、寄贈作品と資料、合わせて1032点を受け入れ、令和6年3月末現在収集数は9550点となりました。作品では、個展を開催した福田美蘭が当館の所蔵品のステラの作品から着想を得た《説教（フランク・ステラによる）》を購入、ほか24点を受贈しました。ほかに辰野登恵子、中林忠良の版画や郷土にゆかりのある作家の作品を受贈しました。特別資料としては、当館で長く保管しておりました江上明氏が集めた下郷羊雄関連の資料を、本年度正式に受贈しました。こうした郷土ゆかりの作家の資料は、作家研究のみならず、当地の美術活動を研究する上で貴重な資料です。当館の活動にご理解いただき、作品、資料をご寄贈いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

教育普及活動については講堂での催事もコロナ前の参加定員に戻し、多くの方にご来場いただくことができました。福田美蘭展では、ベビーカーを使う年齢の小さなお子様とともに作品を鑑賞いただく「ベビーカートツアー」を休館日に開催し、ご好評いただきました。また、令和5年度は、市立学校の教員を対象に、美術館に親しみ今後の教育活動に活用していただくことを目的として、展覧会の無料鑑賞や鑑賞学習を体験できる「ティーチャーズ・ウィークス」を学校の冬休み期間を中心に実施しました。引き続き、出前アート体験や就業職場体験・職場訪問の受入といった学校向け事業も実施し、出前アート体験では、ICT（タブレット端末）を活用した美術鑑賞授業をさらに発展させていく所存です。

また、名古屋市美術館のユニークベニュー（文化庁が推進する、歴史的建造物や文化施設で、会議・レセプションを開催することで特別感を演出できる会場）事業にも取り組み、夜間のロケーションの中で、コンサートや美術作品を楽しむ企画が開催されました。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症となり、通常の運営体制へ移行することになりました。しかし、不穏な世界情勢や原材料価格や物流費の高騰が美術館運営に影響を及ぼしてきています。また博物館法の改正により、美術館に求められる役割も変化してきています。こうした社会動向を受けながら、開館して36年の美術館が果たす役割を見つめ直し、今後も皆様のご期待に応えられる美術館としてあり続けられるように努力してまいります。引き続き、名古屋市美術館へのご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

令和6年12月

名古屋市美術館

沿革 HISTORY

- 昭和52年12月 「名古屋市基本構想」策定、同構想において美術館建設をめざす
- 昭和56年 1月 市長、年頭記者会見において、美術館の具体化検討を発表
12月 市会、美術館建設のための調査費を議決
- 昭和57年 2月 美術館調査委員会（委員長 豊岡益人愛知県立芸術大学学長）設置、美術館のあり方について諮問
4月 「名古屋市市民文化振興のための基金に関する条例」制定
- 昭和58年 1月 美術館調査委員会「名古屋市美術館（仮称）基本構想について」答申
7月 美術館建設委員会（委員長 伊藤延男東京国立文化財研究所所長）設置
8月 美術館基本設計委託（黒川紀章建築・都市設計事務所）
10月 美術館資料収集審査委員会設置、資料の収集を開始
- 昭和59年 3月 建築基本設計完了
9月 美術館実施設計委託（黒川紀章建築・都市設計事務所）
- 昭和60年 1月 建築実施設計完了
2月 名古屋市文化顧問（安達健二 東京国立近代美術館長）委嘱
7月 美術館建設工事着手
- 昭和61年11月 「名古屋市美術館（仮称）収集作品展」を市博物館で開催
- 昭和62年 4月 美術館開設準備顧問（谷隆夫 元名古屋市助役）委嘱
7月 美術館本体工事完成
10月 外構工事完成
- 昭和63年 3月 「名古屋市美術館条例」制定
4月 美術館顧問（河北倫明氏）委嘱
4月 開館（館長 谷隆夫）
- 平成元年 9月 博物館登録
- 平成 5年 9月 南側エレベーターの設置
- 平成 7年 6月 美術館長（劔持一郎 元名古屋市教育長）委嘱
美術館顧問（谷隆夫 元館長）委嘱
- 平成10年10月 美術館参与（馬場駿吉 元名古屋市立大学教授）委嘱
- 平成11年 6月 美術館長（小林龍郎 元名古屋市総務局長）委嘱
- 平成14年 6月 美術館長（宮澤明倫 元名古屋市教育長）委嘱
- 平成18年 6月 美術館長（渡辺豊彦 元名古屋市選挙管理委員会事務局長）委嘱
美術館参与（石黒鏘二 名古屋造形芸術大学名誉教授）委嘱
- 平成21年 5月 美術館長（松永恒裕 元名古屋市総務局長）委嘱
6月 開館以来1,000万人目の入館者を迎える
- 平成26年 5月 美術館長（横井政和 元名古屋市選挙管理委員会事務局長）委嘱
- 平成29年 4月 美術館参与（早瀬弘親 元名古屋市鶴舞中央図書館長）委嘱
- 平成29年 7月 美術館長（早瀬弘親 元名古屋市美術館参与）委嘱
- 令和 3年 4月 美術館参与（深谷克典 元名古屋市美術館副館長）委嘱
- 令和 4年 4月 美術館長（津坂昌樹 元名古屋市市会事務局長）委嘱

常設展では「名品コレクション展」と題して、当館の4つの収集方針に基づき、「エコール・ド・パリ」「メキシコ・ルネサンス」「現代の美術」「郷土の美術」の4つのコーナーで、それぞれテーマを設定して収蔵作品を展示しています。また、館外の作品を含めた小企画「常設企画展」、そして所蔵作品による小企画「特集」を開催しています。

本年度は、名品コレクション展を第Ⅰ期（4月15日～6月4日）、第Ⅱ期（前期：6月24日～9月3日、後期：9月23日～11月19日）、第Ⅲ期（12月19日～3月10日）に分けて開催し、常設展示室3では通年で特集「開館35周年事業 猛獣画廊壁画修復プロジェクト」を開催しました。常設企画展の開催はありませんでした。

名品コレクション展

【エコール・ド・パリ】

第Ⅰ期「物語と挿絵－シャガール『寓話』より」

フランス古典主義を代表する詩人ジャン・ド・ラ・フォンテーヌ（1621-1695）の『寓話』は、その“絵画的喚起力と音楽性に富む”詩句により、フランス人に長く親しまれてきました。白系ロシア共和国ヴィテブスクの貧しいユダヤ人の家庭に生まれたマルク・シャガール（1887-1985）に対して、版画集の制作を依頼したのはパリの画商で出版者であったアンブロワーズ・ヴォラールでした。1927年から足掛け四年に亘って原版が制作され、1930年から翌年にかけて、モノクロームの銅版画シリーズとして初版が完成しています。エッチングであるにも関わらず、単なる線描だけではなく、陰影の濃淡に工夫を見せるその画面からはヴァール（色価）すら感じられます。また、“絵解き絵”的な構図や場面設定に止まることなく、観る者の自由な発想を誘う要素が、これらの作品を魅力的に仕上げています。

第Ⅱ期「道が示すもの」

風景画を描くとき、画家たちはどの角度から景色を眺め、どこを起点にして、どのようにトリミングしているのか。描かれた道をきっかけに構図の工夫に着目して、ユトリロ、宮田重雄、佐分真、荻須高德、藤田嗣治、矢橋六郎、三岸節子などの作品を紹介しました。

第Ⅲ期「海老原喜之助とパリ」

1923年に海老原喜之助（1904-1970）がパリに到着してから100年を迎えたことに因み、海老原の作品をはじめ、海老原と親交の深かった藤田嗣治や、海老原と同時期に渡仏した田中保、伊藤廉、荻須高德、岡鹿之助、フランス国外からパリに移住したハイム・スーチン、キスリングなどの作品を紹介しました。

【メキシコ・ルネサンス】

第Ⅰ期「ホセ・ガダルルーペ・ポサダ－生の教訓、死の隠喩」

20世紀初頭、革命後のメキシコに於いて、識字率が高くなかった民衆に対して、版画は啓蒙や伝達を担う重要なメディアとして成立しました。その“起点”に位置するのが、版画家ホセ・ガダルルーペ・ポサダ（1852-1913）です。若くして版画工房に弟子入りし、以来リトグラフや木版、金属版技術を習得したポサダは、15歳のころにはすでに「画家」として知られていました。その後の彼の歩みは、「革命」へと続くメキシコの世情とともに展開することになります。ポサダが描く代表的なイメージとして登場するのが、カラベラ（骸骨）です。未だ写真製版が発達していない当時においては、ポサダが描いたカラベラは、観る者の想像を却って自由に膨らませたことでしょう。偉大な巨匠としてではなく、言わば市井の絵描きとしてポサダは、メキシコの人々の心の中に生き続けています。

第Ⅱ期「生と死 ブラボーの写真から」

メキシコ革命による激しい戦闘は、写真家マニュエル・アルバレス・ブラボー（1902-2002）にどのような死生観をもたらしたのか。「生と死」というテーマを意識して、何気ない日常風景や日々をたくましく生きる人々、植物などを捉えた写真作品を選んで紹介しました。

第Ⅲ期「シケイロス没後50年」

メキシコ・ルネサンスを代表する画家の1人、ダビッド・アルファロ・シケイロス（1896-1974）の没後50年に因み、シケイロスの作品に加え、シケイロスの投獄・監禁期の活動に関する資料や、晩年に手掛けた「シケイロス文化ポリフォルム」に関する資料を展示しました。

【現代の美術】

第Ⅰ期「現代の空間表現」

令和5年（2023）に生誕100年を迎えた名古屋出身の画家・三尾公三を中心に、トロンプレイユ（だまし絵）のように現実と虚構を攪乱する作品、形の反復や色彩の相互作用によって画面に奥行きや動きが生じているように錯覚させる作品のほか、空間の捉え方や表現の仕方に特徴のある作品を紹介しました。

第Ⅱ期「金属の様相」

中村宏の銅板で作られた機甲本《イカルス》を手始めに、一見して素材が金属と分かるものから、見えなくても金属の特性を生かして作られたものまで、平面・立体を問わず、金属を用いた多様な美術作品を展示しました。

第Ⅲ期「Woman〈私〉の物語」

古今東西、女性は美の象徴として、繰り返し描かれてきました。ただ一方で、表現者としての女性の存在が認識されるようになったのは、20世紀に入ってからのことです。1980年代後半、“絵画の復権”が果たされ、従来の「大きな物語（歴史）」よりも個人の日常や内省的な心情等、言わば「小さな日記」が重視されると、私的な寓意を描いた彼女達の作品には多くの共感や評価が寄せられました。

1950年代後半、ニューヨークという「現代アート」の最前線で闘ってきた草間彌生（1929年生まれ）は、今日その才能を多方面で発揮しています。田中敦子（1932-2005）が描く、円と線が錯綜し、結び着く「回路」図は、個々人のつながりや交信を連想させます。

また。空間を縦横無尽に走る糸で包み込む塩田千春（1972年生まれ）の作品は、密集や錯綜を超え、観る者に混沌すら感じさせるとともに、糸や布といった素材は伝統的な女性の手仕事と彼女たちの身体性すら想起させます。

近年再評価の機運が高まりつつある地元・名古屋出身の美術家・岸本清子（1939-1988）のパノラマに見られる壮大や強靱とは対極にある、儚さや脆弱さ、あるいは日常性といった要素も女性美術家の独自性とも言えましょう。

今回の展示では、ご寄託いただいている作品によって、当館の所蔵作品だけでは到底紹介しきれない現代女性美術家の多様で優れた表現と動向を紹介しました。

【郷土の美術】

第Ⅰ期「星野眞吾生誕100年」

令和5年（2023）に生誕100年を迎えた愛知県出身の日本画家・星野眞吾（1923-1997）の作品を展示し、画業を辿ることに加え、令和5年1月に亡くなった星野眞吾の妻で日本画家の高畑郁子の作品も併せて展示しました。

第Ⅱ期「サンサシオン100年 若き情熱ほとばしる名古屋」

1923年に名古屋で結成された若手洋画家グループ「サンサシオン」のメンバーたちの作品を展示し、10年間という活動期間の中で、彼らが切磋琢磨しながら成長し、名古屋画壇、さらには中央画壇で成果をあげていくまでの軌跡をたどりました。

第Ⅲ期「抵抗と模索―〈全日本学生写真連盟〉写真運動の展開」

1965（昭和40）年、全国の大学の写真サークルの横断的組織である〈全日本学生写真連盟（全日）〉は、改革を目指し、やがて全国に亘る「キャンペーンの運動化」を提起することになります。

高度経済成長期に入って十年、この時期、土門拳と木村

伊兵衛によって推進された「リアリズム」表現は、すでに“時代遅れ”となり、新たなリアリズムが求められた時代に当たります。

学生たちは、「お互いがひとりの写真家としてあるテーマを共通して持ち、それに対して自由に写真を撮影し、その結果としての写真を一つの大きい表現としてまとめ上げて行く」ことになります。その手法は、“集団撮影行動（集撮）”と呼ばれ、1968（昭和43）年に実践され、「この制作活動の最終的表現は、自費出版の単行本（写真集）」として刊行されました。

今回の展示では、〈全日本学生写真連盟〉のキャンペーン活動の最終成果である写真集を紹介し、それぞれのプロジェクトの提起と撮影、広報と出版に至る運動の過程を、原稿写真作品や資料によって紹介しました。

特集「開館35周年事業 猛獣画廊壁画修復プロジェクト」

東山動物園にて展示された猛獣画3枚を、令和4年度から2年計画で修復を行いました。修復は、愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所に委託し、公開で行いました。令和5年12月から令和6年3月には、修復後の3枚の作品を展示する修復完了展を開催しました。長期にわたり公開修復する事例は少なく、また作品への関心もあり、多数のテレビ、新聞で取り上げられました。また関連した子どもイベントもご好評いただきました。

(1)名品コレクション展

Selected Works from the Collection of
Nagoya City Art Museum

名品コレクション展 I

会期：2023年4月15日(土)～6月4日(日)

常設展示室 1・2

☆：初出品 ＊：寄託作品

I 2023年4月15日(土)～5月7日(日)

II 2023年5月8日(月)～6月4日(日)

出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ (cm)
エコール・ド・パリ：物語と挿絵-シャガール《寓話》より					
1	海老原喜之助	群鳥	1931	油彩・キャンヴァス	100.0×73.2 I・II
☆＊ 2	藤田嗣治	猫	1948	油彩・キャンヴァス	24.2×33.2 I・II
* 3	藤田嗣治	猫を抱く少女	1949	油彩・キャンヴァス	70.0×51.5 I・II
4	藤田嗣治	夢	1954	油彩・キャンヴァス	50.8×61.3 I・II
5	マルク・シャガール	寓話7 死と不仕合せの人	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.2×24.5) I
6	マルク・シャガール	寓話9 キツネとコウノトリ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.5×24.9) I
7	マルク・シャガール	寓話11 オンドリと真珠	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(28.9×25.0) I
8	マルク・シャガール	寓話12 カシの木とアシ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.4×24.1) I
9	マルク・シャガール	寓話17 ワシとコガネムシ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.4×24.0) I
10	マルク・シャガール	寓話20 ライオンとネズミ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.3×23.7) I
11	マルク・シャガール	寓話22 オンドリとキツネ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.5×24.2) I
12	マルク・シャガール	寓話23 ワシのまねをしようとしたカラス	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.1×24.6) I
13	マルク・シャガール	寓話29 羊飼いになったオオカミ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.6×23.9) I
14	マルク・シャガール	寓話30 王様をぼしがるカエルたち	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.6×24.5) I
15	マルク・シャガール	寓話32 ワシとイノシシとネコ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(30.5×24.5) I
16	マルク・シャガール	寓話37 オオカミとヒツジたち	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.0×23.2) I
17	マルク・シャガール	寓話40 恋するライオン	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.6×24.4) I
18	マルク・シャガール	寓話47 オオカミとヤギと小ヤギ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.5×24.0) I
19	マルク・シャガール	寓話59 金の卵を生むメンドリ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.9×23.6) I
20	マルク・シャガール	寓話62 戦いに出かけるライオン	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.5×24.0) I
21	マルク・シャガール	寓話64 ライオンの皮を着たロバ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×0.0(29.5×24.0) I
22	マルク・シャガール	寓話66 水に映った自分の姿を見るシカ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.4×24.1) I
23	マルク・シャガール	寓話78 女易者	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.8×24.2) I
24	マルク・シャガール	寓話80 女性と秘密	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(30.0×24.5) I
25	マルク・シャガール	寓話82 おどけ者と魚	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×0.0(29.2×24.0) I
26	マルク・シャガール	寓話90 娘に変わったハツカネズミ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.6×24.0) I
27	マルク・シャガール	寓話96 二羽のオウムと王様と王子	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.3×23.8) I
28	マルク・シャガール	寓話99 病気のシカ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.5×23.8) I
29	マルク・シャガール	寓話1 カラスとキツネ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.2×24.5) II
30	マルク・シャガール	寓話3 二匹のラバ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.5×24.9) II
31	マルク・シャガール	寓話4 ライオンと共同で事業をした牝ウシと牝ヤギと牝ヒツジ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(28.9×25.0) II
32	マルク・シャガール	寓話13 サルを前にして争うオオカミとキツネ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.4×24.1) II
33	マルク・シャガール	寓話25 人間の女に変わった牝ネコ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.4×24.0) II
34	マルク・シャガール	寓話27 イソップが説明した遺言書	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.3×23.7) II
35	マルク・シャガール	寓話35 キツネとブドウ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.5×24.2) II
36	マルク・シャガール	寓話38 年をとったライオン	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.1×24.6) II
37	マルク・シャガール	寓話41 羊飼いと海	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.6×23.9) II
38	マルク・シャガール	寓話45 シカに復讐しようとしたウマ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.6×24.5) II
39	マルク・シャガール	寓話48 オオカミと母親と子供	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(30.5×24.5) II
40	マルク・シャガール	寓話49 財産を失った守銭奴	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.0×23.2) II
41	マルク・シャガール	寓話51 ヒバリとその子供たちと鳥の持ち主	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.6×24.4) II
42	マルク・シャガール	寓話53 陶器の壺と鉄の壺	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.5×24.0) II
43	マルク・シャガール	寓話58 運命の女神と少年	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.9×23.6) II
44	マルク・シャガール	寓話63 クマとふたりの友達	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ドリヴ紙)	38.5×30.0(29.5×24.0) II

45	マルク・シャガール	寓話71 香具師	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ド・リヴ紙)	38.5×0.0(29.5×24.0)	II
46	マルク・シャガール	寓話72 若い未亡人	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ド・リヴ紙)	38.5×30.0(29.4×24.1)	II
47	マルク・シャガール	寓話73 サギ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ド・リヴ紙)	38.5×30.0(29.8×24.2)	II
48	マルク・シャガール	寓話79 靴直しと金融家	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ド・リヴ紙)	38.5×30.0(30.0×24.5)	II
49	マルク・シャガール	寓話85 ネズミとゾウ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ド・リヴ紙)	38.5×0.0(29.2×24.0)	II
50	マルク・シャガール	寓話86 ロバとイヌ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ド・リヴ紙)	38.5×30.0(29.6×24.0)	II
51	マルク・シャガール	寓話95 魚たちと笛を吹く羊飼ひ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ド・リヴ紙)	38.5×30.0(29.3×23.8)	II
52	マルク・シャガール	寓話100 キツネとシチメンチョウ	1927-30(1952)	エッチング・紙(ヴェラン・ド・リヴ紙)	38.5×30.0(29.5×23.8)	II
53	キスリング	新聞のある静物	1913	油彩・キャンヴァス	81.0×100.0	I・II
54	キスリング	マルセル・シャントルの肖像	1935	油彩・キャンヴァス	116.0×81.0	I・II
55	アメデオ・モディリアーニ	立てる裸婦(カリアティードのための習作)	c.1911-12	油彩、水彩・紙、板	83.0×47.8	I・II
* 56	アメデオ・モディリアーニ	アルルカン	c.1914-15	鉛筆・紙	43.5×26.5	I・II
57	ジュール・パスキン	クララとジュヌヴィエヴ	1925	油彩・キャンヴァス	92.0×73.0	I・II
58	ハイム・スーチン	鳥のいる静物	c.1918-19	油彩・キャンヴァス	60.0×81.5	I・II
59	ハイム・スーチン	セレの風景	c.1922	油彩・キャンヴァス	79.8×87.2	I・II
60	モーリス・ユトリロ	マルカデ通り	1909	油彩・キャンヴァス	60.3×81.3	I・II
61	モーリス・ユトリロ	ラバン・アジュール	c.1913	油彩・キャンヴァス	50.0×65.0	I・II
62	オシップ・ザツキン	扇を持つ女	1923	ブロンズ	84.0×35.0×31.0	I・II

現代の美術：現代の空間表現

1	荒川修作	大気のように何かに似ているもの：意図のある空間	1982-83	アクリル、鉛筆、フェルトペン・キャンヴァス	335.5×1091.5	I・II
* 2	奥井ゆみ子	Counter	1999	油彩・キャンヴァス	120.5×139.8	I・II
3	加藤大博	点による作業—80.D2	1980	油彩・キャンヴァス	116.0×165.7	I・II
4	久野利博	BODY DISTANCE / August 11, 1982(Pisa)	1982	ゼラチンシルバープリント	90.0×60.0	I・II
5	久野利博	BODY DISTANCE / August 13, 1982(Firenze, Italy)	1982	ゼラチンシルバープリント	90.0×60.0	I・II
6	久野利博	BODY DISTANCE / August 26, 1982(Bern)	1982	ゼラチンシルバープリント	90.0×60.0	I・II
* 7	設楽知昭	雲の技法	2008	油彩、インク・綿キャンヴァス	91.0×65.2	I・II
* 8	設楽知昭	サネトモとその恋人	2009	油彩、エンコースティック・綿キャンヴァス	72.7×100.3	I・II
9	桑山忠祐	#D141	1973	アクリル・キャンヴァス	150.0×150.0	I・II
10	中村宏	車窓編TYPE10-A	1981	油彩・キャンヴァス	91.0×117.0	I・II
11	中村宏	車窓編TYPE10-B	1981	油彩・キャンヴァス	91.0×117.0	I・II
12	中村宏	車窓編TYPE10-C	1981	油彩・キャンヴァス	91.0×117.0	I・II
* 13	額田宣彦	Untitled	1995	油彩、オイルスティック・キャンヴァス	72.5×72.5	I・II
* 14	額田宣彦	Jungle-gym(98-24)	1998	油彩・キャンヴァス	50.1×72.1	I・II
15	櫃田伸也	棚の上のコレクション	1977	油彩・キャンヴァス	60.8×91.3	I・II
16	櫃田伸也	卓上の小さな花	1982	油彩・キャンヴァス	73.0×60.5	I・II
17	三尾公三	蕩女の帰宅	1972	アクリル・板	160.0×160.0	I・II
18	三尾公三	男と女のスペース	1974	アクリル・板	180.0×500.0	I・II
19	ベルント／ヒラ・ベッヒャー	巻上げ機	1980	モノクロ写真	154.2×165.6	I・II
20	アンディー・ゴールズワージー	冷え込んだ山影で早朝に制作／和泉村／1987年12月24日	1987	カラー写真	69.7×142.0(105.9×166.4)	I・II
21	アンゼيلم・キーファー	シベリアの王女	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5	I・II
22	リサ・ミルロイ	皿	1992	油彩・キャンヴァス	188.0×243.8	I・II
23	フランク・ステラ	説教	1990	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7	I・II
24	ヴィクトル・ヴァザレリ	パリー東京-i	1980	シルクスクリーン・紙	57.7×56.0(52.0×52.0)	I・II

メキシコ・ルネサンス：ホセ・ガダルーベ・ポサダー生の教訓、死の隠喩

1	北川民次	トラルバム霊園のお祭り	1930	油彩・キャンヴァス	99.5×89.8	I・II
2	マニエル・アルバレス・ブラボー	フリーダ・カーロ	1930-40	ゼラチン・シルバー・プリント	25.4×20.3	I・II
3	マニエル・アルバレス・ブラボー	死後の肖像	1939	ブラチナ・パラジウム・プリント	28.0×35.4	I・II
4	マニエル・アルバレス・ブラボー	トゥルムのマヤの子供	1942	ブラチナ・パラジウム・プリント	28.0×35.0	I・II
5	フリーダ・カーロ	オブジェによる自画像	1946	ミクストメディア	90.0×90.0×10.7	I・II
6	ホセ・クレメンテ・オロスコ	メキシコ風景	1932	油彩・キャンヴァス	76.1×93.9	I・II
7	ホセ・クレメンテ・オロスコ	白い神々	c. 1947	油彩・メゾナイト	71.0×91.5	I・II
8	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]1 芸術の煉獄	1890-1913	金属版・紙	60.0×40.0(紙サイズ)	I・II
9	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]4 骸骨の山	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	I・II
10	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]5 山高帽子をかぶった骸骨	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	I・II
11	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]6 骸骨の映画	1890-1913	金属版・紙	60.0×40.0(紙サイズ)	I・II
12	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]7 愛情深き骸骨	1890-1913	金属版・紙	60.0×40.0(紙サイズ)	I・II
13	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]9 愛の巨大墓地	1890-1913	金属版・紙	60.0×40.0(紙サイズ)	I・II
14	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]11 骸骨の贈物	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	I・II
15	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]14 骸骨エミリアーノ・サバタ	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	I・II
16	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]15 友人の想い出:今はもう骸骨	1890-1913	金属版・紙	60.0×40.0(紙サイズ)	I・II
17	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]16 骸骨の取引き	1890-1913	金属版・紙	60.0×40.0(紙サイズ)	I・II
18	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]17 骸骨の大舞踏会	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	I・II
19	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]18 骸骨モレリアーナ	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	I・II
20	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]19 やせっぽちの骸骨:騒がしい夜	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	I・II
21	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]21 コレラの骸骨	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	I・II
22	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]22 偉大な骸骨:エミリアーノ・サバタ	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	I・II
23	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]23 骸骨コヨーテと女中たち	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	I・II
24	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]31 サン・ファン・デ・ロス・ラゴスの聖母	1890-1913	金属版・紙	30.0×20.0(紙サイズ)	I・II
25	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]32 彷徨える魂	1890-1913	金属版・紙	30.0×20.0(紙サイズ)	I・II
26	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]33 隠れ家の聖母への礼拝	1890-1913	金属版・紙	30.0×20.0(紙サイズ)	I・II
27	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]62 衝突と脱線	1890-1913	金属版・紙	30.0×20.0(紙サイズ)	I・II
28	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]63 連邦州タクバヤでの恐るべき大爆発	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	I・II
29	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]64 恐ろしい火災:熱の牢獄	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	I・II
30	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]65 世界の終末は近い:1907年4月14日、日曜日、ケレーロ州チルバンシンゴからアカプルコにかけて起こった恐ろしい大地震	1890-1913	金属版・紙	40.0×30.0(紙サイズ)	I・II
31	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]67 衝撃通信:骸骨の告解	1890-1913	金属版・紙	30.0×20.0(紙サイズ)	I・II
32	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]69 情熱による悲劇	1890-1913	金属版・紙	30.0×20.0(紙サイズ)	I・II
33	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]70 身の毛もよだつ犯罪	1890-1913	金属版・紙	30.0×20.0(紙サイズ)	I・II
34	ホセ・ガダルーベ・ポサダ	[版画]72 信じられない恐るべき犯罪	1890-1913	金属版・紙	30.0×20.0(紙サイズ)	I・II
35	ダビッド・アルファロ・シケイロス	カウテモックの肖像	1947	ピロキシリン・メゾナイト	75.5×62.0	I・II
36	ダビッド・アルファロ・シケイロス	奴隷	1961	アクリル・板	86.4×64.8	I・II
37	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933	フレスコ・石膏(三層)、ワイヤス(金網)、合板	161.9×201.3	I・II
38	ディエゴ・リベラ	ホコの葬列	n.d.	油彩・キャンヴァス	76.1×93.9	I・II
39	ルフィーノ・タマヨ	夜の踊り子たち	1948	油彩・キャンヴァス	96.7×76.4	I・II
40	ルフィーノ・タマヨ	聖ヨハネの黙示録7 死	1959	リトグラフ・紙	33.0×50.3	I
41	ルフィーノ・タマヨ	聖ヨハネの黙示録15 飢饉	1959	リトグラフ・紙	33.0×50.3	I
42	ルフィーノ・タマヨ	聖ヨハネの黙示録3 戦争	1959	リトグラフ・紙	33.0×50.3	II
43	ルフィーノ・タマヨ	聖ヨハネの黙示録11 征服者	1959	リトグラフ・紙	33.0×50.3	II

郷土の美術：星野真吾生誕100年

1	高畑郁子	作品A	1959	紙本着彩	92.1×92.3	I・II
2	星野真吾	巢	1949	紙本着彩	182.5×272.0	I・II
3	星野真吾	三猿	1958	紙本着彩	92.2×367.5	I・II
4	星野真吾	喪中の作品	1965	紙本着彩	183.0×123.2	I・II
5	星野真吾	喪中の作品・足	1965	紙本着彩	121.0×122.5	I・II
6	星野真吾	黒い犠牲	1966	紙本着彩	122.0×183.0	I・II
7	星野真吾	蒼色の作品	1969	紙本着彩	123.0×183.5	I・II
8	星野真吾	甦る残像	1980	紙本着彩	130.3×162.0	I・II

名品コレクション展Ⅱ

会期：2023年6月24日(土)～11月19日(日)

常設展示室1・2

☆：初出品 ＊：寄託作品

I 前期 2023年6月24日(土)～9月3日(日)

II 後期 2023年9月23日(土・休)～11月19日(日)

出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ (cm)	
コレクション解析学						
1	鬼頭鍋三郎	舞妓六撰 1正月舞(沙予子)	1976	多色木版・紙	52.0×33.8	I
2	鬼頭鍋三郎	舞妓六撰 2春(豆葉)	1976	多色木版・紙	42.5×33.0	I
3	鬼頭鍋三郎	舞妓六撰 3祇園祭の頃(豆菊、小萬)	1976	多色木版・紙	42.5×33.0	I
4	鬼頭鍋三郎	舞妓六撰 4秋窓(光津江)	1976	多色木版・紙	42.5×33.0	I
5	鬼頭鍋三郎	舞妓六撰 5宵雪(豊千代)	1976	多色木版・紙	43.7×29.5	I
6	鬼頭鍋三郎	舞妓六撰 6先筈(光津江)	1976	多色木版・紙	42.5×33.0	I
7	中村 宏	イカルス	1973	銅板	30.3×21.0×9.0	II

エコール・ド・パリ：道が示すもの

1	荻須高德	サン・ドニ河岸	1958-59	油彩・キャンヴァス	73.2×91.7	I・II
2	荻須高德	ボールガール通り	1958-59	油彩・キャンヴァス	73.2×60.2	I・II
3	鬼頭薺二郎	風景	1925	油彩・キャンヴァス	60.0×73.0	I・II
4	佐分 真	風景	c.1927-28	油彩・キャンヴァス	60.9×73.2	I・II
5	藤田嗣治	風景	c.1918	油彩・キャンヴァス	46.2×38.0	I・II
6	藤田嗣治	二人の祈り	1952	油彩・キャンヴァス	46.2×38.2	I・II
7	三岸節子	ブチカナル	1973	油彩・キャンヴァス	116.0×89.0	I・II
8	宮田重雄	滞欧スケッチ	c.1928-30	水彩・紙	30.0×38.0	I
9	宮田重雄	滞欧スケッチ	c.1928-30	水彩・紙	30.0×38.0	I
10	宮田重雄	滞欧スケッチ	c.1928-30	ガッシュ・紙	30.0×38.0	I
11	宮田重雄	滞欧スケッチ	c.1928-30	ガッシュ・紙	30.0×38.0	II
12	宮田重雄	滞欧スケッチ	c.1928-30	ガッシュ・紙	30.0×38.0	II
13	宮田重雄	滞欧スケッチ	c.1928-30	ガッシュ・紙	30.0×38.0	II
14	矢橋六郎	サンポール2(南仏)	1932	油彩・キャンヴァス	61.2×73.2	I・II
15	マルク・シャガール	二重肖像	1924	油彩・キャンヴァス	130.0×100.0	I・II
16	キース・ヴァン・ドンゲン	コルセットの女	1908	油彩・キャンヴァス	65.0×50.0	I・II
17	アメデオ・モディリアーニ	おさげ髪の少女	c.1918	油彩・キャンヴァス	60.1×45.4	I・II
18	アメデオ・モディリアーニ	立てる裸婦(カリアティードのための習作)	c.1911-12	油彩、水彩・紙、板	83.0×47.8	I・II
19	ハイム・スーチン	セレの風景	c.1922	油彩・キャンヴァス	79.8×87.2	I・II
20	モーリス・ユトリロ	ノルヴァン通り	1910	油彩・厚紙	73.1×92.0	I・II
21	モーリス・ユトリロ	ラバン・アジュール	c.1913	油彩・キャンヴァス	50.0×65.0	I・II

現代の美術：金属の様相

1	荒川修作	Untitled(無題)	1964	油彩・キャンヴァス、コラージュ フェルトペン、鉛筆	162.1×130.3	I・II
2	加藤顕清	アイヌ老人の像	1940	ブロンズ	高さ20.0	I・II
3	加藤顕清	盲目の首	1960	ブロンズ	高さ18.0	I・II
* 4	加納光於	SOLDERED BLUE(はんだづけされた青)	1965	メタルプリント・紙	71.8×53.3	I
* 5	加納光於	金色のラベルをつけた葡萄の葉	1966	メタルプリント・紙	74.2×53.9	I
* 6	加納光於	SOLDERED BLUE(はんだづけされた青)	1965	メタルプリント・紙	71.8×53.3	II
* 7	加納光於	暁と呼ばれてI	1991-92	カラーインタリオ・紙	63.4×52.3	II
* 8	加納光於、大岡 信	アララットの船あるいは空の蜜No.11	1971-72	木、金属、ガラス、他	68.0×44.2×22.8	I・II
* 9	河口龍夫	関係-質①	1981	布、鉄、雨水、木製パネル	183.2×91.7×1.5	I・II
* 10	河口龍夫	関係-質	1983	布、銅、液体、木製パネル	180.0×100.0×1.5	I・II
11	河口龍夫	関係-質(青84-4)	1984	綿布、銅板、液体	180.0×100.0×1.5	I・II
* 12	河口龍夫	1997年の闇のプロッターージュ	1998	鉛筆・和紙、プロッターージュ	64.6×98.8	I
* 13	河口龍夫	2001年の闇のプロッターージュ	2008	鉛筆・和紙、プロッターージュ	64.6×98.8	I
* 14	河口龍夫	2005年の闇のプロッターージュ	2008	鉛筆・和紙、プロッターージュ	64.6×98.8	II
* 15	河口龍夫	2007年の闇のプロッターージュ	2008	鉛筆・和紙、プロッターージュ	64.6×98.8	II
16	河口龍夫	DARK BOX 2008	2008	鉄、闇	37.0×60.0×35.0	I・II

17	河原 温	14 JUL. 1986 Today(1966-2013)より	1986	アクリル・キャンヴァス	45.5×61.5	I・II
* 18	国島征二	A・C-7A 04-10	2004	アルミニウム合金、ブロンズ、自然石、黒御影石	13.0×59.0×21.0	I・II
19	久野 真	銅鉄による作品	1959	特殊染料、布、石膏、銅鉄・板(4パネル)	182.0×364.0	I・II
20	久野 真	Relief Painting 4	1998	銅鉄、アルミニウム・板	各140.0×100.0	I・II
21	桑山忠明	無題	1970	アクリル・キャンヴァス	273.0×273.0	I・II
22	辻 耕治	円に沿ってIX	1987	スチール	250.0×40.0×40.0	I・II
* 23	中村正義	太郎と花子	1960	紙本着彩、焼銀箔	104.0×183.0	I
24	大島哲以	日本武尊の大蛇退治	1963	紙本着彩、銀箔	116.7×90.9	II
25	野水 信	コの記号	1966	鉄	160.0×100.0×100.0	I・II
26	吉川家永	方式79〜○△×	1979	モノクロ写真、針金	182.0×144.0	I・II
27	アンゼラム・キーファー	シベリアの王女	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5	I・II
28	フランク・ステラ	説教	1990	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7	I・II

メキシコ・ルネサンス：生と死 ブラボーの写真から

1	マリア・イスキエルド	生きている静物	1947	油彩・キャンヴァス	80.3×99.7	I・II
2	北川民次	メキシコ水浴の図	1930	油彩・キャンヴァス	78.6×68.5	I・II
3	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938	油彩・金属板	14.9×11.0	I・II
4	アマドール・ルーゴ	戦いの後のメキシコの女	1939	ピロキシリン・キャンヴァス、板	98.0×80.7	I・II
5	ホセ・クレメンテ・オロスコ	メキシコ風景	1932	油彩・キャンヴァス	76.1×93.9	I・II
6	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933	フスコ・石膏(三層)、ワイヤス(金網)、合板	161.9×201.3	I・II
7	ディエゴ・リベラ	ホコの葬列	n.d.	油彩・キャンヴァス	59.7×69.0	I・II
8	ダビッド・アルファロ・シケイロス	母と子	1962	デュコ・メゾナイト	80.2×61.2×1.0	I・II
9	ルフィーノ・タマヨ	乗り遅れた乗客	1946	油彩・キャンヴァス	97.2×84.0	I・II
10	マニュエル・アルバレス・ブラボー	小便をする子供	1927	ブラチナパラジウムプリント・紙	25.0×20.0	I
11	マニュエル・アルバレス・ブラボー	かぼちゃとかたつむり	1928(1929)	ブラチナパラジウムプリント・紙	25.0×20.0	I
12	マニュエル・アルバレス・ブラボー	市場の終わり	1931	ブラチナパラジウムプリント・紙	35.0×28.0	I
13	マニュエル・アルバレス・ブラボー	ストライキで殺された労働者	1934	ゼラチンシルバープリント・紙	15.4×20.3	I
14	マニュエル・アルバレス・ブラボー	眠れる美女	1938-39	ゼラチンシルバープリント・紙	20.3×25.4	I
15	マニュエル・アルバレス・ブラボー	風の中で揺れる	1940	ゼラチンシルバープリント・紙	25.0×20.3	I
16	マニュエル・アルバレス・ブラボー	世界は何て狭いのだろう	1942	ゼラチンシルバープリント・紙	20.3×25.4	I
17	マニュエル・アルバレス・ブラボー	永遠の肖像	1935	ブラチナパラジウムプリント・紙	35.0×28.0	II
18	マニュエル・アルバレス・ブラボー	溶鉱土	1935	ブラチナパラジウムプリント・紙	25.4×20.3	II
19	マニュエル・アルバレス・ブラボー	不快の肖像	1945	ゼラチンシルバープリント・紙	25.4×20.3	II
20	マニュエル・アルバレス・ブラボー	不在の肖像	1945(1987)	ゼラチンシルバープリント・紙	35.6×27.9	II
21	マニュエル・アルバレス・ブラボー	敷居	1947	ゼラチンシルバープリント・紙	25.4×20.3	II
22	マニュエル・アルバレス・ブラボー	地震の天使	1957	ゼラチンシルバープリント・紙	25.4×20.3	II
23	マニュエル・アルバレス・ブラボー	聖アントニウスの誘惑	1970	ゼラチンシルバープリント・紙	25.4×20.3	II

郷土の美術：サンサシオン100年 若き情熱ほとばしる名古屋 1923-33

1	鬼頭鍋三郎	夏日図	1925	油彩・キャンヴァス	45.5×53.4	I・II
2	中野安治郎	静物	1931	油彩・キャンヴァス	70.0×89.0	I・II
3	富澤有為男	[風景]	1929-30 c.	油彩・キャンヴァス	37.2×45.3	I・II
4	市ノ木慶治	[花]	1920s	油彩・キャンヴァス	72.7×60.7	I・II
5	永井訟三	志摩波切村	1931	油彩・キャンヴァス	116.5×91.0	I・II
6	山内静江	雪江ちゃん	1926	油彩・キャンヴァス	60.0×79.0	I・II
7	遠山 清	モノハラ水浴	1927	油彩・キャンヴァス	73.0×90.7	I・II
8	遠山 清	鶴舞公園	n.d.	水彩、インク・紙	25.9×33.7	I
9	遠山 清	八事興正寺五重塔	n.d.	水彩、インク・紙	26.1×33.8	I
10	遠山 清	名古屋港	n.d.	水彩、インク・紙	26.0×33.9	I
11	遠山 清	熱田神宮	n.d.	水彩、インク・紙	26.1×33.8	I
12	遠山 清	愛知県庁 名古屋市庁	n.d.	水彩、インク、パステル・紙	23.9×29.2	II
13	遠山 清	中川水門	n.d.	水彩、インク、パステル・紙	26.0×31.8	II
14	遠山 清	名古屋城	n.d.	水彩、インク・紙	26.0×33.5	II
15	遠山 清	八事興正寺	n.d.	水彩、インク、パステル、鉛筆・紙	23.9×32.0	II
16	遠山 清ほか	寄書折帖	1935 c.	水彩・紙、折帖	24.0×17.8	I・II
17	鬼頭鍋三郎ほか	寄書折帖	1935 c.	水彩・紙、折帖	24.0×17.8	I・II
18	加藤静児ほか	寄書折帖	1935 c.	水彩・紙、折帖	24.0×17.8	I・II
19	鬼頭鍋三郎	ノート 昭和四年光風会・サンサシオン(第六回)展覧会	1929-31 c.	インク・紙		I・II
20		光風会・サンサシオン展出品目録	1929	インク・紙		I・II
21	大沢海蔵	初秋	1930 c.	油彩・キャンヴァス	89.0×114.0	I・II
22	鬼頭鍋三郎	背向きの裸婦	1930	油彩・キャンヴァス	116.0×99.0	I・II
23	松下春雄	花を持つ女	1931	油彩・キャンヴァス	162.3×130.1	I・II

名品コレクション展Ⅲ

会期：2023年12月19日(火)～2024年 3月10日(日)

常設展示室 1・2

☆：初出品 ＊：寄託作品 ○：特別出品

I 2023年12月19日(火)～2024年 1月28日(日)

II 2024年 1月30日(火)～2024年 3月10日(日)

III 2023年12月19日(火)～2024年 1月14日(日)

IV 2024年 1月16日(火)～2024年 3月10日(日)

出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ (cm)	
エコール・ド・パリ：海老原喜之助とパリ						
1	伊藤 廉	A.E.氏の肖像	1929	油彩・キャンヴァス	100.8×81.0	全期間
2	海老原喜之助	風景	1927	油彩・キャンヴァス	81.4×100.3	全期間
* 3	海老原喜之助	冬	1928	油彩・キャンヴァス	86.0×114.0	全期間
4	海老原喜之助	群鳥	1931	油彩・キャンヴァス	100.0×73.2	全期間
* 5	荻須高德	引越屋	1930	油彩・キャンヴァス	60.0×73.0	全期間
* 6	荻須高德	セーヌ河、シテ島	1934	油彩・キャンヴァス	60.3×91.5	全期間
7	田中 保	ソリタ・ソラノの肖像	1923	油彩・キャンヴァス	103.0×73.5	全期間
8	岡鹿之助	魚	1927	油彩・キャンヴァス	60.0×73.0	全期間
* 9	藤田嗣治	裸婦	1929	油彩・キャンヴァス	73.0×101.0	全期間
10	藤田嗣治	夢	1954	油彩・キャンヴァス	50.8×61.3	全期間
11	マルク・シャガール	二重肖像	1924	油彩・キャンヴァス	130.0×100.0	全期間
12	キスリング	ルネ・キスリングの肖像	1920	油彩・キャンヴァス	73.7×54.6	全期間
13	アメデオ・モディリアーニ	おさげ髪の少女	c.1918	油彩・キャンヴァス	60.1×45.4	全期間
14	ジュール・パスキン	横たわるエリアヌ	1929	油彩・キャンヴァス	73.2×92.6	全期間
15	ハイム・スーテン	セレの風景	c.1922	油彩・キャンヴァス	79.8×87.2	全期間

現代の美術：Woman-〈私〉の物語

1	草間彌生	ピンクボート	1992	詰め物入縫製布、ボート、オール	90×350×180	全期間
2	草間彌生	ドット・オブセッション／水玉で幸福いっぱい	2009	携帯電話、充電器等	14.1×17.6×14.3	全期間
3	草間彌生	私の犬のリンリン	2009	携帯電話、充電器等	27.0×9.5×20.3	全期間
4	草間彌生	宇宙へ行くときのハンドバッグ	2009	携帯電話、充電器等	11.0×5.0×1.8	全期間
5	ジェニー・ワトソン	この絵は画家が長距離ドライブに出かけた後に描かれた／眠る少女	1992	アクリル・絹／ アクリル・キャンヴァス 2点1組	絵／50.0×140.0 文／41.0×30.0	全期間
6	リサ・ミルロイ	皿	1992	油彩・キャンヴァス	188.0×243.8	全期間
* 7	イケムラレイコ	Stehende in English-Rot	1996	油彩・綿キャンヴァス	70.1×70.1	全期間
* 8	イケムラレイコ	Liegende in Violett	1998	陶	93×45×H36	全期間
* 9	坂本夏子	Octopus Restaurant	2010	油彩・キャンヴァス	227.0×182.0	全期間
* 10	塩田千春	Augapfel(眼球)	2005	医学用眼球モデル、糸、鉄棒・	50.0×50.0×51.5	全期間
* 11	塩田千春	行くべき場所、あるべきものーガラス	2010	トランク、セメント、ガラス、糸、ドローイ ング(水性クレヨン、アクリル絵具)	43×65×67	全期間
* 12	染谷亜里可	Decolor Table-B1	2000	ベルベット	110×120	全期間
* 13	染谷亜里可	Decolor Moon	2002	ベルベット	114×150	全期間
14	内藤 礼	ナーメンロス／リヒト 1	1995	色鉛筆・紙	42.0×30.5	全期間
15	内藤 礼	ナーメンロス／リヒト 2	1995	色鉛筆・紙	42.0×30.5	全期間
* 16	辰野登恵子	Work 86-P-6	1986	油彩・綿キャンヴァス	161.6×130.3	全期間
17	辰野登恵子	Work 86-P-12	1986	油彩・キャンヴァス	97.0×145.5	全期間
* 18	辰野登恵子	Feb -19-98	1998	油彩・キャンヴァス	145.5×112	全期間
* 19	辰野登恵子	Nov-11-2000	2000	油彩・キャンヴァス	72.7×91.0	全期間
* 20	田中敦子	99J	1999	エナメル塗料・綿キャンヴァス	116.5×80.4	全期間
* 21	三輪美津子	無題	1986	油彩、額縁・キャンヴァス	162.1×131.0	全期間
* 22	三輪美津子	無題	1986	油彩、額縁・キャンヴァス	161.5×131.0	全期間
○ 23	横山奈美	Story	2017	油彩・キャンヴァス	130.3×162.0	全期間
24	眞島直子	密林にて	2009	鉛筆、アルシュ紙	114.0×300.0	全期間
25	青木野枝	水天 1	2007	エッチング、ドライポイント、アクアチント・紙	122.0×115.0	全期間
26	青木野枝	水天 14	2007	エッチング、ドライポイント、アクアチント・紙	122.0×115.0	全期間
27	岸本清子	創世記の崩壊ーそして、海	1980	アクリル、クレヨン・キャンヴァス	139.0×1651.0	全期間
28	岸本清子	《創世記の崩壊ーそして、海》の下絵(12点)	1980	パステル、色鉛筆・紙	34.5×25.5～32.5	全期間
29	アンゼيلم・キーフアー	シベリアの王女	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5	全期間
30	フランク・ステラ	説教	1990	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7	全期間

メキシコ・ルネサンス：シケイロス没後50年

1	ダビッド・アルファロ・シケイロス	独立 1818年	1941	インク、デューコ・紙、キャンヴァス	51.7×99.0	全期間
○ 2	サンティアゴ造幣局(発行)	シケイロス生誕100周年切手 侵略者に死を	1997	印刷・紙	10.3×11.8(2枚)	I
3	ダビッド・アルファロ・シケイロス	ビルパオとガルバリノ	1957	リトグラフ・紙	88.3×74.7	I
○ 4	パブロー・ネルーダ	「シケイロス釈放運動」ポスター	1961	印刷・紙	70.0×46.0	I
5	マニュエル・アルバレス・ブラボー	ダビッド・アルファロ・シケイロス	1939-40	ゼラチンシルバープリント	25.4×20.3	II
○ 6	マニュエル・スアレス	「シケイロス文化ポリフォルム オテル・デ・メヒコ」パンフレット	1968	印刷・紙	18.8×18.8	II
○ 7	マニュエル・スアレス	「メヒコ2000」ポスター	1971-72	印刷・紙	68.0×45.0(3枚)	II
8	ダビッド・アルファロ・シケイロス	奴隷	1961	アクリル・板	86.4×64.8	全期間
9	ダビッド・アルファロ・シケイロス	母と子	1962	デューコ・メゾナイト	80.2×61.2×1.0	全期間
10	ダビッド・アルファロ・シケイロス	カウテモックの肖像	1947	ピロキシリン・メゾナイト	75.5×62.0	全期間
11	ダビッド・アルファロ・シケイロス	婦人像	1934	油彩・メゾナイト	152.7×78.7	全期間
12	ダビッド・アルファロ・シケイロス	うずくまる裸婦	1930	リトグラフ・紙	75.5×55.0	I
13	ダビッド・アルファロ・シケイロス	横たわる裸婦	1930	リトグラフ・紙	40.6×56.0	I
14	ダビッド・アルファロ・シケイロス	黒人の女	1937 c.	リトグラフ・紙	50.0×35.0	II
15	ダビッド・アルファロ・シケイロス	征服者ケンタウロス	1945	リトグラフ・紙	75.0×55.0	II
16	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933	フレスコ・石膏(三層)、ワイヤラス(金網)、合板	161.9×201.3	全期間
17	ディエゴ・リベラ	ヘンリー・ノーウェップの肖像	1935	油彩・板	115.1×91.2	全期間
18	ホセ・クレメンテ・オロスコ	メキシコ風景	1932	油彩・キャンヴァス	76.1×93.9	全期間
19	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938	油彩・金属板	14.9×11.0	全期間

郷土の美術：抵抗と模索-〈全日本学生写真連盟〉写真運動の展開

○ 1	全日本学生写真連盟	機関誌『Young Eyes』No.52	1965.4.25	印刷・紙	25.8×18.3	III
○ 2	全日本学生写真連盟	機関誌『Young Eyes』No.53	1965.9.20	印刷・紙	25.8×18.3	III
○ 3	全日本学生写真連盟	小冊子『学生写真・サークルの位置』	1965	印刷・紙	25.3×18.0	III
○ 4	全日本学生写真連盟	キャンペーン写真集『状況 1965』	1966.2.28	文庫版書籍、活版印刷、94点／189頁	14.8×10.5	III
○ 5	全日本学生写真連盟	キャンペーン写真集『状況 1965』のための原稿写真	1965	g.s.p.(ゼラチンシルバー・プリント)、6点	16.7×12.3	III
○ 6	明治大学カメラクラブ	写真集『足ぶみ飛行機』	1966.7.18	グラビア印刷、無線とじ、83点／108頁	17.0×18.0	III
○ 7	全日本学生写真連盟	小冊子『足ぶみ飛行機』(テキストのみ)	1969	紙、ガリ版刷り	25.6×17.9	III
○ 8	全日本学生写真連盟	キャンペーン写真集『状況 1966』	1968.8.10	文庫版書籍、活版印刷、95点／221頁	14.8×10.5	III
○ 9	全日本学生写真連盟	キャンペーン写真集『状況 1966』販売告知ポスター	1968	印刷・紙、2点	52.1×25.9	III
○ 10	全日本学生写真連盟	キャンペーン写真集『状況 1966』のための原稿写真	1966	g.s.p.(ゼラチンシルバー・プリント)、10点	25.1×16.2	III
○ 11	全日本学生写真連盟	小冊子『1965-66の状況／虚妄への挑戦』(福島辰夫著)	1968	印刷・紙	20.6×14.9	III
○ 12	全日本学生写真連盟	キャンペーン写真集『状況 1967』(未刊)のための原稿写真レイアウト(コピー)	n.d.(c.1968)	印刷・紙	25.7×36.3	III
○ 13	「広島デー」実行委員会	小冊子『広島デー 第一次撮影 現地報告書』	1968.9.10	紙、ガリ版刷り	25.3×18.0	III
○ 14	「広島デー」実行委員会	小冊子『広島デー 第一次・第二次撮影 レポート』	1968.10.29	紙、ガリ版刷り	25.9×18.1	III
○ 15	全日本学生写真連盟／「広島デー」実行委員会	写真集『ヒロシマ・広島・hirou-jimae』のための原稿写真	1968-69	g.s.p.(ゼラチンシルバー・プリント)、75点	16.5×24.1	III
○ 16	全日本学生写真連盟／「広島デー」実行委員会	写真展『ヒロシマ・広島・hirou-jimae』ポスター	1969	印刷・紙、3点	21.0×21.3	III
○ 17	全日本学生写真連盟／「広島デー」実行委員会	写真集『ヒロシマ・広島・hirou-jimae』予約申込書	c.1972	印刷・紙	36.0×25.2	III
○ 18	全日本学生写真連盟／「広島デー」実行委員会	写真集『ヒロシマ・広島・hirou-jimae』	1972	グラビア印刷、上製本	23.6×17.0	III
○ 19	全日本学生写真連盟	ポスター『4.28 沖縄戦争』	1968	オフセット両面印刷	107.0×77.0	IV
○ 20	全日本学生写真連盟	写真集『10.21とはなにか』	1969	オフセット印刷／97頁	A5判(21.0×14.8)	IV
○ 21	全日本学生写真連盟	写真集『'69 11/13-17 佐ト訪米阻止斗争』	1970	オフセット印刷／65頁	A5判(21.0×14.8)	IV
○ 22	全日本学生写真連盟	写真集『三里塚1』	1978	オフセット印刷、経本折り、台紙にプリント貼付／40頁	13.0×9.0	IV
○ 23	全日本学生写真連盟	写真集『三里塚2』	1978	オフセット印刷、経本折り、台紙にプリント貼付／26頁	13.0×9.0	IV
○ 24	全日本学生写真連盟	スライドショー『ゲキツツメ』のための写真(プリント)作品	1968/69	ゼラチンシルバープリント／24点	—	IV
○ 25	全日本学生写真連盟	写真集『'69.10.21とはなにか 国際反戦デー』(未刊)のための原稿写真(プリント)	c.1969	ゼラチンシルバープリント	—	IV
○ 26	全日本学生写真連盟	写真集『'69.10.21とはなにか 国際反戦デー』(未刊)のための原稿写真(青焼き及び解説貼付レイアウト)一式	c.1969	—	—	IV

(2)常設企画展 Thematic Exhibition

特集 猛獣画廊壁画修復プロジェクト

Special Exhibition from the Collection
Restoration Project on Mural Paintings
for Higashiyama Zoo

会期：2023年 4月15日(土)～6月4日(日)
6月24日(土)～9月3日(日)
9月23日(土・祝)～11月19日(日)
12月19日(火)～2024年 3月10日(日)
修復完了報告展

会場

常設展示室3

内容

開館35周年事業「猛獣画廊壁画修復プロジェクト」では、第2次世界大戦時に動物を失った東山動物園にて、1948年に旧カバ舎に設けられた「猛獣画廊」に展示された3枚の動物の壁画の修復を行いました。作業は2022年7月に事前調査から始まり、2023年12月初めに3枚の壁画の修復を終えました。2023年12月から2024年3月にかけて「修復完了報告展」を開催しました。令和4年度より2年計画で進めてきたこのプロジェクトは、「東山動物園猛獣画廊壁画修復募金」により実現したものです。

本プロジェクトは、修復そして文化財保存への理解を深めていただく機会とすることを目指し、修復を公開で行いました。また、文化財の修復や保護について学ぶ学生や研究者をメンバーに迎え、人材育成を図ることも目的としました。修復は愛知県立芸術大学に依頼し、同大学文化財保存修復研究所のメンバーを中心としたチームで行われました。プロジェクトの報告(修復報告)は、令和5年度の当館の研究紀要に掲載、また文化財保存修復学会でも報告しました。

期間中には、解説会やワークショップ「絵のお医者さんの仕事」を開催。夏休み期間中に小中学生を迎えて実施した「絵のお医者さんの仕事」は、作業の進捗にあわせ補彩作業を模擬体験する内容で好評いただきました。本ワークショップは、学校ホリデー(11月24日)でも開催しました。また、修復完了報告会(1月13日)では、報告会に先立ち、名古屋市立菊里高等学校音楽科の生徒による弦楽四重奏コンサートを開催しました。

新聞からの取材、問い合わせも多数あり、NHK名古屋放送局、中京テレビ、中日新聞、読売新聞、毎日新聞などに取り上げていただきました。

作品

《東山動物園猛獣画廊壁画No.1》1948年 太田三郎
《東山動物園猛獣画廊壁画No.2》1948年 水谷 清
《東山動物園猛獣画廊壁画No.3》1948年 宮本三郎

関連催事

①「絵のお医者さんの仕事」

講 師：愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所研究員
開 催 日：8月19日(土)、20日(日)、22日(火)
時 間：10:00～11:30、14:00～15:30
場 所：講堂
対 象：小・中学生
参加人数：130人

②「解説会」

講 師：愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所研究員、
当館学芸員
開 催 日：8月11日(金)、12日(土)、13日(日)
時 間：14:30～(約30分)
場 所：常設展示室3
参加人数：132人

③「修復完了報告会」

開 催 日：2024年1月13日(土)
【名古屋市立菊里高等学校音楽科によるコンサート】
演 奏 者：名古屋市立菊里高等学校音楽科 1年生(2名)、
2年生(2名)
演 奏 曲：モーツァルト：弦楽四重奏曲「狩」第1楽章
ハイドン：弦楽四重奏曲 第17番、第2、4楽章
場 所：地階ロビー

【修復完了報告会「未来へつなぐ猛獣画廊壁画」】

講 師：成田朱美(愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所
研究員)ほか修復チームメンバー
時 間：14:00～15:30
場 所：講堂
参加人数：82人



展示風景



公開修復風景



修復完了報告会「未来へつなぐ猛獣画廊壁画」開催の様子

令和5年度は、前年11月28日から始まった施設・設備改修工事のための休館を経て、4月15日に当館のコレクションによる展覧会から再開しました。引き続き3つの展覧会を開催し、計4つの特別展をご覧いただきました。

4月15日からは「コレクションの20世紀」を開催しました。4つの明確な収集方針に沿って集めてきた所蔵作品を「20世紀」という時代を手掛かりに、制作年によって再構成し、地域や表現手法も横断的に見せる展覧会でした。これまでになかった視点でコレクションを見ることで、展示する機会の少なかった作品をご覧いただく機会となり、作品同士のつながりなど新たな魅力を発見する機会となりました。

6月24日からは、「マリー・ローランサンとモード」を開催しました。ともに1883年に生まれたマリー・ローランサンとガブリエル（ココ）・シャネルの二人の活躍を軸に、1920年代パリで美術とファッションがそれぞれの境界を越えてダイナミックに展開していく様子を辿る展覧会でした。大型画面の映像投影や衣装を360度ご覧いただけるように配置するなど、展示にも工夫しました。

9月23日からは、「福田美蘭—美術って、なに？」を開催しました。福田美蘭は東京藝術大学大学院を修了後、具象絵画の登竜門といわれる安井賞を最年少で受賞、国際展でも評価されるなど活躍を続けています。名古屋市美術館では、1992年、2009年、2018年に開催した展覧会に出品するなど、なじみ深い現代作家のひとりです。本展は、1980年代の初期から最近作までの福田の画業を俯瞰的に紹介するとともに、名古屋

市美術館の所蔵作品から着想を得た新作を展示しました。

12月19日からは、「ガウディとサグラダ・ファミリア展」を開催しました。スペイン・バルセロナを中心に活動した建築家アントニ・ガウディ（1852-1926）。140年以上の時を経てようやく完成の時期が視野に収まってきたサグラダ・ファミリアにスポットを当て、この聖堂に即してガウディの建築思想と造形原理を読み解いていく内容でした。16万人を超える来場者があり、ガウディとともに建築への高さを認識する展覧会になりました。

35周年の記念の年の最初は、当館のコレクションを時代によるという新たな切り口で紹介した展覧会でした。そしてファッションと美術の関係に着目した展覧会、また独自の視点で現代社会を見つめ続け、作品を見る者に新鮮な発見を促し続ける美術家・福田美蘭の展覧会、そして当館ではこれまで紹介する機会の少なかった建築家の展覧会と、これまでとは少し違ったテイストの展覧会をご覧いただく年になりました。また、作品の撮影ができるようにしたり、付箋にコメントを書いて残していただいたり、フォトスポットを設けたりと来場者の来館経験を少しでも豊かなものにすべく試みを行いました。12月から開催したガウディとサグラダ・ファミリア展では、連日多くのご来場者があり、ゆっくりとご覧いただく環境が十分に提供できない場面が多々生じました。作品を鑑賞していただく環境を維持しながら、多くの来場者、また多様なニーズに応えていけるような仕掛けを考え、魅力的な展覧会を今後も開催していきたいと思っています。

コレクションの20世紀

The 20th Century through the Collection
of Nagoya City Art Museum

会期：2023年4月15日(土)～6月4日(日)

会場

企画展示室1・2

主催

名古屋市教育委員会・名古屋市美術館、読売新聞社

後援

名古屋市立小中学校PTA協議会

協力

名古屋市交通局

観覧料

一般800円、高大生600円、中学生以下無料

内容

開館から35年間、4つの明確な収集方針に沿って収蔵してきた所蔵作品を「20世紀」という激動の100年を手掛かりに制作年によって再構成し、地域や表現手法を横断的に見せることで過去の周年記念展との差別化を試みた。展示機会の限られてきた作品を紹介するだけでなく、通常の常設展における収集方針別の展示方法では気づきにくい作品同士の繋がりや、作品の新たな魅力を発見する機会を提供することをねらいとした。

普及リーフレット

特別展「コレクションの20世紀」のしおり

25.7×18.2cm 14ページ

8,000部作成 無償配布

執筆・編集：清家三智（名古屋市美術館学芸員）

関連催事

①解説会(全5回)

日 時：4月22日(土)午後2時～、4月29日(土祝)午後2時～、
5月7日(土)午後2時～、5月12日(金)午後6時～、
5月21日(日)午後2時～

場 所：名古屋市美術館2階講堂

講 師：深谷克典(名古屋市美術館参与)、近藤将人、久保田舞美、森本陽香、清家三智(名古屋市美術館学芸員)

②ワークショップ「どこがおもしろい?!—三木富雄《耳》について」

日 時：5月28日(日)

【ファミリーの部】午前10時～正午

【一般の部】午後2時～午後4時

場 所：名古屋市美術館2階講堂、企画展示室1

詳細はP.39-40に記載



ポスター

出品作品

No. 作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ (cm)
1900年代				
1 鈴木不知	冬瓜	1900-30年	油彩・キャンヴァス	45.5×61.0
2 横山大観	日月(日)	1902年頃	絹本着彩	各115.5×50.0
3 横山大観	日月(月)	1902年頃	絹本着彩	各115.5×50.1
4 野崎華年	老女	1903年	油彩・キャンヴァス	45.6×33.3
5 マリー・ローランサン	横たわる裸婦	1908年	油彩・キャンヴァス	38.0×46.4
6 モーリス・ユトリロ	ノルヴァン通り	1910年	油彩・厚紙	73.1×92.0
1910年代				
7 ディエゴ・リベラ	スペイン風景(トレド)	1913年	油彩・キャンヴァス	89.0×110.0
8 加藤静児	海岸風景	1913年	油彩・キャンヴァス	61.0×100.0
9 前田青邨	宿場	1914-15年頃	絹本墨画、淡彩	128.2×50.3
10 村山槐多	房州風景	1917年	油彩・キャンヴァス	31.3×43.4
11 大澤鉦一郎	老人	1917年	油彩・キャンヴァス	40.9×31.8
12 コンスタンティン・ブランクーシ	うぶごえ	1917(1984)年	ブロンズ	17.0×26.0×18.0
13 アメデオ・モディリアーニ	おさげ髪の少女	1918年頃	油彩・キャンヴァス	60.1×45.4
14 宮脇晴	卓上の林檎	1919年	油彩・板	24.2×33.3
15 ハイム・スーチン	農家の娘	1919年頃	油彩・キャンヴァス	80.0×45.0
16 キスリング	ルネ・キスリング夫人の肖像	1920年	油彩・キャンヴァス	73.7×54.6
17 山本鼎	ブルトンヌ	1920年	多色木版・紙	36.3×28.4
1920年代				
18 東郷青児	帽子をかむった男(歩く女)	1922年	油彩・キャンヴァス	60.9×49.9
19 マルク・シャガール	二重肖像	1924年	油彩・キャンヴァス	130.0×100.0
20 フランティシェク・ドルティコル	円の正接	1925-28年頃	ゼラチンシルバートリント	22.5×28.4
21 マニエール・アルバレス・ブラボア	紙の戯れ	1926-27年	ゼラチンシルバートリント	20.3×25.4
22 喜多村麦子	鷹乃図	1826/28年	絹本着彩	156.0×298.3
23 海老原喜之助	風景	1927年	油彩・キャンヴァス	81.4×100.3
24 岡鹿之助	魚	1927年	油彩・キャンヴァス	60.0×73.0
25 藤田嗣治	自画像	1929年	油彩・鉛筆、金箔・キャンヴァス	81.4×65.5
26 ジュール・パスキン	横たわるエリアヌ	1929年	油彩・キャンヴァス	73.2×92.6
1930年代				
27 松下春雄	外套を着た女	1931-1933年頃	油彩・キャンヴァス	91.0×73.0
28 淵上白陽	[停車場 朝霞]	1932-1941年頃	ゼラチンシルバートリント	14.1×11.6
29 淵上白陽	[開墾する人]	1932-1941年頃	ゼラチンシルバートリント	16.4×14.6
30 榊原正一	羊飼の少年	1935年	複写プリント	56.0×45.7
31 馬場八潮	曠野を行く	1935年	複写プリント	56.0×45.7
32 渡辺幾春	蓄音機	1933年	絹本着彩	195.2×175.6
33 三岸好太郎	海と射光	1934年	油彩・キャンヴァス	72.8×60.5
34 ダビッド・アルファロ・シケイロス	婦人像	1934年	油彩・メゾナイト	152.7×78.7
35 横山葩生	晴れたる日	1935年	絹本着彩	166.0×191.0
36 下郷羊雄	パンチュール	1935年	油彩・板	40.9×31.9
37 笈忠治	自画像	1935年	油彩・キャンヴァス	91.0×73.0
38 北脇昇	鳥獣曼荼羅	1938年	油彩・キャンヴァス	45.5×33.4
39 フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938年	油彩・金属板	14.9×11.0
40 伊藤敏博	秋深し	1938年	油彩・キャンヴァス	60.5×80.0
41 山本悌右	『伽藍の鳥籠』のヴァリエーション	1940年	ゼラチンシルバートリント	30.4×25.6
42 吉川三伸	葉に因る絵画	1940年	油彩・キャンヴァス	45.5×52.8
43 田中君枝	化粧	1940年	油彩・キャンヴァス	90.5×65.0

1940年代

44	田淵銀芳	流氓ユダヤー題不詳(仲間、告示板)	1941/2005年	ゼラチンシルバープリント	20.2(27.9)×30.2(35.5)
45	椎原治	流氓ユダヤー仮睡	1941年	ゼラチンシルバープリント	35.7×43.2
46	横井礼以	揚げ雲雀	1941年	油彩・キャンヴァス	90.5×72.5
47	ベン・シャーン	リディツェ	1942年	テンペラ・紙	130.8×99.5
48	北川民次	焼け跡	1945年	油彩・キャンヴァス	65.5×80.6
49	マリア・イスキエルド	巡礼者たち	1945年	油彩・キャンヴァス	60.0×75.0
50	眞島建三	題不詳(樹)	1948年	油彩・キャンヴァス	117.0×91.5
51	堀尾実	作品B(1)	1948年	紙本着彩	70.5×56.0
52	ルフィーノ・タマヨ	苦悶する人	1949年	油彩・キャンヴァス	100.0×80.0

1950年代

53	中谷泰	流田	1954年	油彩・キャンヴァス	38×71.5
54	河原温	カム・オン・マイ・ハウス	1955年	油彩・キャンヴァス	125.0×181.0
55	臼井薫	(写真集『戦後を生きた子供達 より』題不詳(町へ行く主婦)	昭和22-32年』 1953年	ゼラチンシルバープリント	31.1(31.8)×23.8(24.4)
56	臼井薫	(写真集『戦後を生きた子供達 より』四ツ手網	昭和22-32年』 1955年	ゼラチンシルバープリント	29.8(30.3)×23.2(23.8)
57	臼井薫	(写真集『戦後を生きた子供達 より』子守しながら	昭和22-32年』 1957年	ゼラチンシルバープリント	35.5(36.0)×24.8(25.3)
58	臼井薫	(写真集『戦後を生きた子供達 より』独りで遊ぶ	昭和22-32年』 不詳	ゼラチンシルバープリント	29.5(30.0)×21.5(22.1)
59	浅野弥衛	それは閉ざされている	1955年	油彩・キャンヴァス	65.1×90.8
60	池田龍雄	ストリップ・ミル	1956年	油彩・キャンヴァス	162.3×130.5
61	石井茂雄	暴力シリーズー戒厳状態 III	1956年	油彩・キャンヴァス	112.2×145.7
62	芥川(間所)紗織	神話より	1957年	染色・木綿	162.3×130.3
63	荻須高德	ボールガール通り	1958-59年	油彩・キャンヴァス	73.2×60.2
64	奈良原一高	[無国籍地08]	1954-56/1987年	ゼラチン・シルバー・プリント	33.0×21.2
65	奈良原一高	[無国籍地39]	1954-56/1987年	ゼラチン・シルバー・プリント	33.0×21.8
66	奈良原一高	[緑なき軍艦島]浴場(『人間の土地』より)	1954-57/1986年	ゼラチン・シルバー・プリント	21.9×33.0
67	奈良原一高	[緑なき軍艦島]地下道(『人間の土地』より)	1954-57/2020年	ゼラチン・シルバー・プリント	36.8×40.5
68	イサム・ノグチ	死すべきもの	1959-62(1988)年	ブロンズ	190.0×51.0×48.0

1960年代

69	桑山忠明	無題	1961年	顔彩・紙、キャンヴァス	216.2×166.2
70	中村正義	雪	1961年	紙本着彩	50.0×73.1
71	岩田信市	ゼロ次元 3	1962年	油彩・ペンキ・合板	183.5×184.5
72	大野倅嵩	緋	1963年	絹本着彩、ジュート	117.0×93.0
73	赤瀬川原平	復讐の形態学(殺す前に相手をよく見る)	1963年	インク・紙、パネル	90.0×180.0
74	河原温	FEB. 23, 1966 Todayシリーズ(1966-2013)より	1966年	リキテックス・キャンヴァス	25.5×25.5
75	平川敏夫	樹凌	1967年	紙本着彩	169.6×239.5
76	岡本太郎	明日の神話	1968年	油彩・キャンヴァス	132.7×728.9

1970年代

77	フランシスコ・スニガ	立ちつくす孤独	1971年	ブロンズ	高さ181.0
78	清水九兵衛	作品A	1971年	アルミニウム	75.1×257.0×26.0
79	三木富雄	耳	1972年	アルミニウム	78.0×44.5×17.5
80	山田正亮	Work D-92	1972年	油彩・キャンヴァス	227.5×162.0
81	荒川修作	Insertion Within A Temperature/ We(熱をもつもののなかに入れること／私たち)	1973-74年	アクリル、鉛筆、銀、コラージュ・ キャンヴァス	254.0×692.0
82	斎藤吾朗	原生林のおばあさん	1976年	油彩・キャンヴァス	227.3×181.8
83	平松礼二	路ーみち	1979年	紙本着彩、金泥	162.0×112.0

1980年代

84	岸本清子	Erotical Girlsークリスマス・ローズ	1983年	アクリル・合板	136.4×91.0
85	バリー・フラナガン	三日月と釣鐘の上を跳ぶ野ウサギ	1983年	ブロンズ	121.9×94.0×61.0
86	櫃田伸也	通り過ぎた風景	1983年	油彩・キャンヴァス	97.0×162.1
87	辰野登恵子	WORK 86-P-12	1986年	油彩・キャンヴァス	291.0×218.0
88	小清水漸	夢の浮舟ー赤い舟	1987年	木、石、水	85.0×300.0×40.0
89	エドワード・ルッシェ	20世紀	1988年	油彩・キャンヴァス	150.0×368.0
90	李禹煥	風とともに	1990年	油彩・キャンヴァス(4パネル)	260.0×776.0

1990年代

91	森村泰昌	兄弟(虐殺I)	1991年	カラー写真、メディウム・パネル	240.0×309.0
92	福田美蘭	陶器(スルバランによる)	1992年	カラー写真、レンチキュラー・レンズ	47.9×86.0×3.5
93	アグネス・マーティン	無題 No.3	1992年	アクリル・キャンヴァス	183.0×183.0
94	草間彌生	ピンク・ボート	1992年	詰め物入り縫製布、ボート、オール	90.0×350.0×180.0
95	ジェニー・ワトソン	この絵は画家が長距離ドライブに出かけた後に描かれた／眠る少女	1992年	アクリル・絹／ アクリル・キャンヴァス	絵／50.0×104.0 文／41.0×30.0
96	ショーン・スカリー	ボディ	1993年	油彩・キャンヴァス	213.4×243.8
97	中西夏之	G/Z足元はオレンジ色 HOHO-1	1994年	油彩・キャンヴァス	227.3×181.5
98	村上友晴	十字架	1998年	油彩、アクリル・紙	43.5×32.0

マリー・ローランサンとモード

Marie Laurencin et la mode

会期：2023年6月24日(土)～9月3日(日)

会場

企画展示室1・2

主催

名古屋市美術館、中京テレビ放送

後援

在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本、
名古屋市立小中学校PTA協議会

協力

ヤマト運輸、名古屋市交通局

企画協力

美術デザイン研究所

観覧料

一般：1,800円、高大生：1,000円、中学生以下：無料

内容

ともに1883年に生まれたマリー・ローランサンとガブリエル（ココ）・シャネルの二人の活躍を軸に、ポール・ボワレ、ジャン・コクトー、マン・レイ、ジャンヌ・ランバンなどの時代を彩った人々との関係にも触れながら、1920年代パリで美術とファッションがそれぞれの境界を越えてダイナミックに展開していく様子を辿る展覧会。オランジュリー美術館やボンピドー・センター、マリー・ローランサン美術館など国内外のコレクションから、約90点の出品作品で紹介した。なお本展覧会はBunkamuraザ・ミュージアム、京都市京セラ美術館および当館に巡回した。

図録

B5変形(25.7×19.0cm)、168ページ

執筆：筆：深谷克典(名古屋市美術館参与)、成実弘至(京都女子大学教授)、カトリーヌ・オルメン(フランス文化財専門官、服飾史家)

執筆・編集：菅沼万里絵(Bunkamuraザ・ミュージアム学芸員)、
勝田琴絵(名古屋市美術館学芸員)、廣川暁生
仏語日本語訳・編集：宮澤政男(Bunkamuraザ・ミュージアム上席学芸員)
編集協力：見原由希子(株式会社美術デザイン研究所)
発行：株式会社美術デザイン研究所 ©2023

関連催事

①展覧会解説会

日時：①7月8日(土)午後2時～3時
②7月23日(日)午後2時～3時
③8月18日(金)午後6時～7時

場所：名古屋市美術館2階講堂

講師：7月8日、8月18日：勝田琴絵(名古屋市美術館学芸員)
7月23日：深谷克典(名古屋市美術館参与)

②特別講演会「ココ・シャネルの真実」

日時：7月29日(土)午後2時～3時30分

場所：名古屋市美術館2階講堂

講師：山口昌子氏

後援：在京都フランス総領事館



ポスター



ジュニアガイド

No. 作家名	作品名	制作年	技法・素材	所蔵先
---------	-----	-----	-------	-----

I. レザネ・フォルのパリ

ローランサンとパリ社交界の女性たち

I-1	マリー・ローランサン	わたしの肖像	1924年	油彩・キャンヴァス	マリー・ローランサン美術館
I-2	マリー・ローランサン	マドモアゼル・シャネルの肖像	1923年	油彩・キャンヴァス	パリ、オランジュリー美術館
I-3	マリー・ローランサン	ピンクのコートを着たグールゴ男爵夫人の肖像	1923年頃	油彩・キャンヴァス	パリ、ボンビドゥー・センター
I-4	マリー・ローランサン	黒いマンテラをかぶったグールゴ男爵夫人の肖像	1923年頃	油彩・キャンヴァス	パリ、ボンビドゥー・センター
I-5	マリー・ローランサン	ヴァランティエヌ・テシエの肖像	1933年	油彩・キャンヴァス	ポーラ美術館

エティエンヌ・ド・ボーモン伯爵の舞踏会

I-6	マリー・ローランサン	エティエンヌ・ド・ボーモン伯爵夫人の空想的肖像画	1928年	油彩・キャンヴァス	マリー・ローランサン美術館
I-7	マリー・ローランサン	「ソフレ・ド・パリ」ポスター	1924年	リトグラフ	マリー・ローランサン美術館
I-8		「ソフレ・ド・パリ」プログラム パリ、ラ・シガール劇場1924年5月17-6月30日	1924年		兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクション
I-9		エティエンヌ・ド・ボーモン伯爵夫人のポートレート 『ヴォーグ』誌(フランス版)1929年 8月号掲載	1929年	雑誌	文化学園大学図書館
I-10	マン・レイ	「白の舞踏会」『ヴォーグ』誌(アメリカ版)1930年9月1日号掲載	1930年	雑誌	文化学園大学図書館

シャネルを身にまとう社交界の女性たち

I-R1	セシル・ビートン	お気に入りのドレスでポーズをとるローランサン	1928年頃	複写プリント	マリー・ローランサン美術館
I-R2	マルセル・ジュアンドー	舟遊びに興じるローランサンと友人たち	1920年代後半	複写プリント	マリー・ローランサン美術館
I-F1	マン・レイ	シャネルの服を着た社交界の女性たち		映像	パリ、ボンビドゥー・センター



会場風景

Ⅱ.越境するアート

ローランサンとバレエ・リュス「牝鹿」

II-1	マリー・ローランサン	牝鹿と二人の女	1923年	油彩・キャンヴァス	ひろしま美術館
II-2	マリー・ローランサン	限定書籍『セルゲイ・ディアギレフ劇場「牝鹿」』1巻	1924年	マリー・ローランサンの原画による 図版15点および記録写真	兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクション
II-3	マリー・ローランサン	限定書籍『セルゲイ・ディアギレフ劇場「牝鹿」』2巻	1924年	マリー・ローランサンの原画による 図版15点および記録写真	兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクション
II-4	マリー・ローランサン	フランシス・カルコの手書きの詩が 書かれた牝鹿のスケッチ	スケッチ:1923-24年頃/ 詩:1930年	水彩、色鉛筆、インク・紙	マリー・ローランサン美術館
II-5		バレエ・リュス プログラム 「牝鹿」劇場記載なし/1924年1月6日	1924年		兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクション
II-6		バレエ・リュス公式プログラム 「牝鹿」モナコ、モンテカルロ歌劇場/1924年1月	1924年		兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクション
II-7		バレエ・リュス公式プログラム 「牝鹿」フランス、サラ・ベルナール劇場/1927年5月	1927年		兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクション
II-8		本人のサイン入り写真: 「牝鹿」の衣裳を着たヴェラ・ネムチノワ	1927年		兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクション
II-9	マリー・ローランサン	優雅な舞踏会あるいは田舎での舞踊	1913年	油彩・キャンヴァス	マリー・ローランサン美術館
II-10	マリー・ローランサン	サーカスにて	1913年頃	油彩・キャンヴァス	名古屋市美術館
II-11	マリー・ローランサン	舞踊	1919年頃	油彩・キャンヴァス	マリー・ローランサン美術館
II-12	マリー・ローランサン	舞台装置	1928年頃	鉛筆、水彩、インク・紙	マリー・ローランサン美術館
II-13		クェバス侯爵バレエ団公式プログラム/ フランス/1949-1950年	1950年		兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクション
II-14		シャンゼリゼ・バレエ団公式プログラム/ フランス/1945年10月12日	1945年		兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクション
II-15		シャンゼリゼ・バレエ団公式プログラム/ フランス/1946年6月15、28日	1946年		兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクション
II-F1		NBAバレエ団「牝鹿」 ゆうばうとホールにて日本初演(2009年)	2009年	映像	協力:NBAバレエ団

シャネルとバレエ・リュス「青列車」

II-16		バレエ・リュス公式プログラム「青列車」/ 劇場記載なし/1925年	1925年		兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクション
II-17		バレエ・リュス公式プログラム/ フランス、シャンゼリゼ劇場/1924年5-6月	1924年		兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクション
II-18		切り抜き「青列車」「チマロジアーナ」「女羊飼いの誘惑」/ 『ザ・グラフィック』紙(イギリス、1924年12月20日)より	1924年		兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクション
II-19		『アンティゴヌ』『ヴォーグ』誌(フランス版) 1923年2月1日号掲載	1923年	雑誌	文化学園大学図書館
II-F2		「青列車」 ピカソとダンス「青列車」「三角帽子」(DVD)より	1993年12月パリ、 パレ・ガルニエ 収録	映像	協力: ワーナーミュージック・ジャパン

ローランサンと装飾美術

II-20	マリー・ローランサン	立体派の家のための飾り絵 II	1912年	油彩・キャンヴァス	マリー・ローランサン美術館
II-21	マリー・ローランサン	立体派の家のための飾り絵 IV	1912年	油彩・キャンヴァス	マリー・ローランサン美術館
II-22		「マリー・ローランサンの家で」 『ラール・ヴィヴァン』誌1925年2月1日号掲載	1925年	雑誌	個人蔵
II-23	マリー・ローランサン	鳩と花	1935年頃	油彩・キャンヴァス (タペストリーの下絵)	マリー・ローランサン美術館
II-24	マリー・ローランサン	《鳩と花》見本織	1930年代後半	タペストリー	マリー・ローランサン美術館
II-25		1925年アール・デコ博、フランス大使夫人の部屋の装飾 『ヴォーグ』誌(フランス版)1925年9月号掲載	1925年	雑誌	文化学園大学図書館

ローランサンとニコル・グルー

II-26	マリー・ローランサン	アンドレ・グルー夫人(ニコル・ボワレ)	1913年頃	油彩・キャンヴァス	マリー・ローランサン美術館
II-28	マリー・ローランサン	アンドレ・グルー夫人(ニコル・ボワレ)	1937年	油彩・キャンヴァス	マリー・ローランサン美術館

アール・デコ博 1925

II-29		『20世紀近代装飾産業芸術百科事典』	1925年	書籍(全18巻のうち本展 には1～12巻のみ出品)	島根県立石見美術館
II-30		エレガンス館『ヴォーグ』誌(フランス版) 1925年8月号掲載	1925年	雑誌	文化学園大学図書館

Ⅲ. モダンガールの登場

1910年代: ポワレからシャネルへ

III-1	ポール・イリーブ	『ポール・ポワレのドレス』	1908年	書籍	文化学園大学図書館
III-2	ジョルジュ・ルパップ	『ポール・ポワレ作品集』	1911年	書籍	文化学園大学図書館
III-7	ジョルジュ・ルパップ	ポール・ポワレのコート 『ガゼット・デュ・ボン・トン』誌第12号(1913年10月)掲載	1913年	ボショワール・紙	島根県立石見美術館
III-8	ジョルジュ・ルパップ	ポール・ポワレのコート 『ガゼット・デュ・ボン・トン』誌第2号(1914年2月)掲載	1914年	ボショワール・紙	島根県立石見美術館
III-13	ジョルジュ・バルビエ	バキヤンのデイ・ドレス 『ガゼット・デュ・ボン・トン』誌第7号(1913年5月)掲載	1913年	ボショワール・紙	島根県立石見美術館
III-14	ジョルジュ・バルビエ	バキヤンのデイ・ドレス 『ガゼット・デュ・ボン・トン』誌第10号(1913年8月)掲載	1913年	ボショワール・紙	島根県立石見美術館
III-19	アンドレ・マルティ	ポール・ポワレのコートとイブニング・ドレス 『ガゼット・デュ・ボン・トン』誌第2号(1924-25年)掲載	1924-25年	オフセット、ボショワール・紙	島根県立石見美術館
III-21	ポール・ポワレ	カフタン・コート「イスファハン」	1908年	緑色の絹サテンに中東風の模様を 金糸で刺繍、裏地には茶色の絹サ テン、前中心の紐にはタッセル飾り	島根県立石見美術館

シャネルの帽子店

III-22	ガブリエル・シャネル	帽子	1910年代	シルクベルベット	神戸ファッション美術館
III-R1	セム、あるいは ジョルジュ・グルサ	カベルとダンスを踊るココ・シャネル	1913年	リトグラフ	桜アンティキテ
III-R2	セム、あるいは ジョルジュ・グルサ	マドモアゼル・ココ、 日曜日のための可愛い帽子が欲しいのだけど	1914年	リトグラフ	桜アンティキテ
III-R3	ジャン・コクトー	ポワレが去り、シャネルが来る	オリジナル: 1928年	アートプリント	アクセサリミュージアム
III-R4	セム、あるいは ジョルジュ・グルサ	『本物のシックと偽物のシック』	1914年	書籍	桜アンティキテ

ローランサンと帽子の女たち

III-23	マリー・ローランサン	日よけ帽をかぶって立つ女	1912年	油彩・キャンヴァス	マリー・ローランサン美術館
III-24	マリー・ローランサン	白い羽飾りの黒帽子をかぶった乙女	1915年	油彩・キャンヴァス	マリー・ローランサン美術館
III-25	マリー・ローランサン	青と黒の帽子をかぶった少女	1913-14年頃	油彩・キャンヴァス	マリー・ローランサン美術館
III-26	マリー・ローランサン	帽子の乙女	1923年	油彩・キャンヴァス	マリー・ローランサン美術館
III-27	マリー・ローランサン	ターバンをかぶった乙女	1922年	油彩・キャンヴァス	マリー・ローランサン美術館
III-28	マリー・ローランサン	羽根飾りの帽子の女、あるいはティリア、あるいはタニア	1924年	油彩・キャンヴァス	マリー・ローランサン美術館
III-29	マリー・ローランサン	帽子を被った自画像	1927年頃	油彩・キャンヴァス	マリー・ローランサン美術館
III-30	マリー・ローランサン	『ヴォーグ』誌(アメリカ版)1923年8月15日号表紙	1923年	雑誌	文化学園大学図書館
III-31	マリー・ローランサン	『ヴォーグ』誌(アメリカ版)1931年4月1日号表紙	1931年	雑誌(合本)	文化学園大学図書館

1920年代:モダンガールの登場

III-32	ガブリエル・シャネル	デイドレス	1927年頃	シルククレープ	神戸ファッション美術館
III-33		「シャネルのリトル・ブラック・ドレス」 『ヴォーグ』誌(アメリカ版)1926年10月1日号掲載	1926年		文化学園大学図書館
III-R5	ガブリエル・シャネル	イブニングドレス	1920-21年	ベルベット	桜アンティキテ
III-R6		シャネル N° 5の広告『ヴォーグ』誌1936年12月号掲載	1936年		桜アンティキテ
III-R7		シャネル N° 5の広告			桜アンティキテ
III-R8		シャネル N° 5の広告			桜アンティキテ

1930年代:フェミニンへの回帰

III-34	ジャンヌ・ランバン	ドレス	1936年	黒の絹クレープのワンピース・ ドレス、袖に白いフェルト地の アププリケワーク、バイアスカット	島根県立石見美術館
III-38	マーティン・ムンカッチ	『ハーパーズ・バザー』誌1936年6月号掲載	1936年	ゼラチン・シルバー・プリント	島根県立石見美術館
III-40	ジョージ・ホイニンゲン =ヒューン	ベッティーナ・ジョーンズ、スキャパレリによる水着	1928年	ゼラチン・シルバー・プリント	神戸ファッション美術館
III-41	ジョージ・ホイニンゲン =ヒューン	ホルストとモデル	1930年	ゼラチン・シルバー・プリント	神戸ファッション美術館
III-42	マン・レイ	鏡を持つニュッシュ・エリュアール	1935年	ゼラチン・シルバー・プリント	神戸ファッション美術館
III-43		シャネルのドレス『ヴォーグ』誌(フランス版)1929年6月号掲載	1929年	雑誌	島根県立石見美術館
III-44		シャネルのドレス『ヴォーグ』誌(フランス版)1930年11月号掲載	1930年	雑誌	島根県立石見美術館
III-45	ホルスト・P・ホルスト	ココ・シャネルの肖像	1937年	プラチナ・プリント	神戸ファッション美術館
III-R9	マン・レイ	ココ・シャネルの肖像	1935年頃	写真パネル	
III-R10	ボリス・リブニツキ	ココ・シャネルの肖像	1936年	写真パネル	
III-R11		シャネルのドレス『ヴォーグ』誌(アメリカ版)1931年10月号掲載	1931年		桜アンティキテ
III-R12		シャネルのドレス『ヴォーグ』誌(アメリカ版)1931年10月号掲載	1931年		桜アンティキテ

1930年代のローランサン

III-46	マリー・ローランサン	ばらの女	1930年	油彩・キャンヴァス	マリー・ローランサン美術館
III-47	マリー・ローランサン	首飾りの女	1935年頃	油彩・キャンヴァス	マリー・ローランサン美術館
III-48	マリー・ローランサン	シャルリー・デルマス夫人	1938年	油彩・キャンヴァス	マリー・ローランサン美術館

エピソード:蘇るモード

E-1	マリー・ローランサン	ニコル・グルーと二人の娘、ブノワットとマリオン	1922年	油彩・キャンヴァス	マリー・ローランサン美術館
E-2	カール・ラガーフェルド、 シャネル	ピンクとグレーの刺繍が施されたロング・ドレス 2011年春夏 オートクチュール コレクションより	2011年	写真パネル	パリ、パトリモアンヌ・シャネル
E-3	カール・ラガーフェルド、 シャネル	黒いサテンのリボンの付いたピンクのフェイユ・ドレス 2011年春夏 オートクチュール コレクションより	2011年	写真パネル	パリ、パトリモアンヌ・シャネル
E-4	カール・ラガーフェルド、 シャネル	ピンクのツイードのスリーピース・スーツ、刺繍が施された襟元とベルト 2011年春夏 オートクチュール コレクションより	2011年		パリ、パトリモアンヌ・シャネル
E-F1	カール・ラガーフェルド、 シャネル	2011年春夏 オートクチュール コレクションより	2011年	映像	パリ、パトリモアンヌ・シャネル

開館35周年記念 福田美蘭—美術って、なに？

FUKUDA MIRAN – What is Art?

会期：2023年9月23日(土・祝)～11月19日(日)

会場

企画展示室1・2

主催

名古屋市教育委員会・名古屋市美術館、
中日新聞社、東海テレビ放送

後援

JR東海、名古屋市立小中学校PTA協議会

協賛

DNP大日本印刷

協力

名古屋市交通局、国際デザインセンター

観覧料

一般1,500円、高大生1,100円、中学生以下無料

内容

東京藝術大学大学院を修了後、具象絵画の登竜門といわれた安井賞を最年少で受賞し、国際展でも評価され、国内外で活躍を続ける現代美術家・福田美蘭(1963-)の個展を開催した。現代社会が抱える問題に鋭く切り込み、ときにユーモアを添えて絵画化して見せたり、ものを「見る」ことに意識的になり、東西の美術、日本の伝統、文化を、意表を突くような手法であらわしたりして、私たちの既成概念を打ち破ってきた福田の作品を、初期から最新作までの56点で展覧した。福田は、名古屋市美術館で親しまれている名作の中から、モディリアーニ《おさげ髪の少女》をはじめとする数点を選び、所蔵作品にちなんだ新作を制作、発表した。

展示構成は、作家を紹介する序章、古今東西の名画を題材とした1章、時事問題を扱った2章の計3章とした。図録では名画を2つの章に分け、全4章の構成とした。

名古屋市美術館で福田の作品をまとめて展示する機会は、1992年に福田美蘭と森村泰昌の二人を迎えて開催した「スペイン静物画のリアリズム」展以来であり、福田の個展としては中部地域初であった。鑑賞者みずからが作品を開いて鑑賞するしかけの《開ける絵》は体験型の作品として評判を得たが、経年劣化による故障で展示を中断した時期があった。また、著作権に支障のない範囲で、大部分の作品を撮影およびSNS等への投稿を可能にした。

図録

25.0×22.5cm 52ページ

編集・執筆：福田美蘭、森本陽香(名古屋市美術館学芸員)

発行：福田美蘭展実行委員会

関連催事

①作品解説会

日時：10月7日(土) 午後2時～3時

10月20日(金) 午後6時～7時

場所：名古屋市美術館2階講堂

講師：森本陽香(名古屋市美術館学芸員)

②ワークショップ みらんさんに手紙を書こう！

日時：9月30日(土) 午前10時～11時30分

場所：名古屋市美術館2階講堂、企画展示室1・2

講師：森本陽香(名古屋市美術館学芸員)

対象：小中学生

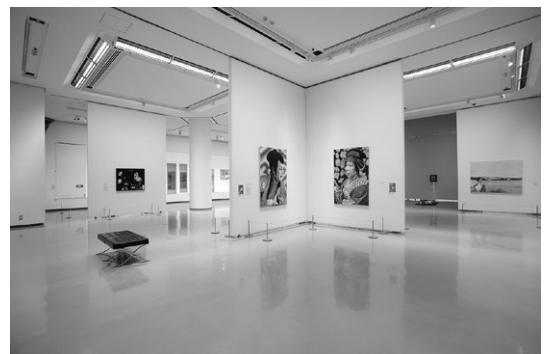
③休館日のベビーカートゥー

日時：10月16日(月) 午前10時30分～12時

場所：名古屋市美術館2階講堂、企画展示室1・2

講師：森本陽香(名古屋市美術館学芸員)

対象：3歳までのお子さまをお連れの保護者の方
(お子さま1名につき1名以上の大人の付添)



会場風景



図録



チラシ

出品作品

No. 作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
1 緑の巨人	1989	アクリル・パネル	227.0×181.0	国立国際美術館蔵
2 フランク・ステラと私	2001	アクリル・パネル	227.2×181.8	作家蔵
3 ぶれちゃった写真(マウリッツハイス美術館)	2003	アクリル・パネル	162.0×130.3	作家蔵
4 志村ふくみ《聖堂》を着る	2004	アクリル・パネル	194.0×97.0	滋賀県立美術館蔵
5 涅槃図	2012	アクリル・パネル	182×227.2	豊田市美術館蔵
6 アカンサス	2013	アクリル、プリント生地「アカンサススクロール」(マナレーディング株式会社提供)・パネル	227.2×181.8	作家蔵
7 鑑賞石・山水画	1999	アクリル・パネル、鑑賞石	山水画 227.2×181.8 鑑賞石 17.0×8.0×5.0	作家蔵
8 湖畔	1993	アクリル、カラーコピー・パネル	130.3×162.0	埼玉県立近代美術館蔵
9 ポーズの途中で休憩するモデル	2000	アクリル・パネル	145.5×227.2	富山県美術館蔵
10 ミレー“種をまく人”	2002	アクリル、ピエゾグラフ印刷・特殊紙	128.5×108.8×8.8	山梨県立美術館蔵
11 ゴッホをもっとゴッホらしくするには	2002	(絵画)アクリル・パネル (額)カラーコピー・フォームボード、紙	74.0×65.0	大原美術館蔵
参考 伝フィンセント・ファン・ゴッホ 作品《アルピーユの道》	不詳	油彩・キャンヴァス	55.0×45.2	大原美術館蔵
12 紅白芙蓉図	2012	アクリル・パネル	181.8×227.2	平塚市美術館蔵
13 見返り美人 鏡面群像図	2016	アクリル・パネル	181.8×227.2	平塚市美術館蔵
14 四季山水図(春景山水図／夏景山水図／ 秋景山水図／冬景山水図)	2016	インクジェットプリント、 アクリル・紙(4幅)	春 214.2×70.5 夏 214.2×70.5 秋 222.5×76.0 冬 222.5×76.0	高松市美術館蔵
15 慧可断臂図 折かわり絵(4枚組)	2016	インクジェットプリント・紙	①183.8×112.8 ②105.8×120.2 ③127.3×121.9 ④184.0×79.7	高松市美術館蔵
16 虎溪三笑図	2020	アクリル・パネル	227.2×181.8	千葉市美術館蔵
17 つるバラ「エドゥアール・マネ」	2022	アクリル・パネル	227.2×181.8	練馬区立美術館蔵
18 死の仮面を被った少女(フリーダ・カーロによる)	2023	アクリル、カラーコピー・パネル、 ノンネオン管、ブリキ製ジョウロ、人工芝	サイズ可変	作家蔵
19 説教(フランク・ステラによる)	2023	アクリル・パネル	227.2×181.8	作家蔵
20 うぶごえ(コンスタンティン・ブランクーシによる)	2023	アクリル・パネル	91.0×116.7	作家蔵
21 幼児キリストから見た聖アンナと聖母	1992	アクリル・パネル	227.2×181.8	高松市美術館蔵
22 侍女ドーニャ・マリア・アウグスティーナから見た 王女マルガリータ、ドーニャ・イザベル・ベラスコ、 矮人マリア・バルボラ、矮人ニコラシート・ベルトウ サートと犬	1992	アクリル・パネル	227.2×181.8	高松市美術館蔵
23 ゼフィロスから見たクロリスとフローラと三美神	1992	アクリル・パネル	227.2×181.8	高松市美術館蔵
24 帽子を被った男性から見た草上の二人	1992	アクリル・パネル	227.2×181.8	高松市美術館蔵
25 卵を料理する老婆	1992	フィルムプリント、レンチキュラーレンズ	90.0×108.6	京都国立近代美術館蔵
26 陶器(スルバランによる)	1992	カラー写真、レンチキュラー・レンズ	47.9×86.0×3.4	名古屋市美術館蔵
27 陶器(スルバランによる)	1992 (2023再制作)	カラー写真・パネル	47.9×85.7×3.3	作家蔵

28	Portrait	1995	アクリル・パネル、変形額縁	71.0×72.0×60.0	作家蔵
29	富嶽三十六景 神奈川沖浪裏	1996	オフセット印刷・紙	29.6×41.0	千葉市美術館蔵
30	三代目大谷鬼次の奴江戸兵衛	1996	アクリル・パネル	162.0×108.0	国際交流基金蔵
31	三代目佐野川市松の祇園町の白人おなよ	1996	アクリル・パネル	162.0×108.0	国際交流基金蔵
32	開ける絵	2000	アクリル・パネル、額縁、鉄、ゴムバンド	182.0×227.0	作家蔵
33	安井曾太郎と孫	2002	アクリル・パネル	91.0×72.0	大原美術館蔵
34	雪	2008	アクリル・パネル	181.8×227.2	千葉市美術館蔵
35	閉じた屏風の中の獅子	2020	インクジェットプリント・画材紙	176.5×89.5	千葉市美術館蔵
36	美南見十二候 九月	2021	アクリル・パネル	227.0×152.0	千葉市美術館蔵
37	高きやに 登りてみれば	1995	アクリル・パネル	227.2×181.8	作家蔵
38	ブッシュ大統領に話しかけるキリスト	2002	アクリル・パネル	130.3×162.0	新潟県立近代美術館・ 万代島美術館蔵
39	扇面流図	2007	アクリル、広告紙・パネル	162.0×130.3	作家蔵
40	世界貿易センタービルの展望台	2008	アクリル・パネル	181.8×227.2	富山県美術館蔵
41	秋―悲母観音	2012	アクリル・パネル	227.2×181.8	東京藝術大学蔵
42	冬―供花	2012	アクリル・パネル	181.8×227.4	豊田市美術館蔵
43	誰が袖図	2015	アクリル・パネル	181.8×227.2	京都市美術館蔵
44	ぬりえ	2015	プリント・紙、クレヨン	[紙]29.7×40.3 [クレヨン]11.0×18.5×1.5	京都市美術館蔵
45	松竹梅	2017	アクリル・パネル	227.2×181.8	千葉市美術館蔵
46	石庭	2017	アクリル・パネル	181.8×227.2	千葉市美術館蔵
47	二代目市川団十郎の虎退治	2020	アクリル・パネル	227.2×138.0	千葉市美術館蔵
48	十三代目市川團十郎白猿襲名披露口上	2021	アクリル・パネル	181.8×227.2	千葉市美術館蔵
49	三十六歌仙 紀友則	2021	インクジェットプリント、エンボス加工・紙	28.2×21.4	千葉市美術館蔵
50	テイルリー公園の音楽会	2022	アクリル・パネル	76.0×118.0	練馬区立美術館蔵
51	名所江戸百景 深川洲崎十萬坪	2022	アクリル、カラーコピー・紙	38.7×26.3	作家蔵
52	中日新聞2023年7月11日	2023	オフセット印刷・紙	6.6×4.6	作家蔵
53	ゼレンスキー大統領	2022	アクリル・パネル	128.5×227.2	練馬区立美術館蔵
54	プーチン大統領の肖像	2023	アクリル・パネル(4点組)	各59.5×84.0／ 84.0×59.5	作家蔵
55	プーチン大統領の肖像(カリアティード)	2023	鉛筆・紙(14点組)	29.7×21.0／ 21.0×29.7	作家蔵
56	おしぼり	2023	刺繍・布	30.0×30.0	作家蔵

※作者名の記載のない作品の作者は、すべて福田美蘭である。

開館35周年記念 ガウディとサグラダ・ファミリア展

Gaudí and the Sagrada Família

会期：2023年12月19日(火)～2024年3月10日(日)

主催

名古屋市教育委員会・名古屋市美術館、NHK名古屋放送局、
NHKエンタープライズ中部、中日新聞社

共同企画

サグラダ・ファミリア贖罪聖堂建設委員会財団

後援

スペイン大使館、JR東海、名古屋市立小中学校PTA協議会

協賛

SOMPOホールディングス、DNP大日本印刷、YKK AP、
アイシン

協力

名古屋市交通局

観覧料

一般1,800円、高大生1,000円、中学生以下無料

内容

「アントニ・ガウディの建築群」として世界遺産に登録されるほどの独創的な建築を作り上げた建築家アントニ・ガウディ(1889-1926)のアイディアの源泉をたどるとともに、140年以上の時を経て完成の時期が視野に収まってきたサグラダ・ファミリア聖堂に焦点を絞り、この聖堂に即してガウディの建築思想と造形原理を読み解いていく展覧会。ガウディ直筆の図面といった資料をはじめ、模型、彫刻、家具、写真、さらには最新の技術で撮影された映像など100点を超える展示物でガウディ建築の魅力に迫った。

本展覧会は、当館および東京国立近代美術館、佐川美術館に巡回した。



会場風景

図録

B5判変型、328ページ

学術監修：鳥居徳敏（神奈川大学名誉教授）

編集：東京国立近代美術館、佐川美術館、名古屋市美術館、
NHK、NHKプロモーション、東京新聞、中日新聞社、
D_CODE

発行：NHK、NHKプロモーション、東京新聞、中日新聞社

関連催事

記念講演会「サグラダ・ファミリアー独創性の由来ー」

日時：令和6年1月21日(日) 午後2時～午後3時30分

場所：名古屋市美術館2階講堂

講師：鳥居徳敏（本展学術監修、神奈川大学名誉教授）

学芸員による解説会

日時：令和6年2月4日(日)、2月17日(土)

午後2時～午後3時

場所：名古屋市美術館2階講堂

講師：久保田舞美（名古屋市美術館学芸員）



ポスター



図録

出品作品

no.	作家名／制作者名 Artist／Produced by	作品名／スケール／複製表記／発行者名／制作年 Title／Scale／Description of the reproduction／Issued by／Production date	*所蔵 Collection
-----	--------------------------------	---	-------------------

1 ガウディとその時代 Gaudí and His Time

1	アウドゥアルト社 Audouard i Cia.	ガウディ肖像写真／1878年 Portrait of Antoni Gaudí／1878	R
8-c 前期展示	科学芸術委員会（編） Commission des sciences et arts (ed.)	『エジプト誌』 古代編第3巻第4葉 テーベ風景／1809-28年 <i>Description de l’Egypte</i> , Antiquités vol.3, pl.4, <i>Thèbes</i> ／1809-28	M
8-e 後期展示	科学芸術委員会（編） Commission des sciences et arts (ed.)	『エジプト誌』 近代編第1巻第42葉 カイロ風景／1809-28年 <i>Description de l’Egypte</i> , Etat Moderne vol.1, pl.42, <i>Le Kaire</i> ／1809-28	M
9-a, b	オーウェン・ジョーンズ Owen Jones	『アルハンブラ、平面・立面・断面・詳細図』 第1巻・第2巻／1842-45年 <i>Plans, Elevations, Sections, and Details of the Alhambra</i> , vol.1, 2／1842-45	TP
10 前・後期 で頁替え	バスカル・コスト Pascal Coste	『ペルシャの近代モニュメント』／A. Morel 社(パリ)／1867年 <i>Monuments modernes de la Perse</i> ／A. Morel, Paris／1867	T
11-a 前・後期 で頁替え	エミル・プリス・ダヴェンヌ Émile Prisse d’Avennes	『カイロのモニュメントに見るアラブ芸術』 第1巻：モスク ／A. Morel 社(パリ)／1877年 <i>L’Art Arabe d’après les Monuments du Kaire</i> , vol.1: Mosquée／A. Morel, Paris／1877	T
11-b 前・後期 で頁替え	エミル・プリス・ダヴェンヌ Émile Prisse d’Avennes	『カイロのモニュメントに見るアラブ芸術』 第2巻：アラベスク ／A. Morel 社(パリ)／1877年 <i>L’Art Arabe d’après les Monuments du Kaire</i> , vol.2: Arabesques／A. Morel, Paris／1877	T
12	ウジェーヌ・エマニュエル・ ヴィオレ＝ル＝デュク Eugène Emmanuel Viollet-le-Duc	『フランス中世建築事典』 全10巻／初版、B. Bance出版／1854-68年 <i>Dictionnaire raisonné de l’architecture française du XI^e au XVI^e siècle</i> , 10 vols. ／first edition, B. Bance éditeur／1854-68	TT
13	テキスト:ウジェーヌ・エマニュエル・ ヴィオレ＝ル＝デュク Text by Eugène Emmanuel Viollet-le-Duc	『建築講話』（1863-72年）図版編／A. Morel & Cie社(パリ)／1863年 <i>Entretiens sur l’architecture: Atlas</i> ／A. Morel & Cie, Paris／1863	TT
14	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	ガウディ・ノート／1873-79年 Gaudí’s Notebook／1873-79	R
15	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	クメーリャ革手袋店ショーケース、パリ万国博覧会のためのスケッチ／1878年 Sketch of the design for a display case for the Comellas glove shop, intended for the Universal Exhibition in Paris／1878	R

2 ガウディの創造の源泉 The Sources of Gaudí’s Originality

16	ラファエル・アレニャス・ミレト撮影 Photographer: Rafael Areñas Miret	バルセロナ万国博覧会会場通行証／1888年 Antoni Gaudí’s season ticket of exhibitor’s pass for the Universal Exhibition in Barcelona／1888	R
17	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	1888年バルセロナ万国博覧会における大西洋横断社 （ラ・トラサトランティカ）パビリオン、外装パネル／1888年 Fragment of the “Compañía Trasatlántica” plaque for the 1888 Barcelona Universal Exposition／1888	S
18	アントニ・ガウディ ／制作：ジャウマ・ブジョールの息子 Antoni Gaudí ／Produced by Jaume Pujol Busus’s son	ゲエル公園、破砕タイル被覆ピース／1904年頃 Trencadís (Park Güell: ceramic mosaic piece)／c. 1904	E(D)
19		フィンカ・ゲエル、換気塔（門番小屋上部）模型／1:5／1984-85年 Model of the ventilation tower of Finca Güell (top of the gatehouse)／1:5／1984-85	B
20		フィンカ・ゲエル、馬場・厩舎模型／1:25／1984-85年 Model of the stable of Finca Güell／1:25／1984-85	B
21	オーウェン・ジョーンズ Owen Jones	『装飾の文法』／Day and Son社(ロンドン)／1856年 <i>The Grammar of Ornament</i> ／Day and Son, London／1856	TP

no.	作家名／制作者名 Artist／Produced by	作品名／スケール／複製表記／発行者名／制作年 Title／Scale／Description of the reproduction／Issued by／Production date	*所蔵 Collection
3	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	県庁パティオ、詳細図／複製／オリジナル：1876年 Design for a Courtyard for the Barcelona Provincial Council／Authenticated copy／original:1876	S
4	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	栈橋、立面図／複製／オリジナル：1876年 Design for a Quay. Elevation／Authenticated copy／original:1876	S
5	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	栈橋、詳細図／複製／オリジナル：1876年 Design for a Quay. Detail／Authenticated copy／original:1876	S
6	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	大学講堂、横断面（卒業設計〈建築家資格認定試験〉）／ファクシミリ （オリジナル：1877年） Paranymph (University auditorium: Cross section, Final project for the Degree in Architecture)／Facsimile(original:1877)	E
7	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	大学講堂、平面図（卒業設計〈建築家資格認定試験〉）／ファクシミリ （オリジナル：1877年） Paranymph (University auditorium: Layout, Final project for the Degree in Architecture)／Facsimile(original:1877)	E
22	F. de P. ビリャール・ロサーノ （アントニ・ガウディによる製図） F. de P. Villar Lozano (design by Antoni Gaudí)	モンセラー修道院聖堂カマリン（主祭壇衛立背面側祭室）祭壇／1877年頃 Montserrat chapel room niche elevation／c. 1877	C
23	F. de P. ビリャール・ロサーノ （アントニ・ガウディによる製図） F. de P. Villar Lozano (design by Antoni Gaudí)	モンセラー修道院聖堂カマリン（主祭壇衛立背面側祭室）展開図／1877年頃 Montserrat chapel room elevation development／c.1877	C
24	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	聖遺物箱・聖体顕示台のデザイン／1878年 Design for reliquary／1878	R
25	ジュアン・マルトゥレイ （アントニ・ガウディとリュイス・ドゥメナクによる製図） J. Martorell (design by Antoni Gaudí and Ll. Domènech)	バルセロナ大聖堂正面計画案／1882年 New Cathedral façade competition. Elevation plan／1882	C
26	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	レウス、憐みの聖母(ビルヘン・デ・ミセリコルディア)礼拝堂計画案／ 1900年頃 Refurbishment of the façade of the shrine of the Virgin Mercy in Reus／c.1900	R
27	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	植物スケッチ(サボテン、スイレン、ヤシの木)／1878年頃 Sheet with drawings of leaves and plants (Cactus, water lilies and palm trees)／ c.1878	R
28	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	バイフゴーナの主任司祭フランセスク・ビセンス・ガルシア 生誕300年記念馬車行列／1879年 Parade on the third centenary of Francesc Vicenç Garcia, Rector of Vallfogona／ 1879	R
29	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	カサ・ビセンス、正面のセラミックタイル／1883年 Tile with marigolds of Casa Vicens／1883	S
30	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	カサ・ビセンス、鉄柵の棕櫚の模型／1886年頃 Model of a fan palm leaf for grilles of Casa Vicens／c.1886	S
31	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	カサ・カルベート、扉ののぞき窓／複製 Peephole for the entrance door to the first floor of Casa Calvet／Reproduction	S
32	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	カサ・カルベート、扉の握り金具／複製 Handle for the entrance door to the first floor of Casa Calvet／Reproduction	S
33	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	カサ・ミラ、扉の取っ手／複製 Door handle for Casa Milà／Reproduction	S
34	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	カサ・ミラ、扉の握り金具／複製 Handle for Casa Milà／Reproduction	S
35	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	カサ・バットリョ、椅子／複製／1984-85年 Chair for the Casa Batlló／Reproduction／1984-85	B
36	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	カサ・バットリョ、ベンチ／複製／1984-85年 Bench for the Casa Batlló／Reproduction／1984-85	B

no.	作家名／制作者名 Artist／Produced by	作品名／スケール／複製表記／発行者名／制作年 Title／Scale／Description of the reproduction／Issued by／Production date	*所蔵 Collection
37	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	カサ・カルベート、スツール／複製／1984-85年 Stool for the Casa Calvet／Reproduction／1984-85	B
39	ジュアン・マタマラ Joan Matamala	ガウディによるグエル公園、正門計画案／1952年 Park Güell: Main entrance／1952	E
40	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	カサ・ミラ、正面図（建築許可申請）／1906年 Casa Milà: façade／1906	E
80	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	カサ・ミラ、屋上の双体煙突模型／複製／1984-85年 Model of the Casa Milà, Binary Chimneys／Reproduction／1984-85	B
81	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	カサ・ミラ、屋上の単体煙突模型／複製／1984-85年 Model of the Casa Milà, Single Chimney／Reproduction／1984-85	B
82	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	カサ・ミラ、屋上の換気塔模型／複製／1984-85年 Model of the Casa Milà, Roof ventilators Tower／Reproduction／1984-85	B
42		1878年パリ万国博覧会における水族館風景、 <i>The Graphic</i> 紙掲載／1878年 The Aquarium in Universal Exhibition in Paris, 1878, taken from <i>The Graphic</i> ／1878	P
43		コロニア・グエル教会堂、地下聖堂模型／1:25／1984-85年 Model of the Güell Colony Church／1:25／1984-85	B
44		コロニア・グエル教会堂、逆さ吊り実験（部分）／1984-85年 Upside down force model of the Güell Colony Church(detail)／1984-85	B
45		コロニア・グエル教会堂、逆さ吊り実験／1:50／1984-85年 Upside down force model of the Güell Colony Church／1:50／1984-85	B
46	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	コロニア・グエル教会堂計画案のスケッチ／リトグラフ／ 1979年（オリジナル：1908年） Sketch of the Güell Colony Church／Lithograph／1979 (original: 1908)	E
47-a	鳥居徳敏(復元) Torii Tokutoshi	アントニ・ガウディ：アフリカ・カトリック・ミッション、タンジール計画案 1892-93年、復元設計縦断面図1981-82年／1:100／1981-82年 Antoni Gaudí: Project for Catholic Missions in Africa, Tangiers 1892-93, Longitudinal section reconstructed by Torii Tokutoshi 1981-82／1:100／1981-82	TT
50	ジュアン・マタマラ Joan Matamala	ガウディによるニューヨーク大ホテル計画案／1952年 Hotel Attraction preliminary project／1952	E
51	制作：群馬県左官組合 Plasterers' Association in Gunma Prefecture, Japan	ニューヨーク大ホテル計画案模型（ジュアン・マタマラのドローイングに基づく）／ 1985年 Model of Hotel Attraction design in New York (based on the drawing by Joan Matamala)／1985	I
参考出品	制作：東京工芸大学山村健研究室 T.Yamamura Lab. Tokyo Polytechnic University	「平曲面」（単双曲線面）模型／2023年 Hyperboloid model／2023	
参考出品	制作：東京工芸大学山村健研究室 T.Yamamura Lab. Tokyo Polytechnic University	双曲線面ヴォールト模型／2023年 Hyperbolic parabolic vault model／2023	
参考出品	制作：東京工芸大学山村健研究室 T.Yamamura Lab. Tokyo Polytechnic University	「平曲面」（双曲放物線面）模型／2023年 Hyperbolic parabolic model／2023	
参考出品	制作：東京工芸大学山村健研究室 T.Yamamura Lab. Tokyo Polytechnic University	ラセン模型／2023年 Spiral model／2023	
参考出品	制作：東京工芸大学山村健研究室 T.Yamamura Lab. Tokyo Polytechnic University	サグラダ・ファミリア仮設学校屋根：錐状面模型／2023年 Roof structural model of school of the Sagrada Família, Conoid model／2023	

3 サグラダ・ファミリアの軌跡 The Story of the Sagrada Família

52		聖ヨセフ信心会機関誌『聖ヨセフ帰依の布教』／ブラ未亡人相続人書店発行／ 1875年 <i>El Propagador de la Devoción a San José</i> , Magazine of the Asociación de devotos de San José／Issued by "Hrs.Viuda Pla." Llibrs. De S.S.／1875	S
----	--	--	---

no.	作家名／制作者名 Artist／Produced by	作品名／スケール／複製表記／発行者名／制作年 Title／Scale／Description of the reproduction／Issued by／Production date	*所蔵 Collection
53		ブカベリーヤの書店の版画／プラ未亡人相続人書店発行 Wood cut print issued by Bocabella's book shop／Issued by "Hrs.Viuda Pla." Llibrs. De S.S.	TT
54	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	サグラダ・ファミリア聖堂、クリプタ付属の卓上燭台（十字架つき燭台）／ 1898年頃 Tabletop candelabra from the crypt of the Sagrada Família／c.1898	S
55, 56	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	サグラダ・ファミリア聖堂、クリプタ付属の卓上燭台（小燭台）／1898年頃 Tabletop candelabra from the crypt of the Sagrada Família／c.1898	S
57	カルロス・マニ、アントニ・ガウディ Carles Mani, Antoni Gaudí	サグラダ・ファミリア聖堂、クリプタの磔刑像／1906年 Crucifix from the crypt of the Sagrada Família／1906	S
58-60		サグラダ・ファミリア聖堂、クリプタのステンドグラス／1885-90年 Fragment of stained glass from the crypt of the Sagrada Família／1885-90	S
61	ジュアキム・ミール Joaquim Mir	建設中のサグラダ・ファミリア聖堂の後陣 Sagrada Família apse under construction	S
62	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	聖堂周辺整備計画「聖堂を普通に見ることのできる最小の距離と視点」／1:2000 ／1916年10月 Demonstration plan of the distances and points of view that are needed as a minimum for the normal perspectives of the Expiatory Temple of the Sagrada Família／1:2000／October, 1916	A
63	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	聖堂周辺整備計画「同上計画案に基づく最小の必要収用面積」／1:2000／ 1916年10月 Comparison of the surfaces to be expropriated according to the minimum proposed previously and according to the new urbanization projected in the new Link Plan／1:2000／October, 1916	A
64		『イラストラシオー・カタラーナ』1906年3月18日、146号／1906年 <i>Il·lustració Catalana</i> , 18 March 1906, no.146／1906	TT
65		『サグラダ・ファミリア聖堂建設計画案、バルセロナ』（聖堂アルバム）／ 聖ヨセフ信心会発行／1915年 <i>Album. Temple Expiatori de la Sagrada Família. Barcelona</i> ／ Published by Asociación de devotos de San José／1915	S
66		『サグラダ・ファミリア聖堂建設計画案、バルセロナ』（聖堂アルバム）／ 聖ヨセフ信心会発行／1925年 <i>Album. Temple Expiatori de la Sagrada Família. Barcelona</i> ／ Published by Asociación de devotos de San José／1925	TT
67		『サグラダ・ファミリア聖堂建設計画案、バルセロナ』（聖堂アルバム）／ 聖ヨセフ信心会発行／1929年 <i>Album. Temple Expiatori de la Sagrada Família. Barcelona</i> ／ Published by Asociación de devotos de San José／1929	S
68		『聖堂アルバム 記録集 ガウディとサグラダ・ファミリア聖堂』／バルセロナ 1936年 <i>Album Record a Gaudí i al Temple Expiatori de la Sagrada Família</i> ／Barcelona／1936	TT
69		案内書『サグラダ・ファミリア』／聖ヨセフ信心会発行／1947年 <i>Sagrada Família</i> ／Published by Asociación de devotos de San José／1947	TT
70	制作：サグラダ・ファミリア聖堂模型室 Taller de modelistes de la Sagrada Família	サグラダ・ファミリア聖堂全体模型／1:200／2012-23年 Model of the whole Sagrada Família／1:200／2012-23	S
71	制作：サグラダ・ファミリア聖堂模型室 Taller de modelistes de la Sagrada Família	サグラダ・ファミリア聖堂、身廊部模型／2001-02年 Model of the naves of the Sagrada Família／2001-02	B
72	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	サグラダ・ファミリア聖堂、側廊高窓オリジナル模型／1:25／1883-1912年頃 Model of the windows on the side naves of the Sagrada Família. First version／1:25／c.1883-1912	S
73	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	サグラダ・ファミリア聖堂、主身廊高窓内観模型／1:10／複製／ Model of the interior window of the central nave of the Sagrada Família／1:10／Reproduction	W
74	アントニ・ガウディ Antoni Gaudí	サグラダ・ファミリア聖堂、側廊屋根の採光塔模型／1:10／複製／ Model of the lighting tower on the roof of the side nave of the Sagrada Família／1:10／Reproduction	W

no.	作家名／制作者名 Artist／Produced by	作品名／スケール／複製表記／発行者名／制作年 Title／Scale／Description of the reproduction／Issued by／Production date	*所蔵 Collection
75	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、側廊高窓外観頂部オリジナル模型／1:10／ 1918-22年 Model of the fruit crowning the windows on the side naves of the Sagrada Familia／ 1:10／1918-22	S
76	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面：内部側ギャラリーの柱頭模型／複製 Model of the capital of column of the interior gallery of the Nativity façade of the Sagrada Familia／Reproduction	W
77	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面：内部側ギャラリーの柱頭模型／複製 Model of the capital of column of the interior gallery of the Nativity façade of the Sagrada Familia／Reproduction	W
78	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面：内部側ギャラリーの柱頭模型／複製 Model of the capital of column of the interior gallery of the Nativity façade of the Sagrada Familia／Reproduction	W
79	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、回廊の円柱柱頭模型／複製 Model of the capital of column of the cloister of the Sagrada Familia／Reproduction	W
83	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、主身廊円柱模型／1:10／複製 Model of the column of the nave of the Sagrada Familia／1:10／Reproduction	W
84	制作：サグラダ・ファミリア聖堂模型室 Taller de modelistes de la Sagrada Familia	サグラダ・ファミリア聖堂、側廊円柱（6星形）模型／2005-10年 Model of the six-sided column of the side nave of the Sagrada Familia／2005-10	S
85	制作：サグラダ・ファミリア聖堂模型室 Taller de modelistes de la Sagrada Familia	サグラダ・ファミリア聖堂、主身廊円柱（8星形）模型／2005-10年 Model of the eight-sided column of the nave of the Sagrada Familia／2005-10	S
86	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、二重ラセン円柱の雌型（オリジナル）／1920-26年 頃 Mould of a double twist column of the Sagrada Familia／c.1920-26	S
参考出品	制作：サグラダ・ファミリア聖堂模型室 Taller de modelistes de la Sagrada Familia	サグラダ・ファミリア聖堂、二重ラセン円柱模型／複製／2023年 Model of a double twist column of the Sagrada Familia／Reproduction／2023	S
参考出品	制作：サグラダ・ファミリア聖堂模型室 Taller de modelistes de la Sagrada Familia	サグラダ・ファミリア聖堂、二重ラセン円柱模型／複製／2023年 Model of a double twist column of the Sagrada Familia／Reproduction／2023	S
87	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、主身廊円柱の柱頭オリジナル模型／1:10／1918-22 年頃 Model of the capital of a column for the central nave of the Sagrada Familia／1:10／ c.1918-22	S
88	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、中間案主身廊円柱の柱頭オリジナル模型／1:10／ 1913-15年頃 Model of the capital and architrave of a column for the central nave of the Sagrada Familia. Second version／1:10／c.1913-15	S
89	制作：サグラダ・ファミリア聖堂模型室 Taller de modelistes de la Sagrada Familia	サグラダ・ファミリア聖堂、側廊枝分かれ円柱と天井ヴォールト模型／1:10／ 2003年 Model of the vaults and columns in the side naves of the Sagrada Familia／1:10／ 2003	S
90		サグラダ・ファミリア聖堂、主身廊天井ヴォールト模型／2002年頃以降 Model of the vault on the central nave of the Sagrada Familia／after c.2002	S
91	制作：サグラダ・ファミリア聖堂模型室 Taller de modelistes de la Sagrada Familia	サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面：鐘塔頂華の模型／1:25／2005-10年 Model of a spire on the Nativity façade of the Sagrada Familia／1:25／2005-10	S
92	制作：サグラダ・ファミリア聖堂模型室 Taller de modelistes de la Sagrada Familia	サグラダ・ファミリア聖堂、受難の正面：鐘塔頂華の模型／1:10／2003年 Model of a spire on the Passion façade of the Sagrada Familia／1:10／2003	S
93 - 97	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面：頂華のための幾何学模型／1:25／ 複製 Geometric model for the pinnacle of the Sagrada Familia／1:25／Reproduction	W
98	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面：花の浮彫／1894-1905年頃 Model of a flower for the Nativity façade of the Sagrada Familia／c.1894-1905	S
99	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面：葉の浮彫／1894-1905年頃 Model of a leaf for the Nativity façade of the Sagrada Familia／c.1894-1905	S
100	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面：葉の浮彫／1894-1905年頃 Model of a leaf for the Nativity façade of the Sagrada Familia／c.1894-1905	S

no.	作家名／制作者名 Artist／Produced by	作品名／スケール／複製表記／発行者名／制作年 Title／Scale／Description of the reproduction／Issued by／Production date	*所蔵 Collection
101	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面：葉の浮彫／1894-1905年頃 Model of a leaf for the Nativity façade of the Sagrada Familia／c.1894-1905	S
102	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面：バラの浮彫／1896年 Model of roses for the Nativity façade of the Sagrada Familia／1896	S
103	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面：アヒルの浮彫／1895年頃 Model of a duck for the Nativity façade of the Sagrada Familia／c.1895	S
104	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面：蠅の浮彫／1894-1900年頃 Model of a fly for the Nativity façade of the Sagrada Familia／c.1894-1900	S
105	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面：カエルの浮彫／1902-03年頃 Model of a frog for the Nativity façade of the Sagrada Familia／c.1902-03	S
106	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面：巻き貝の浮彫／1894年 Model of a winkle for the Nativity façade of the Sagrada Familia／1894	S
107	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面：鳩の石膏像 Study Model of a dove for the Nativity façade of the Sagrada Familia	W
108	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面：女性の顔の塑像断片／1898-1900年 Model of a woman's face for the Nativity façade of the Sagrada Familia／1898-1900	S
109	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面：少年の塑像断片／1898-1900年 Model of a boy for the Nativity façade of the Sagrada Familia／1898-1900	S
110	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面：少女の塑像断片／1898-1900年 Model of a girl for the Nativity façade of the Sagrada Familia／1898-1900	S
111	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面：女性の塑像断片／1898-1900年 Model of a woman for the Nativity façade of the Sagrada Familia／1898-1900	S
112	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面：キリストのトルソの塑像断片／ 1898-1900年 Model of Christ's torso for the Nativity façade of the Sagrada Familia／1898-1900	S
113	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面：女性の塑像断片／1898-1900年 Model of a woman for the Nativity façade of the Sagrada Familia／1898-1900	S
2	ジュアン・マタマラ Joan Matamala	ガウディ(デスマスク)／1926年以降 Head of Antoni Gaudi (made from his death mask)／after 1926	S
114		ガウディの死亡通知書／1926年 6 月 28 日 Remembrance card for Antoni Gaudi／28, June 1926	S
115	アルナウ帽子店 Sombrerería Arnau	ガウディの頭（帽子用）の型紙／1886年頃 Template of Antoni Gaudi's head／c.1886	S
116	外尾悦郎 Sotoo Etsuro	サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面：歌う天使たち／サグラダ・ファミリア 聖堂、降誕の正面に1990-2000年に設置 Model of the Singing Angels for the Nativity façade of the Sagrada Familia／ Installed on the Nativity façade of the Sagrada Familia from 1990 to 2000	SE
117	ジュゼップ・マリア・スビラクス Josep M. Subirachs	サグラダ・ファミリア聖堂、受難の正面／リトグラフ／2002年 Passion façade of the Sagrada Familia／Lithograph／2002	S
118	ジュゼップ・マリア・スビラクス Josep M. Subirachs	サグラダ・ファミリア聖堂、受難の正面：いばらの冠のイエス／1966年 Model of Jesus' head with the crown of thorns for the Passion façade of the Sagrada Familia／1966	S
119	ジュゼップ・マリア・スビラクス Josep M. Subirachs	サグラダ・ファミリア聖堂、受難の正面：ユダの接吻／1992年 Model of The Kiss of Judas for the Passion façade of the Sagrada Familia／1992	S
120	制作：サグラダ・ファミリア聖堂模型室 Taller de modelistes de la Sagrada Familia	サグラダ・ファミリア聖堂、聖器室模型（現在の最終案）／1:25／2014年 Model of the sacristy of the Sagrada Familia／1:25／2014	S
121	制作：サグラダ・ファミリア聖堂模型室 Taller de modelistes de la Sagrada Familia	サグラダ・ファミリア聖堂、マルコの塔模型／2020年 Model of the spire on the Evangelist Mark's tower of the Sagrada Familia／2020	S
122	アンリク・プラ・ムンファレー Enric Pla Montferrer	サグラダ・ファミリア聖堂、マリアの塔：星の冠の試作品／2020年 Prototype of a star for the crown on the tower of the Virgin Mary at the Sagrada Familia／2020	S
123	アントニ・ガウディ Antoni Gaudi	サグラダ・ファミリア聖堂、2本腕十字架の雌型（オリジナル）／1920-26年頃 Mould of a two-armed cross of the Sagrada Familia／c.1920-26	S
参考出品	制作：サグラダ・ファミリア聖堂模型室 Taller de modelistes de la Sagrada Familia	サグラダ・ファミリア聖堂、2本腕十字架模型／複製／2023年 Model of an arm of the two-armed cross of the Sagrada Familia／Reproduction／ 2023	S

no.	作家名／制作者名 Artist／Produced by	作品名／スケール／複製表記／発行者名／制作年 Title／Scale／Description of the reproduction／Issued by／Production date	*所蔵 Collection
4 ガウディの遺伝子 The Legacy of Gaudí			
124-1	Isidro Puig Boada: <i>El Temple de la Sagrada Família</i> (Col.lecció Sant Jordi 23-24: IX-X d'Art Cristià), Barcelona, Barcino, 1929		G
124-2	José F. Ràfols; Francisco Folguera: <i>Antonio Gaudí</i> , Barcelona, Canosa, 1929		G
124-3	Joan Bergós Massó: <i>Antoni Gaudí, l'home i l'obra</i> , Barcelona, Ariel, 1954		G
124-4	George R Collins: <i>Antonio Gaudí</i> , New York, George Braziller, 1960		G
124-5	James Johnson Sweeney; J. Ll. Sert : <i>Antoni Gaudí</i> , New York, Frederick A. Praeger, 1960		G
124-6	Roberto Pane: <i>Antoni Gaudí</i> , Milano, Edizioni di Comunità, 1964		G
124-7	César Martinell y Brunet: <i>Gaudí: su vida, su teoría, su obra</i> , Barcelona, C.O.A.C.B., 1967		G
124-8	Torii Tokutoshi (鳥居徳敏): <i>El mundo enigmático de Gaudí, cómo creó Gaudí su arquitectura</i> , Madrid, Instituto de España, 1983 (2 vols.)		G
124-9	Juan Bassegoda Nonell : <i>El gran Gaudí</i> , Sabadell, Ed.Ausa, 1989		Y
124-10	Jos Tomlow: <i>Gaudí, El modelo</i> , Stuttgart, University of Stuttgart, 1989		G
124-11	Juan José Lahuerta: <i>Antoni Gaudí 1852-1926: Arquitectura, ideología y política</i> , Milano, Electa, 1992		G
124-12	Jordi Bonet Armengol: <i>L'últim Gaudí</i> , Barcelona, Pòrtic, 2000		Y
124-13	<i>Gaudí: texto: le Corbusier, fotoscop: Gomis-Prats</i> , Barcelona, Ediciones Polígrafa, S.A., 1967		G
124-14	R. Descharnes; C. Prévost; F. Pujol : <i>La vision artistique et religieuse de Gaudí</i> , Lausanne, Edita S.A., 1969		P
124-15	細江英公『ガウディの宇宙』集英社、1984年		G
47-b	鳥居徳敏(復元) Torii Tokutoshi	アントニ・ガウディ：アフリカ・カトリック・ミッション、タンジール計画案 1892-93年、復元設計1階平面図1981-82年／1：100／1981-82年 Antoni Gaudí: Project for Catholic Missions in Africa, Tangiers 1892-93, Ground floor reconstructed by Torii Tokutoshi 1981-82	TT
125	イグナシオ・ブルゲラス Ignacio Brugueras	ニューヨーク・オフィスビル計画案／1917年頃 Office building for New York／c.1917	LR

*出品作品の所蔵先は以下の通りで、所蔵欄に略称で示しました。

The owners of the works are indicated by the abbreviation as follows:

S：サグラダ・ファミリア聖堂／Fundació Junta Constructora del Temple Expiatori de la Sagrada Família

A：バルセロナ市現代公文書館／AJUNTAMENT DE BARCELONA: ARXIU MUNICIPAL CONTEMPORANI

B：西武文理大学／Bunri University of Hospitality

C：カタルーニャ建築家協会／Arxiu Històric del Col·legi d'Arquitectes de Catalunya

E：ガウディ記念講座、ETSAB／Arxiu EtsaB・Càtedra Gaudí. Universitat Politècnica de Catalunya (UPC)

E(D)：ガウディ記念講座、ETSAB（バルセロナ・デザイン美術館寄託）／Arxiu EtsaB・Càtedra Gaudí. Universitat Politècnica de Catalunya (UPC)(on loan to Museu del Disseny de Barcelona)

G：株式会社グエル／Güell Co.,Ltd.

I：伊豆の長八美術館／Izu Chohachi Art Museum

LR：レウス読書センター／Centre de Lectura de Reus. Institut Municipal Reus Cultura

M：町田市立国際版画美術館／Machida City Museum of Graphic Arts

R：レウス市博物館／MUSEUS DE REUS. INSTITUT MUNICIPAL REUS CULTURA

SE：作家蔵（外尾悦郎氏）／Collection of the Artist (Sotoo Etsuro)

T：東京大学総合図書館／University of Tokyo Library System

TT：鳥居徳敏氏蔵／Collection of Torii Tokutoshi

TP：東京工芸大学中野図書館／Tokyo Polytechnic University Nakano Library

W：早稲田大学建築学教室本庄アーカイブズ／Waseda Architecture Archives

Y：山村健／Collection of Yamamura Takeshi

P：個人蔵／Private Collection

令和5年度に入る直前の3月半ば、海外との移動規制が緩和され、5月のゴールデンウィークが明けると同時に新型コロナウイルス感染症対策が緩和されました。令和元年度の終わりから約3年余り、事業形態の変更を余儀なくされてきた教育普及事業も、これに伴い徐々にコロナ前の規模に戻す、あるいは新しい生活様式に応じた実施内容への刷新を進めながら実施しました。

子ども対象の事業では、特別展に関連づけたワークショップを2つ企画・実施することができました。ひとつは所蔵作品である三木富雄《耳》の鑑賞から、身近すぎて意識することの少ない形の面白さを丁寧な観察と制作体験によって再認識するファミリーおよび成人対象のもの、もう一つは出品作家本人と手紙を通じたコミュニケーションを試みるものでした。美術家の考えや言葉を身近に感じられたことで、作品を鑑賞すること、制作することへの参加者の関心、意欲がさらに高まることを期待します。令和4年度に引き続き行われた、東山動物園猛獣画廊壁画修復プロジェクトにあわせた夏休みワークショップでは、実際の修復作業の進捗状況に応じて「補彩」の工程に注目しました。講師から注意すべき事柄の説明を聞いた後、子ども達は色鉛筆を用いたぬり絵によって補彩作業を擬似体験しました。この企画は好評につき、令和5年度から始まった県民の日学校ホリデーの特別事業としても再度実施することになりました。学校対象事業では、感染症対策緩和に伴って学年単位での来館、就業・職場体験や職場訪問および「出前アート体験」の依頼が徐々に増え、コロナ以前に近い件数を受け入れ、対応しました。その他、児童、生徒の学びを支援する場としての美術館の役割を鑑み、部活動振興室との連携や、教員による利用機会の拡充をねらいとしたティーチャーズ・ウィークスなどにも新たに取り組みしました。

一般成人対象の事業は、席の間隔を空ける、講堂の定員180名を半数に減らすなどして開催を続けてきましたが、5月の緩和以後はもとの条件に戻しました。また福田美蘭展では、コロナ前に定例化しつつあった休館日のベビーカートゥアを再開し、好評を得ました。年度末のガウディ展の関連催事では開場後早々に定員に達し、入場をお断りする場面もあり、人々の期待値の高さがうかがえました。

ボランティアによる常設展ギャラリートークは、新型

コロナの濃厚接触者の定義を根拠に短時間での活動が続いていましたが、8月からトーク時間をコロナ前の1時間に戻し、参加者の定員も無くなりました。コロナ禍の募集、研修を経て、短時間でのイレギュラーなトーク活動しか経験していないメンバーは、初めこそ若干の戸惑いはあったものの、来館者との対話を思う存分楽しめる喜びはそれを上回っているようです。

美術館協力会では、近隣美術館の展覧会を鑑賞するミニツアーを定期的に開催したほか、遠方の美術館を巡るバスツアーを3年ぶりに再開し、日帰りで藤田美術館（大阪）と大阪中之島美術館を訪問しました。作家を囲む会の再開を希望する声も挙がっており、次年度の開催に向けて検討を始めています。2024年のオリジナルカレンダーは、2012年度のポジション展出品作家であり、近年は複数の公立美術館でグループ展参加が続く文谷有佳里氏に依頼し、その原画は作者より美術館へ寄贈されました。

開室時間を午後1時から4時に短縮していた図書室も、開館時間に合わせた運用に戻し、既存の美術関連書籍のほか、他館や他施設が前年度に発行した図録や報告書などの寄贈をうけ、それらを利用者の求めに応じて公開、配架しています。年々増えていく蔵書の活用と思い切った整理が必要な時期に来ています。

刊行物では年間案内、年報のほか、年3回発行している情報紙『アートペーパー』に加え、『名古屋市美術館研究紀要』第18巻を発行しました。

1. 一般成人対象の事業

(1)講演会・解説会

年月日	時刻	内容	講 師 等	場 所	参加者
2023年 4月22日(土)	午後2時～	コレクションの20世紀 解説会 総論	深谷克典(名古屋市美術館参与)	講堂	55
2023年 4月29日(土・祝)	午後2時～	コレクションの20世紀 解説会 1900/10年	近藤将人(名古屋市美術館学芸員)	講堂	56
2023年 5月 7日(日)	午後2時～	コレクションの20世紀 解説会 40/50年代	久保田舞美(名古屋市美術館学芸員)	講堂	33
2023年 5月12日(金)	午後6時～	コレクションの20世紀 解説会 20/30/60年代	森本陽香(名古屋市美術館学芸員)	講堂	34
2023年 5月21日(日)	午後2時～	コレクションの20世紀 解説会 70/80/90年代	清家三智(名古屋市美術館学芸員)	講堂	52
2023年 7月 8日(土)	午後2時～	「マリー・ローランサンとモード」作品解説会	勝田琴絵(名古屋市美術館学芸員)	講堂	70
2023年 7月23日(日)	午後2時～	「マリー・ローランサンとモード」作品解説会	深谷克典(名古屋市美術館参与)	講堂	72
2023年 7月29日(土)	午後2時～	「マリー・ローランサンとモード」特別講演会「ココ・シャネルの真実」	山口昌子(ジャーナリスト)	講堂	67
2023年 8月11日(金)	午後2時30分～	開館35周年事業 猛獣画廊壁画修復プロジェクト 解説会	修復チームメンバー、井口智子(名古屋市美術館学芸課長)	常設展示室3	45
2023年 8月12日(土)	午後2時30分～	開館35周年事業 猛獣画廊壁画修復プロジェクト 解説会	修復チームメンバー、井口智子(名古屋市美術館学芸課長)	常設展示室3	41
2023年 8月13日(日)	午後2時30分～	開館35周年事業 猛獣画廊壁画修復プロジェクト 解説会	修復チームメンバー、井口智子(名古屋市美術館学芸課長)	常設展示室3	46
2023年 8月18日(金)	午後6時～	「マリー・ローランサンとモード」作品解説会	勝田琴絵(名古屋市美術館学芸員)	講堂	46
2023年10月 7日(土)	午後2時～	「福田美蘭—美術って、なに?」作品解説会	森本陽香(名古屋市美術館学芸員)	講堂	134
2023年10月16日(月)	午前10時30分～	「福田美蘭—美術って、なに?」休館日の「ベビーカーツアー」	森本陽香(名古屋市美術館学芸員)	特別展示室	22
2023年10月20日(金)	午後6時～	「福田美蘭—美術って、なに?」作品解説会	森本陽香(名古屋市美術館学芸員)	講堂	71
2023年11月10日(金)	午後4時30分～	「福田美蘭—美術って、なに?」地元住民向け特別鑑賞会	森本陽香(名古屋市美術館学芸員)	講堂	23
2024年 1月13日(土)	午後2時～	開館35周年事業 猛獣画廊壁画修復プロジェクト 修復完了報告会	成田朱美(壁画修復チームリーダー・愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所研究員)	講堂	82
2024年 1月21日(日)	午後2時～	「ガウディとサグラダ・ファミリア展」記念講演会「サグラダ・ファミリア—独創性の由来—」	鳥居徳敏(本展学術監修、神奈川大学名誉教授)	講堂	180
2024年 2月 4日(日)	午後2時～	「ガウディとサグラダ・ファミリア展」作品解説会	久保田舞美(名古屋市美術館学芸員)	講堂	180
2024年 2月17日(土)	午後2時～	「ガウディとサグラダ・ファミリア展」作品解説会	久保田舞美(名古屋市美術館学芸員)	講堂	180

(2)コレクション解析学

当館のコレクションから1点を選び、その魅力を学芸員が紹介する美術講座。

コレクション解析学第1回

日 時：2023年 8月26日(土)午後2時～

参加者数：76名

演 題：“舞妓を描く”ということ

作 品：鬼頭鍋三郎《舞妓六撰》1976年

講 師：久保田舞美(名古屋市美術館学芸員)

内 容：鬼頭鍋三郎（1899-1982）は、現在の名古屋市に生まれ、美術グループ「サンサシオン」を立ち上げ、帝展に入選するなど中京画壇の中心的存在として活躍した。初期から女性像を多く描

いていた鬼頭は、昭和30年代後半から舞妓を主題として作品を制作するようになった。本講座では、美術の中で舞妓がどのように描かれてきたのかを辿るとともに、それまで日本画の題材として描かれることの多かった舞妓を、鬼頭は油彩でどのように描き出そうとしたのかを探った。また、木版画集『舞妓六撰』を取り上げ、遺族所蔵の舞妓のデッサンや、愛知県立芸術大学芸術資料館が所蔵している全版木のうち、《舞妓六撰 1 正月舞（沙予子）》の版木を紹介し、刷

られた順番に色を重ねるシミュレーション画像を見せながら、どのようなプロセスで版画が制作されたのかを考察した。さらに、『舞妓六撰 5 宵雪（豊千代）』のモデルとなった人物と面会したことを報告し、その際に聞いた当時のデッサンや交流の様子を紹介した。

コレクション解析学第2回

日時: 2023年11月11日(土)午後2時～

参加者数: 47名

演題: 読書に適さない本

作品: 中村宏《イカルス》1973年

講師: 清家三智(名古屋市美術館学芸員)

内容: 浜松市出身の中村宏(1932-)は1950年代から絵画、ドローイング、イラストレーション、ダイアグラム、レタリングなど線描をベースとした図画に取り組んでいる。「イカルス」は小説家・稲垣足穂(1900-1977)が1940年に発表した掌編小説で、長い歴史の中で人類が抱いてきた空を飛ぶことへの憧れと飛行に関する物理学的な知識、飛ぶことが死を覚悟することと地続きであった時代の複雑な心境などが、ない交ぜになっている。機関車や飛行機などの乗り物に強い興味と知識をもった二人が、共通の知人である編集者・松岡正剛(1944-2024)によって対話の機会を得、中村が総銅製の機甲本イカルスを刊行するに至るまでの経緯と作品を巡る思想を紹介するとともに、『イカルス』で示された図画とテキストの照合、解説を行った。

コレクション解析学第3回

日時: 2024年2月24日(土)午後2時～

参加者数: 58名

演題: 集団撮影行動とは何か—学生写真運動資料解説

作品: (資料)全日本学生写真連盟関連資料1966-1972年
講師: 竹葉丈(名古屋市美術館学芸員)

内容: 全国の大学サークルに亘る組織〈全日本学生写真連盟(全日、1952年5月設立)〉の表現が大きく変貌したのは、1965年。それまでの学生写真の「常套」表現であった「共同制作」では、学生各自の個性や主観が失われつつあった。写真評論家・福島辰夫(1928-2017)を指導者とした〈全日〉の活動は、「撮影者が一人の写真家として、あるテーマについて自由に撮影し、その結果としての写真を一つの大きい表現としてまとめ上げていく」、その手法は、〈集団撮影行動(集撮)〉と呼ばれた。やがて「政治の時代」の中で、その手法は急進的な展開を見せて行く。1968年10月21日「国際反戦デー」に併せて全国50の都市で巻き起こったデモの模様は、〈全日〉の学生たちによって撮影され、翌1969年に写真集『10.21とはなにか』に結実、出版された。

そこでは、デモ参加者が特定されないよう、「アレ、ブレ、ボケ」で表現されたが、その技法は観る者に臨場感を与えた。だが、学生運動の挫折と退潮とともに所謂「斗争写真」は転向を迫られ、彼等はより社会的なテーマを目指していく。解説会では、公害キャンペーンとして全国に亘る集撮の成果を見せる写真集『この地上にわれわれの国はない』(1970年)、「広島デー」と題した複数次に亘る撮影行の成果である写真集『ヒロシマ・広島・hirou-jima』(1972年)の紙面展開をパワー・ポイントで紹介し、また年譜形式のレジメを下に、戦後日本の写真表現のなかで彼等が獲得した写真表現について考察・紹介した。

(3)ワークショップ「どこがおもしろい?! —三木富雄《耳》について」

日時: 5月28日(日)

午前10時～12時／午後2時～4時

対象: 【午前】小学生とその保護者／【午後】一般

場所: 2階講堂、企画展示室1

スタッフ: (名古屋市美術館学芸員) 清家三智、森本陽香、
近藤将人、久保田舞美

参加者数: 【午前】20名／【午後】14名

内容: 自分の身体(の一部)をじっくり観察する機会か

ら、普段は気づかない複雑な形状や質感を意識し、身近な造形物に改めて目を向け、面白さを探求するプログラム。

スマートフォンで各自の耳を撮影、フォトプリンターで出力した写真で初めて自分の耳と向き合った参加者は、展示室に移動して三木富雄(1938-1978)の彫刻作品《耳》(1972年)と自分の耳を見比べ、質感など印象がどのように異なる

かを考えた。講堂に戻ってから気づいたことを述べ合い、作者の三木富雄や耳に関する簡単なレクチャーの後、耳の特徴は何かを考えながら、粘土で耳を制作した。その際、写真からの模刻、創作を加えること、いずれも可とした。最後に各種体験を振り返り、作者は耳の形のどんなど

ころに興味を抱いたのか意見交換を行った。

感染症対策緩和後、初のワークショップは自分の耳を初めて見た驚き、粘土の感触の気持ちよさ、他者と自由に話し合う楽しさなど、参加者が感覚を共有する喜びであふれていた。

(4)館外での講演活動

生涯学習施設の公開講座で、講座のテーマに沿った特別展や常設展での調査・研究の成果発表を行いました。(実施場所：イーブルなごや)

回	講座名	開催日	内容
第1回	特別展にみる女性たち2023	2023年7月8日	マリー・ローランサンとモード ～画家としてパリの女性を描く～
第2回	常設展にみる女性たち2023	2023年12月3日	Womanー(私)の物語

2. 子ども対象の事業

年月日	時刻	内容	講師等	場 所	参加者
2023年5月28日(日)	午前10時～	「コレクションの20世紀」関連ワークショップ どこがおもしろい?!ー三木富雄《耳》について (ファミリーの部)	清家三智、森本陽香、近藤将人、久保田舞美(名古屋市美術館学芸員)	講堂・企画展示室	20
2023年8月19日(土)	午前10時～	絵のお医者さんの仕事(午前)	成田朱美(愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所研究員)	講堂・常設展示室	19
2023年8月19日(土)	午後2時～	絵のお医者さんの仕事(午後)	成田朱美(愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所研究員)	講堂・常設展示室	22
2023年8月20日(日)	午前10時～	絵のお医者さんの仕事(午前)	成田朱美(愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所研究員)	講堂・常設展示室	22
2023年8月20日(日)	午後2時～	絵のお医者さんの仕事(午後)	成田朱美(愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所研究員)	講堂・常設展示室	20
2023年8月22日(火)	午前10時～	絵のお医者さんの仕事(午前)	成田朱美(愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所研究員)	講堂・常設展示室	19
2023年8月22日(火)	午後2時～	絵のお医者さんの仕事(午後)	成田朱美(愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所研究員)	講堂・常設展示室	28
2023年9月30日(土)	午前10時～	みらんさんに手紙を書こう!	森本陽香(名古屋市美術館学芸員)	講堂・企画展示室	12
2023年11月3日(金祝)	午前10時～	びじゅつかんでアウトドア 彫刻ウォッチング(午前)	清家三智、森本陽香、久保田舞美(名古屋市美術館学芸員)	講堂・屋外(美術館敷地内)	21

2023年11月3日(金祝)	午後2時～	びじゅつかんでアウトドア 彫刻ウォッチング(午後)	清家三智、森本陽香、久保田舞美(名古屋市美術館学芸員)	講堂・屋外(美術館敷地内)	5
2023年11月12日(日)	午前10時～	びじゅつかんでアウトドア 彫刻ウォッチング(午前)	清家三智、森本陽香、久保田舞美(名古屋市美術館学芸員)	講堂・屋外(美術館敷地内)	9
2023年11月12日(日)	午後2時～	びじゅつかんでアウトドア 彫刻ウォッチング(午後)	清家三智、森本陽香、久保田舞美(名古屋市美術館学芸員)	講堂・屋外(美術館敷地内)	7
2023年11月24日(金)	午前10時～	「県民の日 学校ホリデー」ワークショップ「絵のお医者さんの仕事」(午前)	愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所研究員、名古屋市美術館学芸員	講堂・常設展示室	33
2023年11月24日(金)	午後2時～	「県民の日 学校ホリデー」ワークショップ「絵のお医者さんの仕事」(午後)	愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所研究員、名古屋市美術館学芸員	講堂・常設展示室	40
2024年2月18日(日)	午前10時～	折って丸めてくっつけてカラフル画用紙で3D工作！(午前)	清家三智、森本陽香、久保田舞美(名古屋市美術館学芸員)	講堂・常設展示室	22
2024年2月18日(日)	午後2時～	折って丸めてくっつけてカラフル画用紙で3D工作！(午後)	清家三智、森本陽香、久保田舞美(名古屋市美術館学芸員)	講堂・常設展示室	23
2024年3月3日(日)	午前10時～	折って丸めてくっつけてカラフル画用紙で3D工作！(午前)	森本陽香、久保田舞美(名古屋市美術館学芸員)	講堂・常設展示室	16
2024年3月3日(日)	午後2時～	折って丸めてくっつけてカラフル画用紙で3D工作！(午後)	森本陽香、久保田舞美(名古屋市美術館学芸員)	講堂・常設展示室	17

(1)学校休業日の体験活動の推進

名古屋市美術館では平成15年度から、学校休業日を対象に、美術や美術館に親しむプログラムを継続して実施している。これは名古屋市教育委員会が平成22年度まで推進してきた「なごやっ子教育推進計画」の後継として策定した「名古屋市教育振興基本計画」の一環で行うものである。

令和5年度は、来館者の利用状況や興味関心を考慮し、「美術をたのしむプログラム」として事前申込制3種類と自由参加1種類、あわせて4種類の活動を実施した。事前申込制のうち1種類は、当館ボランティアとともに新たに内容を企画し、実施した。令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことから、10名程度のグループでの鑑賞活動などを復活し、開催した。

①事前申し込みが必要なプログラム

1) 開館35周年記念事業 猛獣画廊壁画修復プロジェクト 絵のお医者さんの仕事
日 時 8月19日(土)、20日(日)、22日(火)

	【午前】午前10時～午前11時30分
	【午後】午後2時～午後3時30分
対 象	小中学生(保護者の同伴なし)
場 所	2階講堂、常設展示室3
講 師	成田朱美(愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所研究員)
参加者数	130名(3日間延べ)
スタッフ	(名古屋市美術館学芸員) 久保田舞美、清家三智、森本陽香
内 容	修復家を講師に迎え、絵画を修復する方法や考え方を学ぶプログラム。令和4年度に開催した同内容のワークショップが大変好評で、多数の応募者があったため、再度開催することとした。「猛獣画廊壁画修復プロジェクト」の進捗状況に合わせ、今回のテーマは補彩とした。展示室で実際に修復中の作品を見ながら、どのようにキャンヴァスを修繕し、色を補うのか、講師から説明を聞いた参加者は、普段目にする機会の少ない修復の現場を興味津々で見つめていた。

鑑賞後、講堂に戻り、各自でぬり絵による補彩の体験を行った。ただ似た色を塗るだけでなく、修復箇所がはっきり分かるようにしておくことや、資料から欠損部分の模様や色を類推する方法なども学んだ。



2) びじゅつかんでアウトドア 彫刻ウォッチング

日 時 11月3日(金・祝)、12日(日)

【午前】午前10時～午前11時30分

【午後】午後2時～午後3時30分

対 象 小中学生

場 所 2階講堂・美術館前庭・サンクンガーデン

参加者数 42名(2日間延べ)

スタッフ (名古屋市美術館学芸員) 森本陽香、清家三智、久保田舞美
(ボランティア)12名

内 容 美術館前庭やサンクンガーデンに設置されている屋外彫刻を鑑賞し、彫塑用粘土(土粘土)を使用して、作品の質感(肌触り)を表現した。石やブロンズなどさまざまな素材でつくられた彫刻の質感に迫るにあたり、粘土べら以外にも歯ブラシやアルミホイル、つまようじなど、身の回りの身近な道具を用意した。参加者は、自分が気に入った作品の質感を出すために、さまざまな道具を

試しながら制作を行った。質感に着目することで、作品の細部をしっかりと観察し、作者がどんな工夫をこらしたかについても鑑賞を深めることができた。



3) 折って丸めてくっつけて カラフル画用紙で3D工作!

日 時 2024年2月18日(日)、3月3日(日)

【午前】午前10時～午前11時30分

【午後】午後2時～午後3時30分

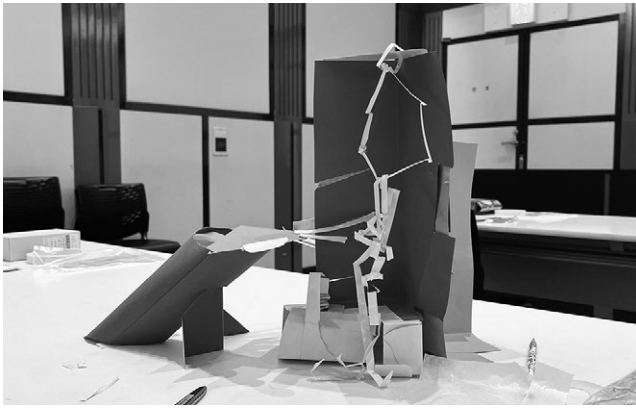
対 象 小中学生

場 所 2階講堂・常設展示室1

参加者数 78名(2日間延べ)

スタッフ (名古屋市美術館学芸員) 森本陽香、清家三智、久保田舞美
(ボランティア)10名





②自由参加プログラム

1) 子ども向けワークシート

配布期間 4月15日(土)～6月4日(日)、6月24日(土)～9月3日(日)、9月23日(土・祝)～11月19日(日)、12月19日(火)～3月10日(日)

対 象 制限なし

配架場所 常設展受付、常設展示室入口

配付部数 1477枚

内 容 名品コレクション展Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの出品作品をもとに、両面4ページのA5判リーフレット型のワークシートを作成し、常設展示室受付で配架した。ワークシートを使い作品をよく見ることを通して、美術作品を見ることの楽しさを感じてもらおうきっかけとした。

2) 芸術と科学の杜

「芸術と科学の杜」とは、名古屋市美術館と科学館が連携して、市民の豊かな感性と創造力を育む魅力ある事業を継続して実施するとともに、白川公園周辺の文化施設や地域とも協力して連携の輪を広げることで「芸術と科学を中心にしたさまざまな文化が融合し、新しい文化を生み出すまち」の形成を目指すものである。

この事業の目的を実現するため、地元商店街や周辺の施設、関係機関で構成する「芸術と科学の杜連携推進会議」を設立し、今年度は以下の事業を実施した。

サイエンス&アートフェスティバル

日 時 10月28日(土)、29日(日)
9時30分～16時30分

場 所 名古屋市美術館・名古屋市科学館および白川公園エリア

参加者数 3,762名

内 容

(1) 謎解きゲーム「白川公園謎解き探偵団入団試験」

美術館・科学館および白川公園内の屋外彫刻・展示物を巡りながら、謎解きをするイベントを実施した。

ア 場 所 名古屋市美術館・名古屋市科学館
および白川公園エリア

イ 実施回 2回(28日(土)午前9時30分～午後4時30分／29日(日)午前9時30分～午後4時30分)

ウ 参加者 656名
(1回目:278名／2回目:378名)

(2) ふれあい動物園「かわいいワンちゃん、小動物とふれあおう！」

パピヨン、ワイマラナー等の犬、その他モルモットやカメなどの動物と間近でふれあうことができる、ふれあい動物園を実施した。

ア 場 所 科学館敷地内

イ 実施回 2回(28日(土)午前9時30分～午後4時30分／29日(日)午前9時30分～午後4時30分)

ウ 参加者 1,897名
(1回目:680名／2回目:1,217名)

(3) 缶バッジワークショップ「オリジナル缶バッジを作ろう！」

アートをテーマにしたオリジナルイラストに色を塗ったりデコレーションをしたりし、自分だけのオリジナル缶バッジを作るワークショップを実施した。

ア 場 所 白川公園エリア

イ 実施回 2回(28日(土)午前9時30分～午後4時30分／29日(日)午前9時30分～午後4時30分)

ウ 参加者 211名
(1回目:103名／2回目:108名)

(4) キッチンカー

各日キッチンカーが4台出店した。

ア 場 所 白川公園エリア

イ 実施回 2回(28日(土)午前9時30分～午後4時30分／29日(日)午前9時30分～午後4時30分)

ウ 参加者 998名
(1回目:442名／2回目:556名)

地元交流事業

特別展会期中、地元の方を美術館へ招待し、担当学芸員の作品解説と自由観覧を実施した。

「福田美蘭ー美術って、なに？」展

ア 開催日 11月10日(金)

イ 参加者 23名

3. 学校対象事業

(1)ボランティアによる学校等団体向け常設展ギャラリートーク

名古屋市美術館では、常設展を鑑賞する学校等の団体来館者に対して、希望によりボランティアによる常設展ギャラリートークを実施している。これは来館者が5－7名程度のグループにわかれて、ボランティアと一緒に展示室をまわりながら、対話を通してじっくりと美術を鑑賞するものである。本年度は、以下の学校団体・一般団体に対してギャラリートークを実施した。

●学校団体（職業体験・職場訪問含む）

No.	実施日	団体名	来館者数(生徒数)	引率者数	対応ボランティア数
1	2023年 5月31日(水)	名古屋造形大学 教職課程	18	1	5
2	2023年 6月29日(木)	大府市立大府西中学校2年生	210	10	17
3	2023年 7月 6日(木)	名古屋大谷高等学校2年生	4	0	2
4	2023年 7月12日(水)	椋山女学園中学校3年生	4	0	2
5	2023年 7月13日(木)	名古屋市立東志賀小学校2年生	61	4	10
6	2023年 7月19日(水)	愛知県立岩倉総合高校1－3年生	22	1	4
7	2023年 7月25日(火)	尾張旭市立東中学校美術部	22	2	4
8	2023年 7月26日(水)	南山高等学校女子部1年生	3	0	2
9	2023年 7月28日(金)	名古屋学院 名古屋高等学校1－3年生	9	2	2
10	2023年 8月 1日(火)	名古屋市立一柳中学校美術部	25	1	5
11	2023年 8月 4日(金)	名古屋市立神沢中学校美術部	20	2	4
12	2023年 8月 9日(水)	名古屋市立名古屋商業高等学校2年生	4	0	2
13	2023年 8月23日(火)	名古屋学院 名古屋中学校2年生	5	0	1
14	2023年 8月29日(火)	安城市立安祥中学校美術部	23	2	4
15	2023年 8月29日(火)	みよし市立北中学校芸術部	28	2	5
16	2023年 9月26日(火)	尾張旭市立旭中学校1年生	42	1	10
17	2023年10月 6日(金)	岐阜県海津市立城南中学校1年生	28	2	6
18	2023年10月18日(水)	名古屋市立名塚中学校2年生	59	2	10
19	2023年10月20日(金)	東海市立平洲中学校 特別支援学級	7	3	2
20	2023年10月27日(金)	桑名市立陵成中学校2年生	5	0	2
21	2023年11月 9日(木)	名古屋市立若宮商業高等学校1年生	2	0	1
22	2023年11月14日(火)	聖隷クリストファー中・高等学校 中学2年生	11	2	2
23	2023年11月18日(土)	愛知県高等学校文化連盟 西三河支部実技講習会	7	3	2
24	2023年12月21日(木)	名古屋柳城女子大学	33	1	5
25	2024年 1月12日(金)	名古屋市立吹上小学校4年生	63	4	8
26	2024年 1月16日(火)	名古屋市立富田中学校1年生	6	0	1
27	2024年 1月16日(火)	名古屋市立千鳥丘中学校2年生	4	0	1
28	2024年 1月17日(水)	名古屋市立志段味中学校2年生	17	0	1
29	2024年 1月18日(木)	名古屋市立港明中学校1年生	7	1	1
30	2024年 1月18日(木)	名古屋市立汐路中学校2年生	6	0	1
31	2024年 1月19日(金)	名古屋市立一柳中学校2年生	6	0	2
32	2024年 1月19日(金)	名古屋市立豊正中学校2年生	2	0	
33	2024年 1月19日(金)	名古屋市立若水中学校2年生	3	0	

34	2024年1月23日(火)	名古屋市立千種台中学校1年生	5	0	4
35	2024年1月23日(火)	名古屋市立神丘中学校1年生	8	0	
36	2024年1月23日(火)	名古屋市立若葉中学校1年生	22	0	
37	2024年1月24日(水)	名古屋市立津賀田中学校1年生	7	1	2
38	2024年1月24日(水)	名古屋市立森孝中学校1年生	4	0	
39	2024年1月24日(水)	名古屋市立東港中学校2年生	7	0	
40	2024年1月25日(木)	名古屋市立前山小学校2年生	61	4	8
41	2024年1月25日(木)	名古屋市立駒方中学校2年生	7	0	1
42	2024年1月25日(木)	名古屋市立桜田中学校1年生	5	0	1
43	2024年1月25日(木)	名古屋市立伊勢山中学校2年生	2	0	1
44	2024年1月25日(木)	名古屋市立原中学校2年生	2	0	
45	2024年2月1日(木)	名古屋市立川名中学校1年生	6	0	1
46	2024年2月9日(金)	名古屋市立港北中学校1年生	15	1	4
47	2024年2月20日(火)	名古屋市立比良西小学校5年生	37	4	4
48	2024年2月20日(火)	津島市立天王中学校1年生	17	1	3
49	2024年3月6日(水)	アップビート インターナショナルスクール 小学部1年生	24	4	4
50	2024年3月8日(金)	岡崎市立矢作中学校1年生	4	1	1
51	2024年3月8日(金)	瀬戸市立水野中学校2年生	43	0	7
計			1042	62	165

●一般団体

No.	実施日	団体名	来館者数	引率者数	対応ボランティア数
1	2023年10月28日(土)	弥富市文化協会	11	1	2
2	2024年2月22日(木)	アートな美	16	0	10
3	2024年2月22日(木)	江南市適応指導教室「You・輝」	5	4	2
計			32	5	14
総計			1074	67	179

(2)アートカード保管校一覧

アートカードは、名古屋市美術館の所蔵作品の中から60点を選び、はがき大の複製図版に仕立てた鑑賞学習用補助教材である。名古屋市立の小中学校に対しては各区に設けた保管校を通して、それ以外の学校・団体には美術館から直接貸出を行い、鑑賞学習の普及に努めている。

令和5年度 アートカード保管校一覧

区	学校名	担当の先生	ケース数	保管ケース番号
千種区	城山中	野村 武史	3	2、3、4
東 区	桜丘中	若山 佳代	3	1、5、6
北 区	如意小	山崎 美佳	4	7、8、9、10
西 区	なごや小	樋田 裕二	4	11、12、13、61
中村区	稲西小	磯部 裕一	3	15、16、26
中 区	老松小	津田 沙季	3	17、18、19
昭和区	村雲小	社本 陽香	3	20、21、22
瑞穂区	瑞穂ヶ丘中	宮野 潤一	3	23、24、25
熱田区	日比野中 (南校舎)	毛利 誠	2	27、28
中川区	明正小	大島 聖矢	4	29、30、
	山王中	佐久間貴子		31、33
港 区	東港中	佐藤由利子	3	34、35、36
南 区	桜田中	田中 佐知	2	62、63
守山区	森孝中	小木曾夕貴	4	42、43、44、45
緑 区	東丘小	原 敏史	5	46、47、48、49、50
名東区	高針台中	岩崎かりん	4	51、52、53、54
天白区	御幸山中	内田 真穂	4	55、56、57、58

(3)出前アート体験

①東海市立平洲中学校

プログラム名 美術館見学の事前学習＋見つけてみよう！
美術のみりよく

日 時 10月5日(木)
午前9時45分(2限)～午前11時25分(3限)

場 所 教室

学 年 特別支援学級9名

講 師 (名古屋市美術館学芸員)清家三智

授業内容 教室内のPCと大型モニターを使用し、以下の活動を行った。なお、学習補助として講師が話した内容は即座に字幕に変換されて表示されるようになっており、別の教室で遠隔受講した生徒もいた。

令和5年度 アートカード保管校別貸出実績一覧

区	貸出先	ケース数	貸出期間
千種区	城山中	3	4月
東 区	なし	0	
北 区	なし	0	
西 区	なごや小	2	10月
中村区	稲西小	1	2月16日
中 区	なし	0	
昭和区	なし	0	
瑞穂区	瑞穂ヶ丘中	3	
熱田区	なし	0	
中川区	明正小	2	11月、3月
	赤星小	1	9月13日～3月22日
港 区	なし	0	
南 区	桜田中	1	1月、2月
守山区	なし	0	
緑 区	なし	0	
名東区	なし	0	
天白区	なし	0	

令和5年度 美術館からの直接貸出実績

No.	学校・団体名	ケース数	貸出期間
1	松原小学校トワイライトスクール	1	4月10日～4月21日
2	春日井市立松山小学校	1	8月29日～9月18日
3	リーフラス株式会社 (部活動支援受託業者)	1	9月6日～3月6日
4	愛知県立岡崎北高等学校	2	11月13日～12月22日
5	佐野市立吉澤記念美術館	1	12月18日～2月20日
6	北名古屋市立天神中学校	1	3月1日～7月31日(予定)

計6件7ケース

①名古屋市美術館はこんなところですよ

授業の約2週間後に美術館見学を控えた生徒たちが、初めての場所でも緊張することなく安心して過ごせるよう、事前に情報を得るためのホームページの見方から、美術館は何をするための場所か、建物の外観や構造、トイレをはじめとする各設備、気持ちよく過ごすための約束ごとなどについて写真付きのライドショーで丁寧に説明した。

②対話型鑑賞

生徒たちは美術館見学時、ボランティアによるギャラリートークを体験する予定になっていたが、初めて経験することへのイメージが湧かず不安を感じていると担任教

論から指摘があった。その予行演習として所蔵作品であるカーロ《死の仮面を被った少女》と松下春雄《花をもつ女》の2点の画像を見比べ、共有点や相違点など、気づいたことを自由に発言し合った。

一人ひとりの発言、気づきをクラス全員で共有することで、同じ作品を見ていても気になることが人によって違うこと、誰かと一緒に見るとより多くのことに気づけることを実感し、生徒たちは2週間後の見学時もリラックスしてギャラリートークを楽しむことができた。

②中区 松原小学校

プログラム名 見つけてみよう！美術のみりょく
日 時 10月18日(水)
午前9時45分(2限)～午前11時30分(3限)
場 所 各クラス教室
学 年 1年生2クラス(46名)*1クラスずつ実施
講 師 (名古屋市美術館学芸員)清家三智
授業内容 学習用端末と「ロイロノート・スクール」および教室内のモニターを使用し、以下の活動を行った。各クラス担任と相談の結果、児童の興味・関心に応じてクラスごとに別内容とした。

授業①「テーブルの上には何がある？」

市美術館の所蔵作品から静物画2点を選び、まずキスリング《新聞のある静物》の画像を児童たちに10秒間見せた後タブレットの表示を見えなくした。絵の中には何があったか、色や形はどんなものだったか、いくつあったか、テーブルの周りの様子はどうか、などについて記憶を頼りに答えさせることで「よく見て」と言われていても、実は気になるところだけを部分的に見て全体を見ていないことに気づかせた。その後、再び画像を見せ、同じ質問を再度問いかけ、児童たちが気づいたことは積極的に発言させた。

2点目(真野紀太郎《薔薇花》)も同様に観察させ、学芸員からの問いに挙手で発言させた。最後に2作品の画像を並べて見せ、共通点や相違点など、気づいたことを発言させた。

授業での経験から、児童たちは率先して作品の隅々を丁寧に観察し、何がどのように描かれているかを言葉に(言語化)して伝

えることができるようになった。

授業②「どんな動物がいるかな？」

市美術館で修復作業中だった《東山動物園猛獣画廊壁画》3点を取り上げ、授業①とほぼ同様の流れで観察し、作品をすみずみまで自発的に見る体験をさせる。美術館で絵のお医者さんに作品を治してもらっていること、なぜ治す必要があるのか、そもそもなぜこのような絵が描かれたのか、などの話を小学1年生にも理解できるようかみ砕いて簡潔に伝え、美術館にある作品(文化財)を守る大切さを学ばせた。

児童たちは説明にも熱心に耳を傾けていたが、作品に登場する動物があまりに多く魅力的だったためか、そちらへの興味が尽きない様子だった。

③東区 愛知教育大学附属名古屋小学校

プログラム名 見つけてみよう！美術のみりょく
日 時 10月27日(金)
午前8時45分(1限)～午前11時35分(3限)
場 所 各クラス教室
学 年 2年生3クラス(90名)*1クラスずつ実施
講 師 (名古屋市美術館学芸員)清家三智
授業内容 学習用端末と教室内のモニターを用いて以下の活動を行った。

「テーブルの上には何がある？」

市美術館の所蔵作品から静物画2点を選び、まずキスリング《新聞のある静物》の画像を児童たちに10秒間見せた後タブレットの表示を見えなくした。絵の中には何があったか、色や形はどんなものだったか、いくつあったか、テーブルの周りの様子はどうか、などについて記憶を頼りに答えさせることで「よく見て」と言われていても、実は気になるところだけを部分的に見て全体を見ていないことに気づかせた。その後、再び画像を見せ、同じ質問を再度問いかけ、児童たちが気づいたことは積極的に発言させた。

2点目(真野紀太郎《薔薇花》)も同様に観察させ、学芸員からの問いに挙手で発言させた。最後に2作品の画像を並べて見せ、共通点や相違点など、気づいたことを発言させた。経験を通して児童たちは率先して作品の隅々を丁寧に観察し、何がどのように描かれているかを言葉に(言語化)して伝

えられるようになった。

直後の週末に作品展が控えていることを踏まえ、友人や他学年の児童の作品に対しても同様によく観察し、感想を伝え合うことの大切さを伝えて授業のまとめとした。

④天白区 原小学校

プログラム名 見つけてみよう！ 美術のみりょく
日 時 11月13日(月)
午前9時45分(2限)～午前11時30分(3限)
場 所 特活室
学 年 5年生4クラス(116名)*2クラスごとに実施
講 師 (名古屋市美術館学芸係長)保崎裕徳
授業内容 学習用端末と「ロイロノート・スクール」を使用して、以下の活動を行なった。

「名作を鑑賞しよう」

エドヴァルド・ムンクの《叫び》を大型スクリーンに投影したあと、一旦画像を消す。《叫び》について覚えていることを、児童は各自ワークシートに書き出す。また、《叫び》の人物がどんなポーズだったかを、各々再現してみる。気づきや意見を出し合った後で、各自端末を開き、《叫び》がどんな絵だったかを細部にわたって確認する。その後、作品についての補足説明を行い、《叫び》の背景に描かれたとされる風景の写真と絵を見比べ、ムンクが実際の風景を見えるまま描くのではなく、自分の絵とするために変更したところや工夫したところはどこか、考えを発表させた。

⑤中川区 常磐小学校

プログラム名 美術作品の秘密をさぐる
日 時 11月17日(金)
午前9時40分～午前10時25分
場 所 体育館
学 年 3年生4クラス(121名)*学年全体で実施
講 師 (名古屋市美術館学芸員)勝田琴絵
授業内容 名古屋市美術館が所蔵する北川民次(1894-1989)の作品《トラルパム霊園のお祭り》を題材として授業を行った。

まず初めに前方のプロジェクターで図版を示し、何が描かれているかをよく観察してもらった。また、作品全体からどのような印象を受けるか、なぜそのように思ったかという質問をしたところ、悲しく暗い印

象(お墓があるから、女の人たちの表情が悲しそう)という声が多く挙げられた。

次に、この作品が描かれたメキシコおよびトラルパムの位置を地図で確認したのち、作者の北川民次の経歴について簡単に紹介した。彼とメキシコで交流のあった人物である、ディエゴ・リベラの壁画作品も紹介し、メキシコ壁画のように時間も場所も様々な要素を一つの画面に構成するモンタージュの手法がこの作品にも用いられていることを示した。

さらに、冒頭に探してもらった通り、一つの画面に「生」と「死」のモチーフが同居していることをきっかけに、メキシコの死生観や「死者の日」についても説明した。映画「リメンバー・ミー」を切り口に、映画にも登場する画家フリーダ・カーロと当館所蔵作品《死の仮面を被った少女》を紹介した。

新しい命に生まれ変わる過程として「死」を捉えるメキシコの死生観や、死者の魂を明るく迎え入れるメキシコの風俗を知ったうえで作品をみると、悲しく暗い印象に内包される「生」への希望に気が付き、作品の印象が変わることを狙いとした。

⑥天白区 原小学校

プログラム名 美術作品の秘密をさぐる
日 時 11月22日(月)
午前9時45分(2限)～午前11時30分(3限)
場 所 特活室
学 年 4年生3クラス(96名)*3クラスを二分して実施
講 師 (名古屋市美術館学芸員)竹葉丈
授業内容 名古屋市美術館が所蔵するメキシコの女性画家フリーダ・カーロ(1907-1954)の作品《死の仮面を被った少女》を題材として授業を行う。

まず初めにパワー・ポイントでカラー図版を紹介するとともに、事前に担当の先生に事前に送っていた簡単なレジュメを全員に配り、作品に描かれた場面について想像してもらい、担当の先生の協力を得て、複数の子供たちに絵に対する自身の第一印象を発表してもらった。荒野に立つ骸骨の仮面を被った少女に対しては、一様にある種の寂しさや恐怖、何か悲しい物語があるような感想を得た。

作品の解題に入る前に、メキシコシティが本市と姉妹都市であることを述べ、メキ

シコの位置を世界地図、南北アメリカ地図を確認すべく、クイズ形式で質問してみたが反応は芳しくなかったが、メキシコの地図を見せ、メキシコ湾がカリブ海、大西洋につながっていることを地図で確認した時に、海賊映画のタイトルを口にしたところ、思いがけない反応を得た。子どもたちの興味の方向性と情報量に感心した。

その後、作品に戻り、絵の中の少女が被る骸骨の仮面の意味を、メキシコの死生観に照らし合わせて紹介、少女が手にしている花（＝マリーゴールド）が、現世と彼岸とをつなぐ象徴として、メキシコの民族行事「死者の日」に於いて重要な意味を持つことを解説した。一通りの解説の後、数年前に製作・公開されたディズニー映画『リメンバー・ミー』のスチルを見せると、子供たちの理解と興味は一気に昂まった。その後、少女の足元に置かれたジャガーの仮面に込められた意味について紹介し、「骸骨」のイメージとともに、メキシコに於ける仮面の意味と特性について紹介した。

最後に作者であるフリーダ・カーロの人生と制作活動について紹介したが、先に挙げたディズニー映画にも主人公の冒険を助ける役回りで登場していることもあってか、作品の成り立ちとともに作家に対しても興味を持ってくれた。以上、作品をはじめて見た時に感じた怖さを払拭し、作品が持つ奥深さと悲しさを確認できたのではないだろうか。少し時間が余ったため、パワー・ポイントで用意したメキシコのマスクを着せ替えて、生徒達の印象を聞いてみた。授業終了後に4、5人の生徒たちが前に来て質問と感想を述べてくれたことは望外の喜びであった。

⑦守山区 小幡北小学校

プログラム名 見つけてみよう！美術のみりよく
日 時 12月12日(水)
午前9時35分(2限)～午前11時20分(3限)
場 所 各クラス教室
学 年 1年生2クラス(55名)*クラスごとに実施
講 師 (名古屋市美術館学芸員)清家三智
授業内容 学習用端末と教室内のモニターを用いて以下の活動を行った。

「テーブルの上には何がある？」

市美術館の所蔵作品から静物画2点を選び、まずキスリング《新聞のある静物》の画像を児童たちに10秒間見せた後タブレットの表示を見えなくした。絵の中には何があったか、色や形はどんなものだったか、いくつあったか、テーブルの周りの様子はどうか、などについて記憶を頼りに答えさせることで「よく見て」と言われていても、実は気になるところだけを部分的に見て全体を見ていないことに気づかせた。その後、再び画像を見せ、同じ質問を再度問いかけ、児童たちが気づいたことは積極的に発言させた。

2点目(真野紀太郎《薔薇花》)も同様に観察させ、学芸員からの問いに挙手で発言させた。最後に2作品の画像を並べて見せ、共通点や相違点など、気づいたことを発言させた。

授業を通して児童たちは、率先して作品の隅々を丁寧に観察し、何がどのように描かれているかを言語化して伝えられるようになった。授業後、児童からは「(絵本『ミッケ!』を見るときのように)よく見てさがして見つけることが楽しかった」などの感想が聞かれた。

⑧北区 大杉小学校

プログラム名 美術作品の秘密をさぐる
日 時 1月11日(木)
午前10時40分～午前11時25分
場 所 体育館
学 年 4年生2クラス(59名)*学年全体で実施
講 師 (名古屋市美術館学芸員)勝田琴絵
授業内容 名古屋市美術館が所蔵する北川民次(1894-1989)の作品《トラルパム霊園のお祭り》を題材として授業を行った。

まず初めに前方のプロジェクターで図版を示し、何が描かれているかをよく観察してもらった。また、作品で描かれている舞台はどのような場所(国)か、どのようなところからそのように思ったかという質問をしたところ、石造りの塀や教会に注目し、ヨーロッパという声が多く挙げられた。

次に、この作品が描かれたメキシコおよびトラルパムの位置を地図で確認したのち、作者の北川民次の経歴について簡単に紹介した。彼とメキシコで交流のあった人物である、ディエゴ・リベラの壁画作品も紹介し、メキ

シコ壁画のように時間も場所も様々な要素を一つの画面に構成するモンタージュの手法がこの作品にも用いられていることを示した。

さらに、冒頭に探してもらった通り、一つの画面に「生」と「死」のモチーフが同居していることをきっかけに、メキシコの死生観や「死者の日」についても説明した。映画「リメンバー・ミー」を切り口に、映画にも登場する画家フリーダ・カーロと当館所蔵作品《死の仮面を被った少女》を紹介した。

新しい命に生まれ変わる過程として「死」を捉えるメキシコの死生観や、死者の魂を明るく迎え入れるメキシコの風俗を知ったうえで作品をみると、悲しく暗い印象に内包される「生」への希望に気が付き、作品の印象が変わることを狙いとした。

⑨昭和区 松栄小学校

プログラム名 見つけてみよう！美術のみりよく
日 時 1月11日(木)
午前9時40分(2限)～午後0時15分(4限)
場 所 各クラス教室
学 年 2年生5クラス(153名)*
講 師 (名古屋市美術館学芸員) 森本陽香、久保田舞美
授業内容 児童一人ひとりが所持するタブレット端末を利用して、作品鑑賞を行った。人物画、風景画、花鳥画、立体彫刻とジャンルの異なる4点の作品を順に鑑賞し、何が描かれているか、どのような描き方あるいは表現の仕方に着目して、さまざまな意見を出し合った。最後に、4点の中から自分が一番気に入った作品を選び、その理由をワークシートに記入した。美術作品には多様なジャンルや表現方法があることを知り、自分がどんな表現が好きなのか、どういったところに魅力を感じるのかを言葉にして伝える体験となった。

⑩瑞穂区 瑞穂小学校

プログラム名 美術作品の秘密をさぐる
日 時 1月23日(火)
午後1時40分(5限)～午後3時15分(6限)
場 所 多目的室
学 年 3年生3クラス(85名)
講 師 (名古屋市美術館学芸員) 井口智子
授業内容 冒頭では、モデルリアーニ、荻須高德、北川民次など名古屋市美術館の所蔵品を映し、

名古屋市美術館を紹介し、また「美術館」がどんなところであることを説明した。

続いて、1876年にクロード・モネが描いた《ラ・ジャポネーズ》をプリントしたものを34人に1枚に配布し、児童に描かれているもの(着物やうちわなど)を探してもらい、それぞれのグループから発表してもらった。その結果をもとに「人物のポーズ」「着物」「うちわ」「扇子」「莫塵」を取り上げながら、モネが何をこの絵で伝えたかったのかを考えた。参考として、描かれているうちわを再現したものや扇子を用意し、見せながら説明したところ好評であった。

そのあと画像で、ルノワールがモネ夫人や子どもの姿を描いた作品に、うちわや同じ扇子が描かれていることを伝え、うちわや扇子がモネの身近にあったことを導き出した。さらに、モネが自分の家に日本風の庭をつくり、太鼓橋をかけていたことを紹介した。

授業を通じて、モネのように世界的に知られる画家も、さまざまなものに興味を持ち、それらを取り入れて自分の絵を作り上げていったことを話し、児童にいろいろなことに関心を持ち、それらを取り入れながら工夫することで、自分らしい作品を作ることができることを伝えた。最後に自分だったら、《ラ・ジャポネーズ》の背景をどんなふうにしたいかを考えてもらう時間を設けた。

授業ではできるだけ児童に問いかけて、参考資料を用意し、楽しく考えてもらうように心がけた。児童たちは、互いに話し合いながら積極的に絵に描かれているものを探し、発表してくれた。また扇子を持って女性のポーズをしてくれる児童もおり、楽しい雰囲気の中授業を進めることができた。

⑪中区 正木小学校

プログラム名 見つけてみよう！美術のみりよく
日 時 2月9日(金)
午前9時40分(2限)～午前11時25分(3限)
場 所 各クラス教室
学 年 5年生2クラス(54名)*1クラスずつ実施
講 師 (名古屋市美術館学芸員) 森本陽香
授業内容 児童一人ひとりが所持するタブレット端末を利用して、作品鑑賞を行った。3学期の図工で多色刷り版画を学んでいたことと結

び付けて、まず多色刷り版画の人物画を鑑賞した。その後、同じく人物を描いた油彩画3点を鑑賞し、それぞれを見比べて表現の違いを考えた。それぞれの作品の表現の特徴を考えながら、作者が工夫した点や作者の意図についても想像を巡らせ、児童自身の制作に結び付くヒントを得た。

⑫緑区 黒石小学校

プログラム名 美術作品の秘密をさぐる
日 時 2月19日(月)
午前10時40分～午前11時25分
場 所 特活室
学 年 4年生2クラス(46名)*学年全体で実施
講 師 (名古屋市美術館学芸員)近藤将人
授業内容 名古屋市美術館の所蔵作品のうち、日本画3作品を比較しながら、特にその技法に注目しつつ授業を行った。授業については全てスライド投影で行った。冒頭に名古屋市美術館の紹介をした後、石河有鄰《巖上孔雀図》、中村正義《女》、星野真吾《蒼色の作品》の3点を比較しながら見せ、疑問・感想の発言を促した。その上で、題材も色彩も構図も異なる3作品が全て「日本画」と呼ばれるカテゴリであること、《巖上孔雀図》には伝統的な技法が用いられているが、《女》には段ボールのコラージュや絵具の盛り上げ、《蒼色の作品》には人拓という技法が使われていることについて解説した。また、中村正義と星野真吾の交友関係や愛知県の豊橋市が戦後の日本画界にとって重要な場所の1つであったことを説明した。4年生がちょうど地域学習で豊橋市について調べ学習をしていたこともあり、偶然ではあるが内容を効果的にリンクさせることができた。

⑬東区 山吹小学校

プログラム名 見つけてみよう！美術のみりょく
日 時 2月28日(水)
午前10時35分(3限)～午後0時20分(4限)
場 所 特活室
学 年 3年生4クラス(123名)*1クラスずつ実施
講 師 (名古屋市美術館学芸員)森本陽香、久保田舞美
授業内容 児童一人ひとりが所持するタブレット端末を利用して、作品鑑賞を行った。写实的表

現のものから抽象表現の作品まで、風景画にジャンルを絞って4点の作品を鑑賞した。同じ風景画でも、絵画にはさまざまな表現方法があることを知り、作者の意図や工夫した点などを考えた。最後に、4点の中から自分が一番気に入った作品を選び、その理由をワークシートに記入して発表した。

⑭中村区 豊国中学校

プログラム名 美術作品の秘密をさぐる
日 時 2月28日(水)
午後1時10分～午後2時00分
場 所 体育館
学 年 3年生3クラス(104名)*学年全体で実施
講 師 (名古屋市美術館学芸課長)井口智子
授業内容 事前打合せで、授業に参加する生徒が卒業を直前にした3年生約100名であることがわかり、担当教員から「学芸員の仕事」の紹介を含めた内容の要望もあったことから、当初予定していたグループワークや対話形式により作品をさぐっていく内容を変更し、レクチャー形式で行うことにした。

授業のねらいとしては、美術館はどんなことをしているのか、「収集」「調査研究」「保存・修復」「展示・普及」といった機能について説明し、そのあと「東山動物園猛獣画廊壁画」を取り上げ、作品を知る(見る)ことを伝えることを設定した。具体的な内容としては、「どうしてこの壁画は美術館に収集されたのか」「どのような方法を使って作品の状態を調べたのか、そして何がわかったのか」「作家について何がわかったのか」「修復作業を公開し、どんな普及活動を行ったのか」といったことについて話をした。こうして絵を知り、多くの方に見ていただくことで、新たな情報を手にできたり、絵が描かれた意味をあらためて考えたりしていくことになることを伝え、「さぐること」には終わりはなく、これからも「さぐる」が続くということを話した。

レクチャー形式になったため、一方的に話をすることになり、50分の授業に集中力が続かない生徒がいた。今後は大人数でもできるグループワークなどアクティビティを取り入れた授業にすることで、より生徒に興味を持ってもらえるような内容にしていきたい。

(4)就業・職業体験及び職場訪問受け入れ

1 対 象 中学校・高等学校生徒

2 内 容 【体 験】美術館の役割や総務課、学芸課の仕事について知るとともに、警備、案内監視、施設管理等の業務を知り、体験する。
【訪 問】館内施設の見学や講義、疑問点へのインタビュー等から、美術館の役割や仕事について知る。

3 実 績

就業・職業体験

実施日	学校名	学年	人数
2023年 7 月 4 日(火)～ 6 日(木)	名古屋大谷高等学校	2 年	5 人
2023年 7 月12日(水)	椋山女学園中学校	3 年	4 人
2023年 7 月25日(火)・26日(水)	南山高等学校 女子部	1 年	3 人
2023年 8 月 8 日(火)・ 9 日(水)	名古屋市立名古屋商業高等学校	2 年	4 人
2023年 8 月22日(火)	名古屋中学校	2 年	6 人
2023年 8 月23日(水)	名古屋中学校	2 年	5 人
2023年11月 7 日(火)～ 9 日(木)	名古屋市立若宮商業高等学校	1 年	3 人
2024年 1 月16日(火)	名古屋市立千鳥丘中学校	2 年	4 人
2024年 1 月17日(水)・18日(木)	名古屋市立汐路中学校	2 年	6 人
2024年 1 月18日(木)・19日(金)	名古屋市立一柳中学校	2 年	6 人
2024年 1 月18日(木)・19日(金)	名古屋市立豊正中学校	2 年	2 人
2024年 1 月19日(金)	名古屋市立若水中学校	2 年	3 人
2024年 1 月23日(火)・24日(水)	名古屋市立東港中学校	2 年	7 人
2024年 1 月24日(水)・25日(木)	名古屋市立伊勢山中学校	2 年	2 人
計			60人

職場訪問

実施日	学校名	学年	人数
2023年 4 月19日(水)	静岡 磐田市立豊田中学校	2 年	5 人
2023年 5 月18日(木)	下呂市立下呂中学校	2 年	5 人
2023年 8 月16日(水)	愛知教育大学附属岡崎中学校	2 年	1 人
2023年10月19日(木)	愛知県立惟信高等学校	2 年	6 人
2023年10月27日(金)	桑名市立陵成中学校	2 年	5 人
2024年 1 月17日(水)	名古屋市立志段味中学校	2 年	9 人
2024年 1 月17日(水)	名古屋市立志段味中学校	2 年	8 人
2024年 1 月18日(木)	名古屋市立港明中学校	1 年	7 人
2024年 1 月23日(火)	名古屋市立千種台中学校	1 年	5 人
2024年 1 月23日(火)	名古屋市立東陵中学校	1 年	7 人
2024年 1 月23日(火)	名古屋市立神丘中学校	1 年	8 人
2024年 1 月24日(水)	名古屋市立森孝中学校	1 年	4 人
2024年 1 月25日(木)	名古屋市立原中学校	2 年	2 人
計			72人

(5)その他

①部活動振興室との連携

名古屋市教育委員会では、教員指導による部活動から民間委託による「新たな運動・文化活動」へ令和2年度から段階的に移行、実施している。その拡充の一環として部活動振興室からの要望に応え、図工部／美術部のある名古屋市立の小学校4校の児童を対象に名古屋市美術館の鑑賞学習補助教材アートカードを使った鑑賞活動を行うとともに、受講後に児童が制作した作品を美術館で展示した。

出張授業：9月5日(火)午後3時35分～午後4時45分

中区・丸の内小16名

9月6日(水)午後3時40分～午後5時10分

中村区・牧野小12名

9月12日(火)午後3時30分～午後5時

中川区・正色小15名

9月15日(金)午後3時45分～午後5時15分

東区・砂田橋小16名

作品展示：2月6日(火)～18日(日)

中区・丸の内小、中川区・正色小

2月20日(火)～3月3日(日)

東区・砂田橋小、中村区・牧野小

②ティーチャーズ・ウィークス

教員の美術館利用を促進し、授業や学校行事での来館など活用を検討してもらう目的で「ガウディとサグラダ・ファミリア展」会期中に無料招待期間を設けた。期間中に実施した鑑賞学習体験会では、美術館が学校向けに提供しているプログラムの紹介や模擬体験を行い、学習のねらいや内容について教員が具体的なイメージをもてるよう配慮した。参加者には事後アンケートを依頼し、現場教員からの美術館利用に対する率直な意見を多数聴取で

きたことから、内容を丁寧に分析し、今後の学校連携や魅力向上に役立てていく予定である。

無料招待期間：12月22日(金)～1月8日(月祝)

*休館日(12月25日、12月29日～1月3日)
を除く

対 象：名古屋市立小・中学校、特別支援学校、高等学校、幼稚園の教員
(本務教員、常勤講師、非常勤講師)

総参加者数：486名

鑑賞学習体験会：12月22日(金)、1月5日(金)

ボランティアによる対話型鑑賞+事例紹介
進行:久保田舞美(名古屋市美術館学芸員)

①午後2時30分～午後3時

②午後5時～午後5時30分

出前アート体験 内容紹介

進行:清家三智(名古屋市美術館学芸員)

③午後3時05分～午後3時45分

④午後5時35分～午後6時15分

参加者数:89名(2日間8講座のべ)

③大学連携事業

名古屋市立大学で「科学館・博物館・美術館から知る名古屋」の授業において、実地を含む全5回の講義を行いました。

講 義 内 容：世界と名古屋をつなぐ美術(1):パリ・ランス

世界と名古屋をつなぐ美術(2):メキシコシティ

郷土の美術:洋画、日本画、現代美術

名古屋市美術館の特別展(実地):

ガウディとサグラダ・ファミリア展
美術品を残し、伝える:

調査、保存、教育の取り組み

履 修 者 数：30名

2 ボランティア

主な活動として、常設展示室でのギャラリートークを実施した。令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことに伴い実施日、実施時間、参加人数の制限を解除しての実施となった。

多くのメンバーが活動する中で、一人当たりの活動の機会を確保することや、ガイドの質やレベルを平準化することが今後の課題であり、美術館としては、ボランティアが安心して積極的に活動に取り組めるよう支援していくことが責務である。

(1)ボランティア登録者(2024年3月31日現在)

第8期：内海典子、川合幸代、神田初美、橘田純子、杉原和夫、鈴木昌弘、都築祥子、廣瀬千明ほか、
計14名

第9期：伊藤和子、魚住千加子、可児理佳、北村滋規、下田薫子、鈴木浩司、恒川明美、西田果絵、廣瀬典子、前澤真奈美、目加田頼子、吉村由紀江、渡辺順子ほか、
計16名

第10期：伊藤早苗、川合葉子、久野るみ子、中島鋭夫、野沢忠道 ほか、
計7名

第11期：青木未来、明石有里、浅田雅代、足立三和子、石田由美、石原由美子、大矢雅道、岡本千花栄、小澤真理、笠山るみ子、神田美智子、黒田あつ子、五藤紳一郎、谷口亜希子、野中美佳、平尾智子、藤原佳子、二見公子、溝口純子、山下純、若林啓子
計21名

(2)定例会

定例会は土曜日の午前中に6回開催した。ボランティア間の連絡・調整の他に以下のような研修を行った。

開催日	時 間	研修内容	講 師
4月8日	午前10時～正午	係活動の話し合い	
5月27日	午前10時～正午	名品コレクション展Ⅱについて	清家学芸員
8月26日	午前10時～正午	戦前名古屋の日本画	近藤学芸員
11月11日	午前10時～正午	名品コレクション展Ⅲについて	保崎学芸係長、竹葉学芸員
1月13日	午前10時～正午	名古屋市美術館のコレクションについて 開館までの経緯(聴講自由)	深谷参与
2月24日	午前10時～正午	次年度名品コレクション展Ⅰについて	森本学芸員、近藤学芸員

(3)ガイド活動

①常設展ギャラリートーク

休館日を除く毎日（7月までは午後1時30分～・午後2時30分～、8月からは午前11時00分～・午後1時30分～）、一般を対象としたガイドツアーを各日ボランティア2名が担当した（7月までは約30分、8月からは約1時間）。

活動日数	223日間
延べ参加者数	930名

②特別展ギャラリートーク

特別展ギャラリートークは、ボランティアに参加の希望を募り、展覧会ごとに担当を分けて行う。ギャラリートークの開催日、開始時間、方法などは、担当ごとに選出するまとめ役を中心にした話し合いによって決定する。登録後2年を経過したボランティアのメンバーが活動している。一般を対象とした約1時間のガイドツアーであり、ボランティア2名が組となり、会場入口で参加者を募りグループを編成して1日につき2回実施する。

コロナ禍の影響により特別展ギャラリートークは休止を続けていたが、ボランティア1名あたりのトーク時間が15分を超えないようにする、2名1組で活動し途中でトーク進行を交替する、などのギャラリートーク運用ルールを順守する形での運用を検討してきた。令和5年度は、以前行っていた1時間のツアー形式での運用は見送る代わりに、会場に展示されている作品から2点を取り上げ、来館者が対話を通して作品への興味関心を深めることを目的としたギャラリートーク（通称1点トーク）を、1日2回実施した。取り上げる作品は当番のボランティアが事前に話し合い、重複が起らないよう調整した。広報は美術館公式サイトやSNSを中心に言い、館内放送でも参加を呼び掛けた。

コレクションの20世紀

開催日	4月28日、29日、5月3日、4日、7日、10日、12日、14日、17日、21日、23日、30日、31日、6月3日、4日(計15日)
時間	午前10時30分～／午前11時30分～
担当	8期：1名、9期：4名、10期：1名、11期4名 計10名
参加数	延べ93名

(4)サポート活動

(サポート活動)

令和5年度からの美術館公式サイト刷新にあたり新たにボランティア専用ページが設けられ、ボランティアは個別に付与されたIDとログインパスワードを用いて活動希望日の記入を各自オンラインで行うこととなった。この運用変更を踏まえて、令和4年度末に世話人会の役割分担の見直し、およびこれまで4つあった係の再編の検討を行った。研修係と資料係の活動を、当番日調整などギャラリートーク活動全般に関係する事柄とみなし、3つの役割を担う係として令和5年度からギャラリートーク係を発足させた。団体対応係と体験活動係は現状維持とした。

団体対応係

学校団体等による常設展の鑑賞活動の研鑽のため、ボランティアによる自主勉強会を、前期・後期の計2回実施した（前期：8月5日(土)午後1時～午後3時、17名参加、後期：令和6年2月10日(土)午後1時～午後3時、16名参加）。前期は、対話型鑑賞の提唱者アメリカ・アレナスによる「なぜ、これがアートなの？」の映像資料を、ときおり映像を止め、グループ同士で気づいたことなどの意見交換をしながら視聴した。後期は、学校団体のギャラリートーク等で取り上げることの多いフランク・ステラ《説教》について、それぞれが思う作品の面白さや鑑賞・トークでの注目ポイント、トーク中の悩みなどを共有し、意見を交わした。

体験活動係

美術をたのしむプログラム2023の事業のうち、事前申込制プログラム「折って丸めてくっつけて カラフル画用紙で3D工作！」の企画および実施を、学芸員とともにに行った。美術館の常設作品であるフランク・ステラ《説教》を活用したワークショップを考案し、美術館の定番事業に育てることで、市民に広く美術館の楽しみを知っていただくきっかけとすることを目的とした。係内から有志のメンバーを募り、意見交換や試作を行い、企画を掘り下げた。実施当日は多くのボランティアの参加により、細やかな目配りと対応を心掛け、円滑に実施することができた。また、11月には、館内の建築意匠や屋外彫刻を学ぶ勉強会を開催した。令和4年度から実施の希望があり、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期していたもので、10名の参加者により実施した。

ギャラリートーク係

活動希望日の集約と調整作業については毎月作業期

日を設けており、美術館との連絡調整等の不備や遅れはギャラリートーク活動にかかわる。円滑な運用を最優先に考えて係内で話し合った結果、担当者1名を各月に割り振る交替制とし、PCの急な不具合などの事態や調整に悩んだ際に備えて係まとめ役2名を加えた、計3名で取り組むこととした。この体制に不備があれば、年度末などに適宜見直しを行うことも年度初めの打合せで申し合わせた。

ボランティア控室内の資料の利用方法、特に複写や館外持ち出しの可否について、期によって認識の違いがあったことから、定例会の場で改めてアナウンスするとともに、ボランティア活動マニュアルへの反映を美術館に申し入れた。このほか年3回のコレクション解析学の録音担当を決め、当日参加できない人が後日聞けるようにした。

活動日調整の作業を軌道に乗せることを優先したため、館内外の研修企画は見送ったが、アートカードを知らない11期に向けて研修が必要との意見が出ており、次年度以降に機会を設けて取り組む方向で話し合いを進めた。

3 学生向け優待事業

(1)美術館学生メンバーズ

①趣旨

美術館と大学等との教育連携により、学生と美術との出会いを容易にし、学生生活をより豊かにする機会を提供する。

②対象

大学（短大、大学院）、専修学校、各種学校等の学校の生徒。オプションとして教職員の付加も可能。

③事業概要

「ゆめ・プレミアムアートコレクション寄附金」に一定額以上の寄附を行った学校法人や団体に対して、その特典として、在籍する学生等がその年度の特別展や常設展を学生証等の呈示だけで無料で観覧できるようにするもの。

④会員校(令和6年3月31日現在)

- ・名古屋大学
- ・名古屋芸術大学
- ・名古屋学院大学
- ・名古屋市立大学
- ・愛知県立芸術大学
- ・愛知淑徳大学
- ・学校法人中西学園
- ・南山大学
- ・豊田工業大学
- ・金城学院大学
- ・中部大学
- ・愛知教育大学
- ・名古屋造形大学
- ・中日美容専門学校
- ・愛知大学
- ・相山女学園大学

(2)高校生サポーター事業

①趣旨

事業の実施により、高校生の美術に対する理解を深め、学校生活をより豊かにする機会を提供する。

②対象

高等学校、中等教育学校（後期課程に限る。）又は高等専門学校の生徒。

③事業概要

2,000円の会費の納付により、納付から1年間の会員期間の間、サポーター証及び学生証の呈示により特典を受けられる。特別展は会員及び同行する高校生が4回を上限に無料で観覧でき、常設展は会員が何度でも無料で観覧できる。

4 協力会

名古屋市美術館協力会は、美術館の活動等に協力するとともに、市民の美術に関する知識と教養の向上を図るために必要な事業を行い、芸術文化の振興発展に寄与することを目的に活動を行っています。

<会員数>		<新規・継続別> (令和6年3月31日現在)			
		新規	継続	計	
特別会員	5名	特別会員	0名	5名	5名
一般会員	99名	一般会員	17名	82名	99名
ユース会員	18名	ユース会員	9名	9名	18名
家族会員	58名	家族会員	12名	46名	58名
(計)	180名	(計)	38名	142名	180名

令和5年度美術館協力会事業報告

- 展覧会ギャラリー・トークの開催
「コレクションの20世紀」解説会
令和5年4月23日(日) 33名参加
「マリー・ローランサンとモード」解説会
令和5年6月25日(日) 46名参加
「福田美蘭ー美術って、なに?」解説会
令和5年9月30日(土) 43名参加
「ガウディとサグラダ・ファミリア展」解説会
令和6年1月20日(土) 49名参加
- 美術館見学ツアーの実施
春 中止
秋 大阪方面
令和5年12月10日(日)実施 32名参加
藤田美術館、大阪中之島美術館
- 作家を囲む会
「安藤正子さん」
一宮市三岸節子記念美術館
令和5年8月5日(土) 12名参加
- 美術館鑑賞ミニツアー
碧南市藤井達吉現代美術館
「リニューアル記念 蒼い海の宝箱展」
令和5年5月14日(日) 7名参加
瀬戸市美術館
「北川民次コレクション全員集合展」
令和5年7月22日(土) 7名参加
一宮市三岸節子記念美術館
「安藤正子 ゆくかは展」
令和5年8月5日(土) 12名参加
豊田市美術館
「フランク・ロイド・ライト展」
令和5年11月12日(日) 21名参加
碧南市藤井達吉現代美術館
「顕神の夢展」

令和6年2月17日(土) 15名参加

豊田市美術館

「未完の始まりー未来のヴァンダーカンマー展」

令和6年3月30日(土) 14名参加

- 令和5年度ブログ閲覧状況[投稿45件、閲覧数6,561回、ユーザー数(延)2,288名]
- オリジナル・カレンダーの作成及び配付
原画:文谷有佳里 紙にペン(原画) 250部
- 催しものの案内
特別展、常設展、講演会など情報提供、年間展覧会案内、アートペーパーの配付
- 作品の寄贈
オリジナル・カレンダー1件1点
- 総会の開催
令和5年6月25日(日) 出席者 16名(委任状85名)計101名

5 図書室

図書室の資料の充実を図るとともに、そのときどきの特別展に即した参考資料を揃えるなどして、利用者の多様なニーズに応えるよう努力しています。

図書資料分類別冊数一覧 (令和6年3月31日現在)

分類	和書	洋書
辞書、辞典、年鑑、図書目録	600(4)	225(0)
画集、美術全集、所蔵品目録	8,074(80)	3,647(12)
展覧会図録	15,033(338)	1,572(11)
研究書、技法書	443(23)	25(3)
年報、紀要、報告書	9,898(404)	31(0)
美術雑誌	13,511(86)	2,589(0)
その他(美術教科書、一般図書)	2,796(44)	1,104(3)
小計	50,355(979)	9,193(29)
総計	59,548(1008)冊	

()は今年度の受け入れ図書冊数

入室者数 7,908名

4月	101名	10月	794名
5月	240名	11月	548名
6月	280名	12月	298名
7月	885名	1月	1,059名
8月	1,447名	2月	1,133名
9月	483名	3月	640名

出版・制作物一覧

美術館ニュース『アートペーパー』Nos. 123、124、125

美術館の活動状況や美術・文化についての様々な情報を広報するものです。

A 4 判、6 頁、片観音折り、各5,000部、館内無料配布およびPDFデータを当館ウェブサイトに掲載

特集記事

123号: 大名古屋(グレート・ナゴヤ)の面影

124号: 福田美蘭×名古屋市美術館 コラボレーションから生まれたもの

125号: 壁画は語る—猛獣画廊壁画修復プロジェクト



名古屋市美術館研究紀要 第18巻

美術や博物館活動等に関して、主に当館学芸員による調査・研究の詳細を収めた冊子です。

A 4 判、44頁、300部、関係機関配布およびPDFデータを当館ウェブサイトに掲載



令和4年度名古屋市美術館年報

令和4年度の当館の活動の記録です。

A 4 判、56頁、PDFデータを当館ウェブサイトに掲載



令和6年度年間案内

令和6年度の展覧会情報と教育普及プログラムについて広報するものです。

A 3 判(2つ折り、3山経本折り)、20,000部、館内無料配布



名古屋市美術館は近代美術館として、名古屋文化圏と考えられる伊勢湾周辺地帯の優れた美術品「郷土の美術」を収集することから出発しました。地元を代表する作家のうち、全国的または国際的な視点から、美術史上、重要と認められる作家については、作家個人の芸術の発展が明らかになるように系統立てて収集することとしました。こうした方針のもと、地元重要作家への影響と関連を理解するために有益であり、収蔵品に厚みをもたせて美術館の特色を出し、また国際性を考慮し、「エコール・ド・パリ」「メキシコ・ルネサンス」「現代の美術」の3つの収集方針を加え、収集の範囲を広げました。現在、以上の4つの方針に沿って収集を進めています。

収集にあたっては、資料収集会議において、専門家5人から意見を聴取し、作品・資料の受入を行います。令和5年度は、令和6年1月22日に資料収集会議を開催し、意見聴取を行いました。会議では、1件(1点)の購入、39件(61点)の作品受贈、28件(47点)の作品受託、884件(970点)の特別資料受贈、3件(3点)の特別資料受託について意見を伺いました。結果、すべての候補作品を受け入れ、令和5年度末において、当館の資料収集数は、9550点となりました。

本年度は、特別展として個展を開催した福田美蘭が当館にて常設展示しているステラの《説教》から着想を得た作品《説教(フランク・ステラによる)》を購入し、あわせて同氏の作品8点を受贈しました。また、辰野登恵子、中林忠良の版画、郷土ゆかりの作家である熊沢古篷、富澤有為男、伊藤高義、竹田鎮三郎、船橋治彦の作品、また文谷有佳里の協力会カレンダーの原画を受贈しました。

受託作品としては、日本の洋画の黎明期に大きな足跡を残した高橋由一の肖像画が入りました。ほかには、岡田三郎助、北川民次、辰野登恵子、藤田嗣治、山本富章、横山奈美の作品を受託。海外の作家クレメンテ、

クッキ、キア、ジョーンズ、ケリー、シュナーベル、トゥオンブリーの作品もご寄託いただきました。

今年度も作家や美術運動の研究資料として今後の活用が期待される特別資料として、熊沢五六旧蔵資料、山田光春のスケッチブックを受贈しました。また、下郷羊雄関連の資料として当館で保管してきた江上明旧蔵資料を受贈しました。ほかには東海美術協会による《東西秀美帖》および文谷有佳里による協力会カレンダーも受贈しました。さらに、藤田嗣治のクリスマスカード(賀正カード)を特別資料として受託しました。

収集活動は美術館活動の根幹にかかわる活動です。作品や資料は名古屋市の文化財として、また将来、名古屋の美術事情を知る上でも欠かせないものとなっていきます。当館は開館35年を経て、収集数も増えてきました。今後は活用をしっかりと視野に入れた収集活動をより一層推進していきたいと考えております。

(1)購入



1. 福田美蘭 (1963-)

FUKUDA Miran
《説教(フランク・ステラによる)》
The Sermon after Frank Stella
2023
アクリル・パネル
227.2×181.8cm

(2)受贈

①資料



1. 熊沢古蓬 (1861-1934)

KUMAZAWA Koho
《富士山嶺自画像》
Self-Portrait with Mount Fuji
1921
絹本着色 軸
115.8×41.6cm
熊沢敬一氏寄贈



2. 熊沢古蓬 (1861-1934)

KUMAZAWA Koho
《野晒図》
Skull
1925
絹本着色 軸
113.3×42.3cm
熊沢敬一氏寄贈



3. 熊沢古蓬 (1861-1934)

KUMAZAWA Koho
《荒園の一隅》
One Corner of Neglected Garden
1926
絹本着色 軸
113.6×42.6cm
熊沢敬一氏寄贈

4. 熊沢古蓬 (1861-1934)

KUMAZAWA Koho
《富岳春秋双幅》
Spring and Autumn Views of Mount Fuji
1928-1929
絹本着色 軸 (双幅)
85.8×110.0cm
熊沢敬一氏寄贈



4-1



4-2



5. 熊沢古蓬 (1861-1934)

KUMAZAWA Koho
《勁翮排霜図(鷹野猛威)》
Hunting Falcon
1929
絹本着色 軸
64.0×86.2cm
熊沢敬一氏寄贈



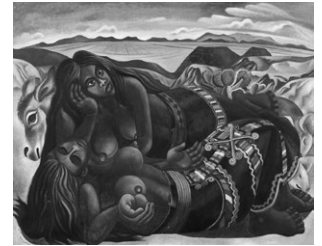
6. 熊沢古篷(1861-1934)
KUMAZAWA Koho
《秋苑図》
Autumn View of Park
1929
絹本着色 軸
40.1×51.4cm
熊沢敬一氏寄贈



7. 熊沢古篷(1861-1934)
KUMAZAWA Koho
《鼠と葡萄図》
Rats and Grapes
1932
絹本着色 軸
38.8×50.1cm
熊沢敬一氏寄贈



8. 伊藤高義(1926-2011)
ITO Takayoshi
《マリアッチ》
Mariachi
1969
油彩・キャンヴァス
130.3×162.1cm
和田小織氏寄贈



9. 伊藤高義(1926-2011)
ITO Takayoshi
《メキシコ・母なる自然》
Mother Nature, Mexico
1976
油彩・キャンヴァス
130.3×162.1cm
和田小織氏寄贈



10. 竹田鎮三郎(1935-)
TAKEDA Shinzaburo
《水浴する人々》
Bathing People
1976
油彩・キャンヴァス
80.5×140.5cm
和田小織氏寄贈



11. 富澤有爲男(1902-1970)
TOMIZAWA Uio
《佐藤春夫先生像》
Portrait of the Writer Sato Haruo
1927
油彩・キャンヴァス
62.0×44.0cm
寺内大吉氏寄贈



12. 福田美蘭(1963-)
FUKUDA Miran
《陶器(スルバランによる)》
Still Life with Pottery Jars after Zurbaran
1992(2023再制作)
カラー写真・パネル
46.2×85.7×3.3cm



13. 福田美蘭(1963-)
FUKUDA Miran
《フランク・ステラと私》
Frank Stella and I
2001
アクリル・パネル
227.2×181.8cm



14. 福田美蘭(1963-)
FUKUDA Miran
《うぶごえ(コンスタンティン・ブランクーシによる)》
The First Cry after Constantin Brancusi
2023
アクリル・パネル
91.0×116.7cm

15. 福田美蘭(1963-)
FUKUDA Miran
《プーチン大統領の肖像》
Portraits of the President Putin
2023
アクリル・パネル 4点1組
各59.5×84.0cm



15-1



15-2



15-3



15-4



16. 船橋治彦 (1897-1945)
FUNAHASHI Haruhiko
《支那人形》
Chinese Doll
1923
油彩・板
46.0×38.0cm
船橋昭彦氏寄贈



17. 船橋治彦 (1897-1945)
FUNAHASHI Haruhiko
《奈良風景》
Nara
1925
油彩・キャンヴァス
72.0×91.0cm
船橋昭彦氏寄贈



18. 船橋治彦 (1897-1945)
FUNAHASHI Haruhiko
《[神戸風景] (中山手カトリック教会)》
[Kobe (Nakayamate Catholic Church)]
1928
油彩・キャンヴァス
91.0×72.0cm
船橋昭彦氏寄贈



19. 船橋治彦 (1897-1945)
FUNAHASHI Haruhiko
《[神戸風景] (街並)》
[Kobe (Streetscape)]
1928
油彩・キャンヴァス
72.0×91.0cm
船橋昭彦氏寄贈



20. 船橋治彦 (1897-1945)
FUNAHASHI Haruhiko
《[台所]》
[Kitchen]
1929
油彩・キャンヴァス
73.0×60.5cm
船橋昭彦氏寄贈



21. 船橋治彦 (1897-1945)
FUNAHASHI Haruhiko
《[榛名風景]》
[Haruna]
1929
油彩・キャンヴァス
61.0×72.0cm
船橋昭彦氏寄贈



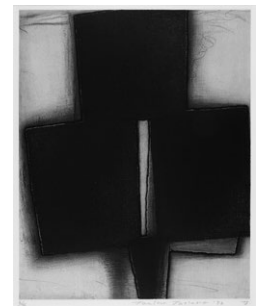
22. 船橋治彦 (1897-1945)
FUNAHASHI Haruhiko
《[奈良風景]》
[Nara]
1930-40頃
油彩・キャンヴァス
38.0×45.0cm
船橋昭彦氏寄贈



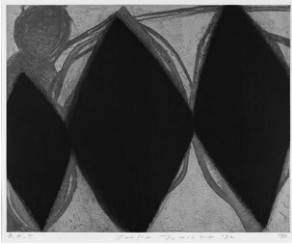
23. 船橋治彦 (1897-1945)
FUNAHASHI Haruhiko
《[紙芝居]》
[Picture-Story Show]
1940頃
油彩・キャンヴァス
91.0×114.0cm
船橋昭彦氏寄贈



24. 船橋治彦 (1897-1945)
FUNAHASHI Haruhiko
《ボタン》
Peony
制作年不詳
油彩・キャンヴァス
33.0×24.0cm
船橋昭彦氏寄贈



25. 辰野登恵子 (1950-2014)
TATSUNO Toeko
《Aug.-Oct.1992(I-VI)-V》
Aug.-Oct.1992(I-VI) -V
1992
エッチング、アクアチント、ソフトグラント
エッチング・紙 ed.6/45
72.0×57.0cm(用紙サイズ)
下村直樹氏(樹樹画廊)旧蔵



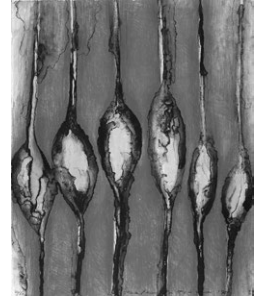
26. 辰野登恵子(1950-2014)
TATSUNO Toeko
《Aug.-Oct.1992(I-VI)-VI》
Aug.-Oct.1992(I-VI) -VI
1992
エッチング、アクアチント、ソフトグラント
エッチング・紙 B.A.T.
57.0×72.0cm(用紙サイズ)
下村直樹氏(樹樹画廊)旧蔵



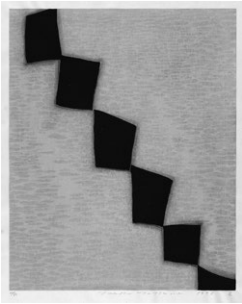
27. 辰野登恵子(1950-2014)
TATSUNO Toeko
《Nov-23-93》
Nov-23-93
1993
エッチング、アクアチント・紙 ed.22/50
95.0×75.0cm(用紙サイズ)
下村直樹氏(樹樹画廊)旧蔵



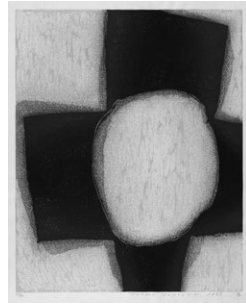
28. 辰野登恵子(1950-2014)
TATSUNO Toeko
《May-6-1995》
May-6-1995
1995
リトグラフ・紙
76.0×56.0cm(用紙サイズ)
下村直樹氏(樹樹画廊)旧蔵



29. 辰野登恵子(1950-2014)
TATSUNO Toeko
《Spring to Summer I》
Spring to Summer I
1995
リトグラフ・紙 ed.22/60
69.0×56.0cm(用紙サイズ)
下村直樹氏(樹樹画廊)旧蔵



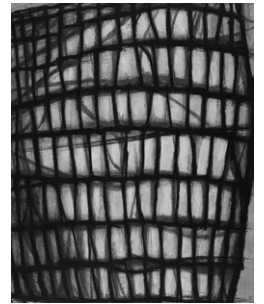
30. 辰野登恵子(1950-2014)
TATSUNO Toeko
《Spring to Summer II》
Spring to Summer II
1995
木版・和紙(楮) ed.22/60
69.0×56.0cm(用紙サイズ)
下村直樹氏(樹樹画廊)旧蔵



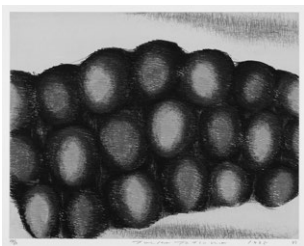
31. 辰野登恵子(1950-2014)
TATSUNO Toeko
《Spring to Summer III》
Spring to Summer III
1995
木版・和紙(楮) ed.22/60
69.0×56.0cm(用紙サイズ)
下村直樹氏(樹樹画廊)旧蔵



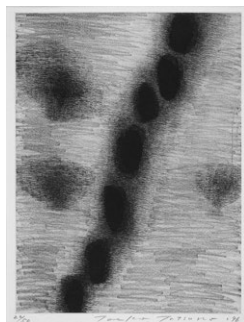
32. 辰野登恵子(1950-2014)
TATSUNO Toeko
《Spring to Summer IV》
Spring to Summer IV
1995
エッチング、アクアチント・紙 ed.22/60
69.0×56.0cm(用紙サイズ)
下村直樹氏(樹樹画廊)旧蔵



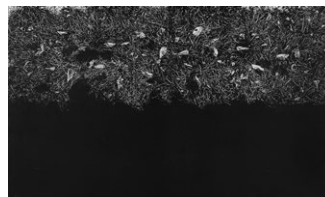
33. 辰野登恵子(1950-2014)
TATSUNO Toeko
《Spring to Summer V》
Spring to Summer V
1995
リトグラフ・紙 ed.22/60
69.0×56.0cm(用紙サイズ)
下村直樹氏(樹樹画廊)旧蔵



34. 辰野登恵子(1950-2014)
TATSUNO Toeko
《Spring to Summer VI》
Spring to Summer VI
1995
エッチング、アクアチント・紙 ed.22/60
69.0×56.0cm(用紙サイズ)
下村直樹氏(樹樹画廊)旧蔵



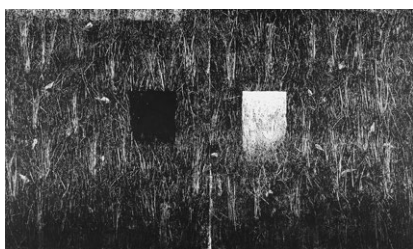
35. 辰野登恵子(1950-2014)
TATSUNO Toeko
《Dec-16-96》
Dec-16-96
1996
エッチング、アクアチント・紙 ed.22/50
60.0×48.0cm(用紙サイズ)
下村直樹氏(樹樹画廊)旧蔵



36. 中林忠良(1937-)
NAKABAYASHI Tadayoshi
《転位 '97-地-III》
Transposition '97-Ground-III
1997
エッチング、アクアチント、リトグラフ・
紙 二版刷り、2枚組 ed.6/50
59.5×101.0cm
中林忠良氏寄贈



37. 中林忠良(1937-)
NAKABAYASHI Tadayoshi
《転位 '98-地-II》
Transposition '98-Ground-II
1998
エッチング、アクアチント・紙 2枚組 ed.32/50
59.5×101.0cm
中林忠良氏寄贈

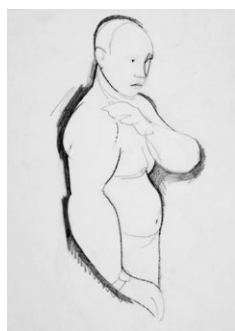


38. 中林忠良(1937-)
NAKABAYASHI Tadayoshi
《転位 '99-地-I》
Transposition '99-Ground-I
1999
エッチング、アクアチント・紙 2枚組 ed.12/50
59.5×101.0cm
中林忠良氏寄贈



39. 中林忠良(1937-)
NAKABAYASHI Tadayoshi
《転位 '04-地-I》
Transposition '04-Ground-I
2004
エッチング、アクアチント、ドライポイント・紙 H.C.
56.0×76.5cm
中林忠良氏寄贈

40. 福田美蘭(1963-)
FUKUDA Miran
《プーチン大統領の肖像(カリアティド)》
Portraits of the President Putin (Caryatid)
2023
鉛筆・紙 14点1組
各29.7×21.0cm



40-1



40-2



40-3



40-4



40-5



40-6



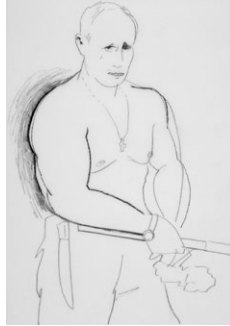
40-7



40-8



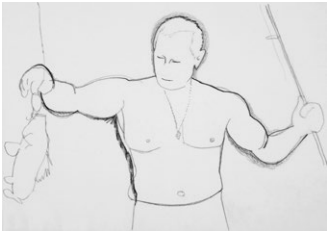
40-9



40-10



40-11



40-12



40-13



40-14



41. 福田美蘭(1963-)
FUKUDA Miran
《名所江戸百景 深川洲崎十万坪》
Fukagawa Suzaki and Jumanstsubo, from the
Series One Hundred Famous Views of Edo
2022
アクリル、カラーコピー・紙
38.7×26.3cm



42. 福田美蘭(1963-)
FUKUDA Miran
《中日新聞2023年7月11日》
Chunichi Shimbun, July 11, 2023
2023
オフセット印刷・紙
6.6×4.6cm



43. 福田美蘭(1963-)
FUKUDA Miran
《死の仮面を被った少女(フリーダ・
カーロによる)》
Girl with Death Mask after Frida Kahlo
2023
アクリル、カラーコピー・パネル、ノンネオン管、ブ
リキ製ジョウロ、人工芝
サイズ可変



44. 文谷有佳里(1985-)
BUNYA Yukari
《なにもない風景を眺める 2023.10.15 (名古屋市美術館協力会
カレンダー-2024原画)》
Looking at the Vacant Scenery 2023.10.15 (Original Drawing of the Nagoya
City Art Museum Membership Calendar 2024)
2023
水性顔料インク・ケント紙
41.9×59.5cm
文谷有佳里氏寄贈

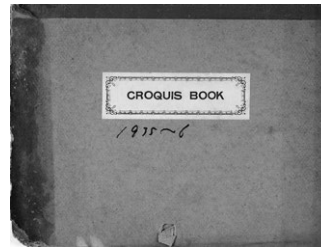
②特別資料



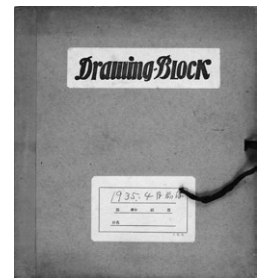
1. 東海美術協会(1910-c.1940)
TOKAI Art Association
《東海秀美帖》
Drawing Album
1929
紙本着色
32.6×29.0cm
熊沢敬一氏寄贈



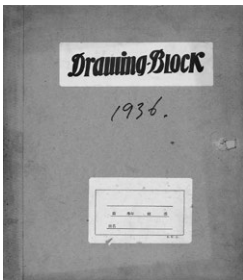
2. 熊沢五六(1896-1987)
KUMAZAWA Goroku
《熊沢五六旧蔵資料》
Materials collected by KUMAZAWA Goroku
大正～昭和
インク・紙 等 409件430点
熊沢敬一氏寄贈



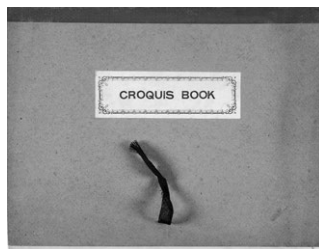
3. 山田光春(1912-1981)
YAMADA Koshun
《[スケッチブック1]》
[Sketchbook 1]
1935頃
インク、パステル、鉛筆・紙
28.1×24.7cm
山田光一氏寄贈



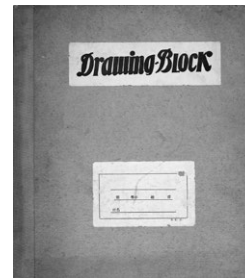
4. 山田光春(1912-1981)
YAMADA Koshun
《[スケッチブック2]》
[Sketchbook 2]
1935頃
インク・紙
27.9×24.6cm
山田光一氏寄贈



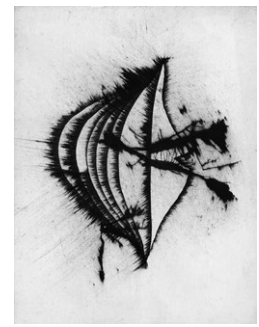
5. 山田光春(1912-1981)
YAMADA Koshun
《[スケッチブック3]》
[Sketchbook 3]
1935頃
鉛筆・紙
28.0×24.8cm
山田光一氏寄贈



6. 山田光春(1912-1981)
YAMADA Koshun
《[スケッチブック4]》
[Sketchbook 4]
1935頃
パステル・紙
24.0×32.0cm
山田光一氏寄贈



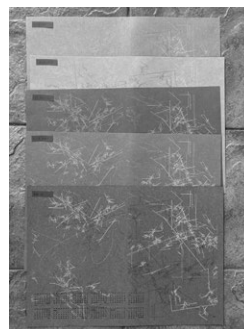
7. 山田光春(1912-1981)
YAMADA Koshun
《[スケッチブック5]》
[Sketchbook 5]
1935頃
インク、パステル、鉛筆・紙
28.1×24.7cm
山田光一氏寄贈



8. 山田光春(1912-1981)
YAMADA Koshun
《[スケッチブック6]》
[Sketchbook 6]
不詳
インク・紙
25.2×19.3cm
山田光一氏寄贈



9. 下郷羊雄ほか(1907-1981)
SHIMOZATO Yoshio
《江上明旧蔵資料(下郷羊雄関連)》
Materials related to SHIMOZATO Yoshio,
collected by EGAMI Akira
昭和
葉書・絵葉書等 467件528点



10. 文谷有佳里(1985-)
BUNYA Yukari
《なにもない風景を眺める 2023.10.15(名古屋市美術館協力会カレンダー2024)》
Looking at the Vacant Scenery 2023.10.15(Nagoya City Art Museum Membership Calendar 2024)
2023
リソグラフ印刷・紙 色違い5点 ed.50, 100, 150, 200, 250/250
42.0×29.7cm
名古屋市美術館協力会寄贈

(3)資料収集状況一覧

年度別

年度	分類	日本画など	洋画など	水彩素描など	版画など	写真	彫刻など	特別資料	総 計
58 年 度		0	26	2	0		1		29
59 年 度		3	32	50	1		0		86
60 年 度		4	25	67	20		2		118
61 年 度		5	23	33	6		1		68
62 年 度		12	38	0	360		15		425
63 年 度		0	15	8	13		6		42
元 年 度		3	7	2	275		1		288
2 年 度		7	4	2	17		1		31
3 年 度		1	3	2	122		0		128
4 年 度		2	10	15	126		3		156
5 年 度		0	13	4	0		3		20
6 年 度		0	7	0	1		2		10
7 年 度		1	27	2	195		0		225
8 年 度		0	7	0	2		3		12
9 年 度		0	2	0	17		2		21
10 年 度		2	8	0	21		0		31
11 年 度		2	10	0	0		1		13
12 年 度		0	9	0	0		0		9
13 年 度		0	8	0	※ △83	※ 83	1	0	9
14 年 度		1	0	0	167	0	0	0	168
15 年 度		0	1	0	0	8	2	0	11
16 年 度		0	0	8	0	0	2	0	10
17 年 度		0	2	10	0	4	0	0	16
18 年 度		0	9	0	0	0	0	0	9
19 年 度		0	2	0	0	0	1	0	3
20 年 度		0	1	0	0	0	1	0	2
21 年 度		0	1	7	3	0	0	0	11
22 年 度		0	1	0	0	0	0	0	1
23 年 度		0	1	0	0	0	0	0	1
24 年 度		0	0	0	0	0	2	0	2
25 年 度		0	0	0	0	2	0	0	2
26 年 度		0	0	0	0	0	0	0	0
27 年 度		2	1	0	0	3	0	0	6
28 年 度		0	1	0	0	3	0	0	4
29 年 度		0	0	0	0	0	△1	0	△1
30 年 度		0	1	0	0	0	0	0	1
元 年 度		0	0	0	0	0	0	0	0
2 年 度		0	0	0	0	0	0	0	0
3 年 度		0	0	0	0	0	0	0	0
4 年 度		0	0	0	0	0	0	0	0
5 年 度		0	1	0	0	0	0	0	1
購入総計		45	(1) 296	212	1,263	103	49	0	(1) 1,968
保管転換		16	41	31	35	3	3	1	(0) 130
寄 贈		(8) 111	(20) 390	(15) 988	(17) 620	(0) 797	(1) 32	(970) 4,443	(1,031) 7,381
受入変更		0	0	0	0	2	0	(0) 69	(0) 71
総 計		(8) 172	(21) 727	(15) 1,231	(17) 1,918	(0) 905	(1) 84	(970) 4,513	(1,032) 9,550

収集方針別

分 類	日本画など	洋画など	水彩素描など	版画など	写真	彫刻など	特別資料	総 計
エコール・ド・パリ	0	32	3	478	0	2	3	(0) 518
メキシコ・ルネサンス	0	37	42	391	60	4	0	(0) 534
現代の美術	5	(8) 148	(15) 115	(17) 329	224	(1) 64	(5) 302	(46) 1,187
郷土の美術	(8) 167	(13) 510	1,071	720	621	14	(965) 4,208	(986) 7,311
総 計	(8) 172	(21) 727	(15) 1,231	(17) 1,918	(0) 905	(1) 84	(970) 4,513	(1,032) 9,550

()内の数字は令和5年度収集分 ※分類変更による増減

<修復>

ダビッド・アルファロ・シケイロス 《カウテモックの肖像》

1947年 ピロキシリン・メゾナイト 75.5×62.0cm

【損傷状態】

画面左下のサイン下部に、絵具層の剥離が見られる。

【修復処置】

絵具層の剥離箇所に接着剤（BEVA D-8）を塗布し、剥離止めを行ったのち、余分な接着剤の除去を行った。

伊藤高義 《マリアッチ》

1969年 油彩・キャンヴァス 130.3×162.1cm

【損傷状態】

支持体に破れが2か所あり、中央付近にL字のもの、中央下部の木枠に隠れるあたりに縦状に生じている。亀裂が全面に生じ、破れ周辺に絵具の剥落がある。裏面や木枠が埃っぽくざらついている。

【修復処置】

額、木枠、裏面の清掃を行った。

破れの繕いを行った。中央の破れについては、麻の糸を破れに垂直に渡し接着する処置を行った。木枠に隠れている破れについては、短い糸を破れの隙間から差し込み、膠を十分に塗布し加温加圧して接着を行った。

充填材を絵具の欠損箇所に詰め、周囲の高さ形状に合わせ整形を行った。

水彩絵具で絵具が欠損した箇所にのみ補彩を行った。

伊藤高義 《メキシコ・母なる自然》

1976年 油彩・キャンヴァス 130.3×162.1cm

【損傷状態】

支持体の裏面向かって右側下部に破れがある。破れ周辺に絵具の剥落がある。人物の暗色の影部分に白いカビが生じている。裏面や木枠が埃っぽくざらついている。

【修復処置】

額、木枠、裏面の清掃・殺菌を行った。

破れの繕いを行った。麻の繊維をほぐしたものを破れに被せ、再度膠を塗布し加温加圧して接着を行ったのち、表からも同様にほぐした繊維を接着した。

画面カビ部分を清掃・除去し、エタノール80%水溶液で殺菌を行った。

光沢調整を行った。上部の女性の首箇所のみ、カビの浸食によって白く乱反射を起こしていたため、5%に満たないダンマルワニスとを僅かに塗布し、光沢が出た箇所はミネラルスピリットで拭き取った。

水彩絵具で絵具が欠損した箇所にのみ補彩を行った。

海老原喜之助 《群鳥》

1931年 油彩・キャンヴァス 100.0×73.2cm

【損傷状態】

作品下辺に小さな剥落および剥離が多く見受けられる。また、群鳥の周囲に黒い斑点が多数見られる。ガラス内側に汚れが見られる。

【修復処置】

絵具層の剥離および剥落箇所に接着剤を塗布し、固定させたのち、余分な接着剤の除去を行った。湿らせた綿棒を用いて、表層の目立つ汚れの除去を行った。ガラスの清掃を行った。

■ 荻須高德 《アムステルダム運河》

1954年 油彩、キャンヴァス 92.3×65.6cm

【損傷状態】

画面中央に、白い付着物のようなものが確認できる。また、絵具が剥離しているように見える箇所がある。

【修復処置】

表層の付着物を除去した。絵具層の剥落箇所に水溶性絵具で補彩を行った。

【額装】

バックパネルを取り付けた。

■ 荻須高德 《洗濯場（オーベルヴィリエ）》

1958年 油彩・キャンヴァス 116.3×89.2cm

【損傷状態】

画面左側に絵具層の剥離があり、さらに上方には絵具層の小さな欠損が確認できる。

【修復処置】

絵具層に生じている剥離箇所に接着剤を塗布し、剥離止めを行ったのち、余分な接着剤の除去を行った。絵具層の欠損部に充填材を塗布し、周囲の絵具層と馴染むように表面を形成し、充填材の上から補彩を行った。最終の保護ニス塗布した。

■ 北川民次 《トラルパム霊園のお祭り》

1956年 油彩・キャンヴァス 57.6×90.5cm

【損傷状態】

右下方の赤子を抱いている女性のスカート部分に、絵具層の剥離が見られる。

【修復処置】

剥離箇所に接着剤を塗布し、剥離止めを行ったのち、余分な接着剤を除去した。水溶性絵具で欠損部に補彩を行った。

■ 竹田大助 《吊鐘1》

1956年 油彩・キャンヴァス 57.6×90.5cm

【損傷状態】

画面全体に亀裂および浮き上がりが見られ、絵具の剥落が生じている箇所もある。

【修復処置】

亀裂、浮き上がり、剥落箇所周辺に膠で浮き上がり接着を行った。浮き上がり接着ではみ出した接着剤の除去をするともに、浄水を用いて綿棒で画面のクリーニングを行った。絵具の剥落箇所に水彩絵具で補彩を行った。

<保存>

岸本清子関連資料V（記録媒体）

【状態】

VHSテープ資料9点のうち3点にカビが発生している。

【処置】

状態確認およびテープのクリーニング作業（カビ除去を含む）、VHSからHDデータへの変換、DVDへの収録作業を行った。

北川民次《雑草の如くⅡ》

1948年 油彩・キャンヴァス 162.2×131.0cm

【状態】

裏板なし

【処置】

作品裏面にポリカーボネート板によるバックパネルを取り付けた。

吉川家永《作品一凸》

1966年 油彩・厚紙 178.5×146.5cm

【状態】

絵画表面の一部に白い物質が見られる。

【処置】

絵画層の白い物質が、カビであるのかまたは絵具からの析出物なのかを顕微鏡を用いて入念に観察を行った。観察の結果、カビの胞子は確認できず、油絵具の乾性油に起因する析出物である可能性が極めて高い。また、白色物質の見た目とその形状から、乾性油に含まれる脂肪酸が析出しているものと推測できる。

作品を収集にあたっては、サイズ・材質・形状、作品の状態などの作品に即したデータの採取のほか、作者・作品名・制作年・出品歴・所蔵歴などの作品に係わる歴史・文献的な情報の調査も行っている。これらの情報は、作品研究の基礎となるものであるが、収蔵時にすべてが明らかにできない作品もある。このような作品は、収蔵後も機会あるごとに追跡調査や情報収集を行って、不明な事項や新しい事実を明らかにするように努めている。

(1) 作家表記変更

- ① 現行：横井礼以 よこい れいじ YOKOI Reiji
改訂：横井礼以 よこい れい い YOKOI Reii
理由：調査による

(2) 作家生没年変更

- ① 高畑 郁子 現行：(1929-)
改訂：(1929-2023)
理由：作家の逝去
- ② 野見山暁治 現行：(1920-)
改訂：(1920-2023)
理由：作家の逝去
- ③ 桑山 忠明 現行：(1932-)
改定：(1932-2023)
理由：作家の逝去
- ④ 森 眞吾 現行：(1932-)
改定：(1932-2023)
理由：作家の逝去
- ⑤ 福岡 道雄 現行：(1936-)
改定：(1936-2023)
理由：作家の逝去
- ⑥ 船越 桂 現行：(1951-)
改定：(1951-2024)
理由：作家の逝去

(3) 作品タイトル等変更

- ① 現行：喜多村麦子関連参考資料類 1 朝見香城病気見舞絵巻
改訂：日本語タイトル：喜多村麦子関連参考資料類 1 愛知日本画文化協会よりの病気見舞絵巻
制作年：1944 年
理由：調査による

- ② 現行：小清水漸《夢の浮舟—赤い舟》
改訂：日本語タイトル：《夢の浮舟》
理由：作家による教示

- ③ 現行：鬼頭鍋三郎《舞妓六選 1 正月舞(沙予子)》
改訂：日本語タイトル：《舞妓六撰 1 正月舞(沙予子)》
理由：調査による

- ④ 現行：鬼頭鍋三郎《舞妓六選 2 春(豆葉)》
改訂：日本語タイトル：《舞妓六撰 2 春(荳葉)》
理由：調査による

- ⑤ 現行：鬼頭鍋三郎《舞妓六選 3 祇園祭の頃(豆菊、小萬)》
改訂：日本語タイトル：《舞妓六撰 3 祇園祭の頃(豆菊、小萬)》
理由：調査による

- ⑥ 現行：鬼頭鍋三郎《舞妓六選 4 秋窓(光津恵)》
改訂：日本語タイトル：《舞妓六撰 4 秋窓(光津江)》
理由：調査による

- ⑦ 現行：鬼頭鍋三郎《舞妓六選 5 宵雪(豊千代)》
改訂：日本語タイトル：《舞妓六撰 5 宵雪(豊千代)》
理由：調査による

- ⑧ 現行：鬼頭鍋三郎《舞妓六選 6 先筭(光津江)》
改訂：日本語タイトル：《舞妓六撰 6 先筭(光津江)》
理由：調査による

(4) 作品サイズ変更

- ① 現行：川合玉堂《溪村浅春図》51.5×30.0cm
改訂：(本紙)136.5×41.3cm (軸装)216.0×56.0cm (軸端)61.5cm
理由：調査による(実測)

- ② 現行：木下佳通代《79-1-C》67.0×89.5cm
改訂：62.8×89.5cm
理由：調査による(実測)

収蔵資料貸出（令和5年度）

作家名	作品名	貸出期間・貸出先	展覧会名・展示期間
岡本 太郎	《明日の神話》	令和4年12月23日～令和5年4月15日 愛知県美術館	「岡本太郎大回顧展 一岡本太郎の芸術と人生」 令和5年1月28日～4月2日
甲斐荘 楠音	《女の顔》	令和5年1月29日～令和5年9月9日 京都国立近代美術館 東京ステーションギャラリー	「演じる人・甲斐荘楠音ー絵画・演劇・映画・性を越境する個性」 京都国立近代美術館 令和5年2月11日～4月9日 東京ステーションギャラリー 7月1日～8月27日
	《椅子に倚る女》		
	《砂の女》		
	《畜生塚由来(草稿)》		
マリー・ローランサン	《サーカスにて》	令和5年2月1日～9月4日 Bunkamura ザ・ミュージアム 京都市京セラ美術館 名古屋市美術館	「マリー・ローランサンとモード」 Bunkamura ザ・ミュージアム 令和5年2月14日～4月9日 京都市京セラ美術館 4月16日～6月16日 名古屋市美術館 6月24日～9月3日
マリー・ローランサン	《アポリネールの娘》	令和5年6月24日～9月4日 名古屋市美術館	「マリー・ローランサンとモード」 名古屋市美術館 6月24日～9月3日
	《横たわる裸婦》		
岸本 清子	題不詳(不思議の国アリス) 12点	令和5年2月12日～6月3日 豊田市美術館	「ねこのほそみちー荒野・家・宇宙」 令和5年2月25日～5月21日
	《骰子の自画像》		
	《ナルシスの自画像》		
	《足の自画像》		
	《イエス・キリスト》		
	《赤猫の自画像》		
河野 次郎	題不詳(名古屋時代の習作素描) 1878年 13点	令和5年3月27日～6月14日 愛知県美術館	「近代日本の視覚開化 明治ー呼応し合う西洋と日本のイメージ」 令和5年3月27日～6月14日
	《服制》1880年 20点		
	題不詳(習作素描)n.d. 17点		
	《夫婦之肖像》n.d. 2点		
野崎華年	《衣冠人物図》	令和5年3月24日～令和6年2月17日 千葉市美術館 新潟市美術館 富山県美術館 渋谷区立松濤美術館	「前衛写真」の精神：なんでもないものの変容ー瀧口修造・阿部展也・大辻清司・牛腸茂雄ー」 千葉市美術館 令和5年4月8日～5月21日 富山県美術館 6月3日(土)～7月17日 新潟市美術館 7月29日～9月24日 渋谷区立松濤美術館 12月2日(土)～令和6年2月4日
五姓田 芳柳(二世)	《大兵士》		
坂田 稔【受託作品】	《無題》		
	題不詳(球体と針金による構成)c.1939-40		
	《球体について》		
	題不詳(《球体について》のヴァリエーション)		
	題不詳(筍の断面)		
	題不詳(水滴による構成)		
	《竹に取材せる》		
	《農民家屋に就いて》		
江上明旧蔵資料	下郷羊雄 超現実主義写真集「メセム属」		
庄司 達	《白い布による空間 '68-6》	令和5年4月15日～7月16日 京都国立近代美術館	「RE: スタートライン 1963-70/2023 現代美術の動向展シリーズにみる美術館とアーティストの共感関係」 令和5年4月28日～7月2日
特別資料	『草土社名古屋展覧会目録』1917年	令和5年6月17日～9月9日 愛知県美術館	「幻の愛知県博物館」 令和5年6月30日～8月27日
	『愛美社油絵素描展覧会目録』1919年		
	『第三回愛美社絵画展覧会目録』1921年		

池田 龍雄	《ストリップ・ミル》	令和5年8月23日～11月20日 佐賀県立美術館	佐賀県立美術館 40周年特別展 「あそび、たたかうアーティスト 池田龍雄」 令和5年9月6日～10月29日
	《禽獣記シリーズ その1》		
	《巨食》（禽獣記シリーズ）		
	《街》（街シリーズ）		
	《虫類図譜シリーズ A》		
	《虫類図譜シリーズ B》		
	《虫類図譜シリーズ E》		
	《はじき》（玩具世界シリーズ）		
福田 美蘭	《陶器—スルバランによる》	令和5年9月18日～11月25日 名古屋市美術館	「福田美蘭-美術って、なに？」 令和5年9月23日～11月19日
安井 仲治	《相剋》	令和5年9月22日～令和6年4月27日 愛知県美術館 兵庫県立美術館 東京ステーションギャラリー	「生誕120年 安井仲治 一僕の大切な写真」 愛知県美術館 令和5年10月6日～11月27日 兵庫県立美術館 令和5年12月16日～令和6年2月12日 東京ステーションギャラリー 令和6年2月23日～4月14日
	《街頭断片》		
	《秋風》		
	《子供》		
	《製材所にて》		
	《夕》		
	《砂上》		
	《白衣勇士》		
	《種子と乾く泥》		
	《作品 3》		
川合 玉堂	《秋嶺白雲》	令和5年9月12日～12月23日 名都美術館	「生誕150年記念 川合玉堂 一心に響くノスタルジックワールド」 令和5年10月13日～12月10日
	《溪村浅春図》		
下郷 羊雄	《伊豆の海》	令和5年12月1日～令和6年7月13日 京都府京都文化博物館 板橋区立美術館 三重県立美術館	『シュルレアリスム宣言』100年 「シュルレアリスムと日本」 京都府京都文化博物館 令和5年12月16日～令和6年2月4日 板橋区立美術館 3月2日～4月14日 三重県立美術館 4月27日～6月30日
	超現実主義写真集『メセム属』		
吉川 三伸	《葉に因る絵画》		
眞島 建三	《遍歴》		
山本 勘助(悍右)	《ある人間の思想の発展・・・霧と寝室と》		
	題不詳(《伽藍の鳥籠》のヴァリエーション)		
坂田 稔	【受託作品】《危機》		
	【受託作品】《眼球が流れる》c.1939-40		
江上 明 旧蔵資料	『巴里新興美術展覧会目録』(冊子)1933年6月		
	『Les illuminations(飾画)』(冊子)1937年8月		
	『Les illuminations(飾画)』(冊子)1937年8月		
	『L'ANIMA 第5回 展 MANIFESTE』(リーフレット)		
	『新造型美術協会第2回展覧会目録』(リーフレット)		
	『L'échange surréaliste』(書籍)(山中散生 ボン書店)1936年10月		
	『海外超現実主義作品展』(冊子)1937年		
	『独立美術京都研究所機関紙TOILE 1』(冊子)1933年		
	『ナゴヤアバングルド』(冊子)ナゴヤアバングルドクラブ 1938年6月		
	『Ecole deTokyoエコルド東京 1』(冊子)エコルド東京美術協会 1936年9月		
	新浪漫派関連スクラップブック		

マリー・ローランサン	《横たわる裸婦》	令和5年11月26日～令和6年3月16日 石橋財団アーティゾン美術館	「マリー・ローランサン時代をうつす眼」 令和5年12月19日～令和6年3月3日
	《サーカスにて》		
鬼頭 薗二郎	《風景》	令和6年1月10日～7月20日 栃木県立美術館 長野県立美術館 碧南市藤井達吉現代美術館	「春陽会誕生 100年 それぞれの闘い 岸田劉生、中川一政から岡鹿之助へ」 栃木県立美術館 令和6年1月13日～3月3日 長野県立美術館 令和6年3月16日～5月12日 碧南市藤井達吉現代美術館 令和6年5月25日～7月7日
堀尾 実	題不詳(フォト・コラージュ)	令和6年1月14日～3月31日 岡崎市美術博物館	「レアリスムの視線－戦後具象美術と抽象美術」 令和6年1月27日～3月17日
	題不詳(フォト・コラージュ)		
	題不詳(フォト・コラージュ)		
	題不詳(フォト・コラージュ)		
	題不詳(フォト・コラージュ)		
	題不詳(フォト・コラージュ)		
竹田 大助	《自在天》		
	《弔鐘》		
コンスタンティン・ブランクーシ	《うぶごえ》	令和6年3月11日～7月20日 石橋財団アーティゾン美術館	「ブランクーシ 本質を象る」 令和6年3月30日～7月7日

(1)名称

ゆめ・プレミアムアートコレクション寄附金事業

(2)趣旨

優れた美術品の収集、所蔵作品の修復をするため、寄附金を集めるもの。令和元年度から「東山動物園猛獣画廊壁画修復募金」を開始し、令和5年度に「名古屋市美術館開館35周年」での修復後の壁画の公開を実施した。

(3)寄附金の概要

1 口1,000円以上。特典として、名古屋市外在住の5,000円以上の個人の寄附者には、常設展1年間定期観覧券(大人1,200円)を進呈。

(4)目標額

東山動物園猛獣画廊壁画修復募金として令和5年度までに10,000,000円。(学生向け優待制度の一部金額も含む)※令和4年度に達成済

(5)寄附金受入状況(令和6年3月31日現在)

令和5年度：13件、676,819円

累 計：713件、39,253,344円

(6)寄附金の活用

平成30年度に寄附金13,000,000円を活用し、開館30周年記念作品として、藤田嗣治《ベルギーの婦人》を購入した。

令和4年度から令和5年度にかけて、寄附金9,849,850円を、戦後東山動物園に展示されていた3枚の「東山動物園猛獣画廊壁画」の修復プロジェクトに活用した。

また、令和5年度に開催した福田美蘭展にあわせて、寄附金1,100,000円を活用し、福田美蘭《説教(フランク・ステラによる)》を購入した。

入館者一覧 VISITOR

展覧会名		開催期間	開催 日数 (日)	有 料			無 料			入場者 総 数 (名)
				一般	高大生	有料小計	招待券等	中学生以下	無料計	
常 設 展		令和5年 4月15日(土)～ 令和6年 3月10日(日)	224	6,640	1,580	8,220	151,924	6,094	158,018	166,238
特 別 展	コレクションの20世紀	令和5年 4月15日(土)～ 令和5年 6月14日(日)	44	6,779	783	7,562	2,607	476	3,083	10,645
	マリー・ローランサンとモード	令和5年 6月24日(土)～ 令和5年 9月3日(日)	63	24,278	3,141	27,419	6,449	2,638	9,087	36,506
	福田美蘭—美術って、なに？	令和5年 9月23日(土)～ 令和5年 11月19日(日)	50	15,653	1,120	16,773	4,787	1,305	6,092	22,865
	ガウディとサグラダ・ファミリア展	令和5年 12月19日(火)～ 令和6年 3月10日(日)	67	130,442	9,358	139,800	13,403	10,499	23,902	163,702
	特 別 展 小 計		224	177,152	14,402	191,554	27,246	14,918	42,164	233,718
合 計				183,792	15,982	199,774	179,170	21,012	200,182	399,956
								教育普及事業参加者 (展示室内参加者を除く)	15,698	
								総 計	415,654	

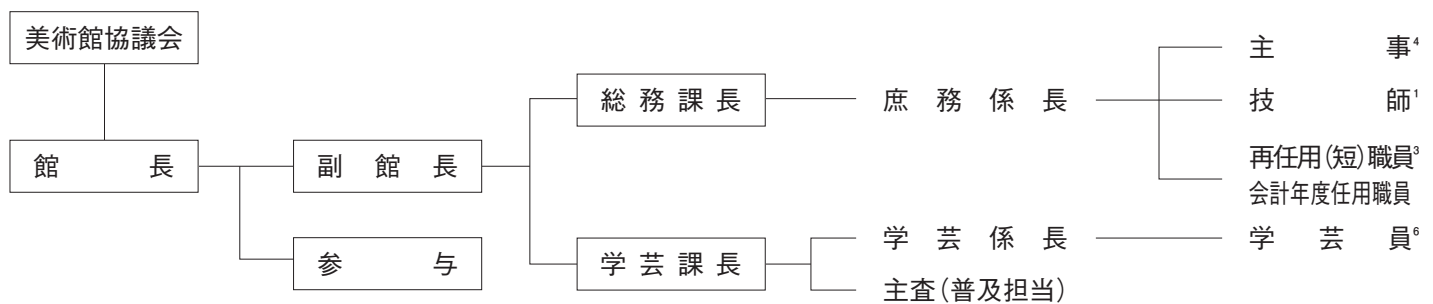
〈年度別入館者数等〉

区 分			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	累 計
展 覧 会	常 設 展	開催日数	81日	239日	168日	224日	9,281日
		入場者数	6,965人	67,739人	96,033人	166,238人	4,433,739人
	特 別 展	開催日数	50日	289日	168日	224日	7,371日
		入場者数	5,683人	178,549人	151,718人	233,718人	8,853,720人
	入 場 者 小 計		12,648人	246,288人	247,751人	399,956人	13,287,459人
	教育普及事業参加者			676人	6,808人	6,564人	15,698人
入 館 者 合 計			13,324人	253,096人	254,315人	415,654人	14,035,211人

組織・予算 (令和6年3月31日現在)

ORGANIZATION, STAFF AND BUDGET

1 組織図



2 美術館協議会

(1)名古屋市美術館協議会委員

名古屋市立北山中学校長	庄司 直美	愛知県私学協会文化部長	坂 美好
愛知県立旭丘高等学校長	小林 整次	公益財団法人名古屋市文化振興事業団専務理事兼事務局長	眞野 隆久
名古屋市立大学大学院人間文化研究科教授	宮下さおり	名古屋市地域女性団体連絡協議会書記	広瀬多恵子
名古屋市立小中学校PTA協議会理事	森 奈津美	公募委員	豊田 明子
愛知県立芸術大学美術学部准教授	金子智太郎	名古屋商工会議所文化・観光委員会副委員長	小山 真人
愛知県美術館長	拝戸 雅彦	名古屋造形大学教授	濱田 樹里
名古屋造形大学教授	高橋 綾子	日本旅行業協会審議役	松本 博

(2)名古屋市美術館協議会開催状況

日 時	協 議 題
第1回定例会 令和5年10月20日(金) 10時～12時	○令和4年度事業実施結果について ○令和5年度事業実施状況について
第2回定例会 令和6年1月31日(水) 10時～12時	○令和5年度事業実施状況について ○令和6年度事業計画(案)について

3 職 員

館 長	津坂 昌樹	学芸課長	井口 智子
参 与	深谷 克典	学芸係長	保崎 裕徳
副 館 長	中馬 英和	主査(普及)	近藤真由美
総務課長	稲葉 隆司	学 芸 員	清家 三智
庶務係長	豊田 禎和		近藤 将人
主 事	丹羽 恭子		森本 陽香
	川上 英美		勝田 琴絵
	木村 進也		久保田舞美
	黄 直子		竹葉 丈
技 師	平野 晃成		
再任用(短)職員	秦 久美子		
会計年度任用職員	千田 智治	会計年度任用職員	村尾香織
	野並リーザ		

4 運営予算

総予算費	内 訳	
270,170千円	特別展関係費	87,750千円
	常設展運営費	24,609千円
	資料関係費	10,469千円
	教育普及事業費	7,224千円
	調査研究費	389千円
	管 理 費	139,729千円

令和5年度名古屋市美術館年報

発行日

令和6年12月

編集・発行

名古屋市美術館

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番25号
(芸術と科学の杜・白川公園内)

TEL 052-212-0001

FAX 052-212-0005

名古屋市美術館

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番25号

Tel.052-212-0001 Fax.052-212-0005